湯上谷古窯跡

発掘調査報告書

1990

石川県小松市教育委員会

湯上谷古窯跡

石川県小松市教育委員会

例　　言

1．本書は、石川県小松市湯上町に所在した、湯上谷古窯跡の発掘調査報告書である。

2．調査は、小松市湯上町土地区画整理事業の実施に伴い、小松市教育委員会が行った緊急発掘調査である。

3．発掘調査は、平成元年９月26日から12月６日にかけて行い、望月精司が担当した。

4．出土品整理及び報告書作成は宮下幸夫・望月が担当し、下記各氏の協力を得た。

〈遺物の洗浄・注記・分類・復元〉　打田外喜代、上野昌子、山口美子、伊藤節子、中村環
針田かおる、平井則子、小長谷久美子、

〈遺物の実測〉　樫田佐和子・江野直子

〈遺物の拓本〉　打田外喜代

5．報告書の編集及び執筆

本書の編集は、小村茂指導のもと、宮下・望月が担当した。

執筆は、第１章・第４章・第５章を宮下が、第２章・第３章を望月が担当した。

6．本書で示す方位は、すべて磁北である。尚、第１図には国土地理院発行25,000分の１地形図（昭和62年発行「小松」「動橋」）を使用した。

7．調査の実施及び報告書作成にあたっては、以下の方々、機関、団体から御協力と御指導を賜った。記して謝意を表したい。（敬称略　50音順）

垣内光次郎　田嶋正和　近間　強　鶴巻康志　藤田邦雄　山本長典

有川測量設計事務所　　石川県立埋蔵文化財センター　　小松市湯上町土地区画整理組合

8．発掘調査・出土品整理・報告書印刷の費用は、小松市湯上町土地区画整理組合が全て負担した。

目　　次

例　言

第１章　位置と環境 …… 1

第２章　調査に至る経緯と調査概要 …… 4
　第１節　調査に至る経緯 …… 4
　第２節　調査概要 …… 4

第３章　遺　　構 …… 6

第４章　遺　　物 …… 9
　第１節　器種の構成 …… 9
　第２節　各器種の概要 …… 9
　第３節　押印等について …… 37

第５章　ま と め …… 44

土器観察表 …… 47

写真図版

第１章　位置と環境

石川県の加賀地域は、白山大汝峰に源を発し、美川で日本海に注ぐ県内最大の河川である手取川により北加賀と南加賀に分けられる。いわゆる南加賀は、西に日本海、東に白山前山丘陵を形成する能美・江沼の両丘陵に挟まれた地域で、南に橋立台地と白山前山丘陵に挟まれた江沼盆地、北に手取川と梯川に挟まれた能美平野が広がる。

この江沼盆地と能美平野の中間位置に柴山潟・今江潟・木場潟（現在、今江潟の全面と柴山潟の４割が干拓により消失）からなる加賀三湖とこれにより形成された潟埋積平野・三湖台地が広がり、東南を白山前山丘陵と境を接し、いたるところで小谷を形成している。加賀温泉郷の一つである粟津温泉は、林町より東南方にのびる谷の中程に位置している。本窯跡は、粟津温泉の西の端近くの湯上町から南に入る小支谷、通称ユノカミダニの西斜面に立地している。

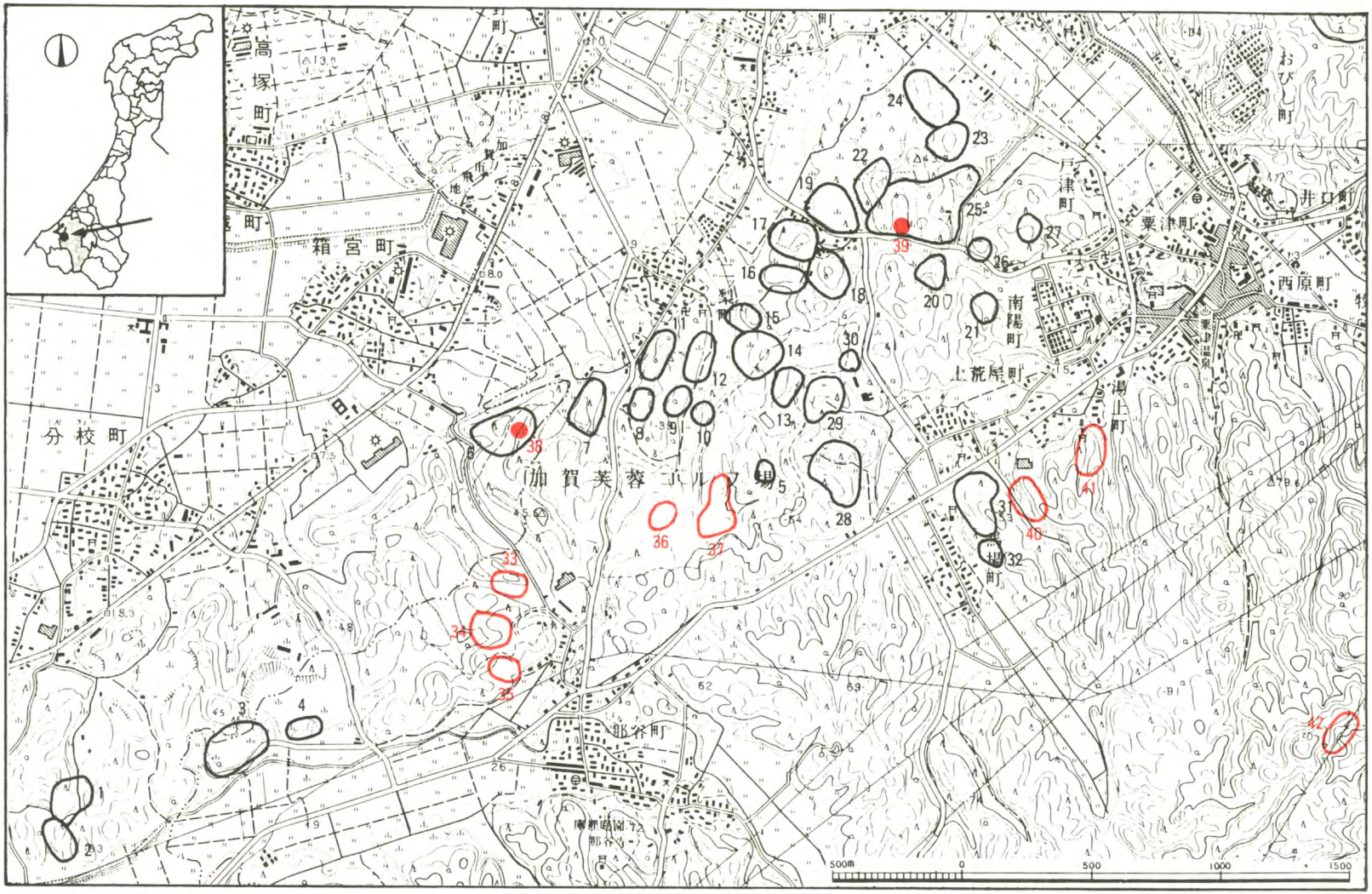
本窯跡は、南加賀古窯跡群に含まれるものであり、近年の分布調査によって発見された瓷器系中世陶器窯跡で、８基以上の規模を有するものと考えられている。

南加賀古窯跡群は、白山前山丘陵のうち、江沼盆地の東端をなす動橋川とその支流の那谷川及び加賀三湖の木場潟に注ぐ馬場川の開析により形成された、標高40～100ｍの低丘陵地帯に存在する須恵器・埴輪・土師器・瓷器窯跡を総称したもので、県内最大の規模をもつ。

この窯跡群の出現は、ほぼ６世紀初頭頃と考えられ、二ツ梨東山４号窯跡がこの時期に相当すると思われる。以後、生産を拡大して行くが、最も栄える時期は８世紀の前半頃で、窯場の拡大に伴って窯跡数が急増する。これ以後はやや減少するものの、戸津町周辺において存続し、９世紀の終わり頃にこの地域を中心として生産が再興され、生産量は爆発的に増加し、再び盛期を迎える。当古窯跡群での須恵器生産は、10世紀を最後に見られなくなる。

瓷器系中世陶器（加賀古窯製品－加賀古陶）の生産は、須恵器生産の終了から現在までのところ二世紀近く後の12世紀末に開始されたと考えられる。二ツ梨オクダニ窯で操業が開始され、那谷カナクソダニ窯に移り、その後生産地点が分散したと考えられる。更に後の那谷ダイテンノウダニ窯の時期に至り拡大的な展開を迎え、大甕の量産化が認められる。次の時期は、生産が安定した展開をみせていて、那谷カミヤ窯と本湯上ユノカミダニ窯がこれにあたる。後、生産がユノカミダニ窯に集約され、上荒屋ハカンタニ窯に分散した後、西荒谷カマンダニ窯に移転し、14世紀末頃かおそくとも15世紀の初め頃に操業が停止すると現在は考えられる。

現在までに確認・想定される加賀古窯の窯跡数は、二ツ梨オクダニ窯３基、那谷カナクソダニ窯１基、那谷コテンノウダニ窯２基、箱宮ドウガヤチ窯２基、那谷ダイテンノウダニ窯５基、戸津トズ13号窯１基、那谷カミヤ窯５基、湯上ユノカミダニ窯８基、上荒屋ハカンタニ窯２基、西荒谷カマンダニ窯２基の31基である。



黒色――古代　赤色――中世

第１図　南加賀古窯跡群窯跡分布図（Ｓ＝1/25,000）

No.	窯跡群名	備考
1	分校	1972　大聖寺高校郷土研究部調査（1～3号窯）
2	松山	
3	那谷金比羅山	1982.83.84　県埋蔵文化財センター調査（1～11号窯）
4	那谷桃の木山	1978　小松市教委調査（1～2号窯）
5	二ツ梨カセイデ	
6	箱宮ドウガヤチ	1969　大聖寺高校郷土研究部調査（5号窯）
7	矢田野ナガオヤマ	
8	矢田野向山	1986　小松市教委調査（1号窯）
9	二ツ梨ワキガマ	
10	二ツ梨横川	1988　小松市教委調査（灰原部分）
11	二ツ梨ガマダニ	
12	二ツ梨東山	1984　小松市教委調査（1～5号窯）
13	二ツ梨サンマイダニヤマ	
14	二ツ梨トウゲヤマ	
15	二ツ梨マルヤマ	
16	二ツ梨トノサマイケ	埴陶兼業窯（1～3号窯）、土師器窯（4～6号窯）
17	二ツ梨豆岡山	1981　小松市教委調査（1号窯）
18	二ツ梨マメオカムカイヤマ	1983　小松市教委調査（1～3号窯灰原部分）、瓦陶兼業窯
19	二ツ梨一貫山	1970　小松市教委調査（1・2号窯）、土師器窯（8・9号窯）
20	戸津オオタニ	
21	戸津アナヤマ	戸津2号窯　北陸大谷高等学校地歴クラブ調査
22	戸津六字ケ丘	1982.86　小松市教委調査（1～4号窯）
23	林オオカミダニ	1988.89　県保存協会調査（1・2号窯）
24	林タカヤマ	須恵器窯跡・製鉄跡・炭窯との複合遺跡であるため林遺跡と呼称する。
25	戸津トヅ	1974　県・市・戸津古窯跡調査委員会調査（5号窯） 1975　小松市教委調査（9号窯） 1981～84　小松市教委調査（須恵器窯24基、土師器窯1基、中世窯1基、炭窯1基）
26	戸津ワクダニ	戸津1号窯　北陸大谷高等学校地歴クラブ調査
27	戸津ショウガダニ	
28	上荒屋ジャモンダニ	
29	上荒屋サンマイダニ	
30	上荒屋	
31	上荒屋ホウジョウヤマ	1986　小松市教委調査（3号窯）瓦陶兼業窯（1号窯）
32	馬場ニカヤマ	
33	那谷コテンノウダニ	1969　北陸大谷高等学校地歴クラブ調査 1977　小松市教委調査
34	那谷ダイテンノウダニ	1973　小松市教委調査（1・2号窯）
35	那谷カミヤ	1977　小松市教委調査
36	那谷カナクソダニ	1969　北陸大谷高等学校地歴クラブ調査（那谷1号窯）
37	二ツ梨オクダニ	1969　北陸大谷高等学校地歴クラブ調査（奥谷1号窯）
38	箱宮ドウガヤチ	1969　大聖寺高校地歴クラブ調査（1号窯）
39	戸津トヅ	1981　小松市教委調査（13号窯）
40	上荒屋ハカンタニ	
41	湯上ユノカミダニ	本書報告（灰原部分）
42	西荒谷カマンダニ	

注）窯跡群名については、原則として地名の後に字名等をカタカナで付して表記した。ただし、現在までに発掘調査が実施されたものについては既知の名称を用いた。この名称については、小松高等学校地歴部・近間　強氏の業績に基づくものが大きい。

第２章　　調査に至る経緯と調査概要

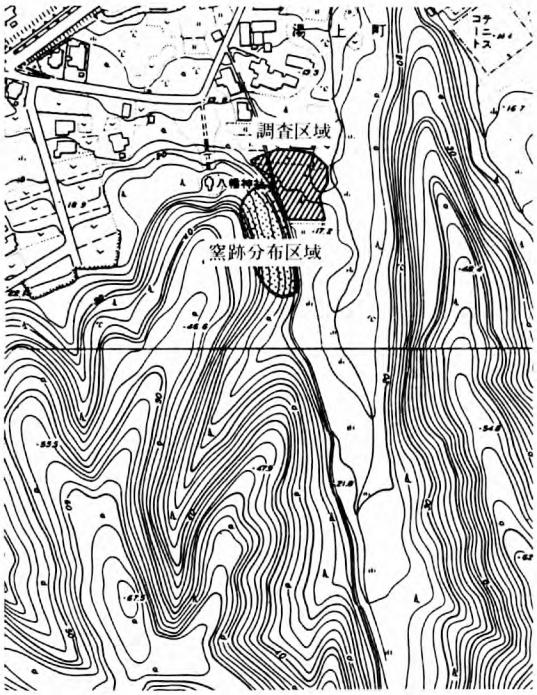
第１節　　調査に至る経緯

湯上谷古窯跡は、昭和61年に石川県立小松高等学校地歴部の顧問であった近間強氏の指導のもと地歴部が行った、小松丘陵窯業遺跡分布調査において発見された窯跡である（近間強他「小松丘陵窯跡群分布調査報告Ｉ」『石川考古学研究会会誌』第31号　石川考古学研究会1988）。これを受けて、小松市教育委員会でも同年に踏査を行い、窯跡の確認をしている（『市内遺跡詳細分布調査報告書Ｉ』　小松市教育委員会1987）が、この調査も谷部の排水溝に露出した土器を採集する程度のもので、詳細な分布調査は行っていない。ただし、丘陵斜面上において窯体の陥没と思われるような窪みが多数確認できており、窯跡の存在する場所を予想することができた。

昭和63年12月に小松市湯上町土地区画整理組合より、この丘陵下方の谷部を対象とした土地区画整理事業の協議書が提出された。谷部に関しては、灰原の存在する可能性が高く、他の遺構も発見される可能性があったため、用地全域（20,371㎡）を対象とした試掘調査を実施する必要性がある旨を回答した。

試掘調査は、平成元年１月10日に実施した。方法は、谷部両側の丘陵裾を中心として10本のトレンチを設定、重機による掘り下げを行った。この結果、窯跡の存在する丘陵下の区域で、1,000㎡程度の範囲に中世陶器の分布が確認され、この区域を対象として発掘調査を実施することとなった。

事業経費は、調査費・整理費ともに全額小松市湯上町土地区画整理組合の負担で行うこととなり、平成元年９月26日に小松市と小松市湯上町土地区画整理組合で委託契を締結した。



第２図　調査区域図　（Ｓ＝１/5,000）

第２節　　調査概要

調査は平成元年９月26日より開始した。まず、調査区域内は湧水が著しく、調査に支障を来す

ため、掘り下げ前に調査区域内の谷奥部側に１ｍ幅の溝を切り、排水が円滑に行われるようにした。また、区域内には農道が存在していたため、その表土除去は重機を使用して行った。

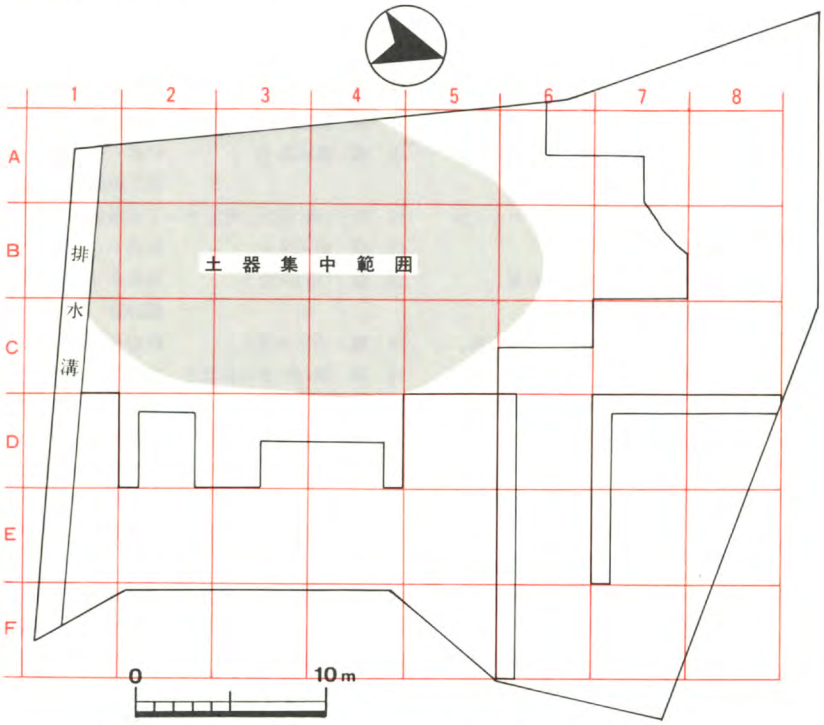
調査方法は、試掘調査で確認した1,000㎡の区域を対象として、５ｍ×５ｍのグリッドを設定し、試掘調査において特に遺物が密に出土した１Ａグリッドから掘り下げを開始した。掘り下げは現況面から人力で行ったが、灰原の検出を目的として層位ごとに掘り下げた。掘り下げの際に出土した遺物は、５ｍ×５ｍグリッド内を更に４分割（左上から順に１～４とナンバーリング）した2.5mメッシュで層位ごとに取り上げ、その集中している部分では出土状態を写真撮影した。

また、土層観察のため、縦に２．３．５ライン、横にＢ・Ｄラインのセクションベルトを設定し、写真撮影及び土層断面図作成を行った（縦５ラインは紙面の都合上割愛した）。

グリッドの掘り下げは遺物の集中している１Ａグリッドから順に拡げていく形を採ったが、縦ではＤラインより、横では６ラインより徐々に遺物の出土が希薄となったため、それ以降については千鳥掘りまたはトレンチ掘りで行った。

以上の掘り下げ終了後全景写真を撮影し、その区域の全体図を作成して平成元年12月６日をもって発掘調査を完了した。

出土品整理は、平成元年12月１日より着手した。出土品の総量がパンケース150箱以上にも及ぶ予想を遥かに上回る量であったが、翌３月10日までに洗浄・注記・接合の作業を終え、３月31日をもって整理作業を完了した。



第３図　調査区域内グリッド配置図　（Ｓ＝１/400）

第3章　遺　構

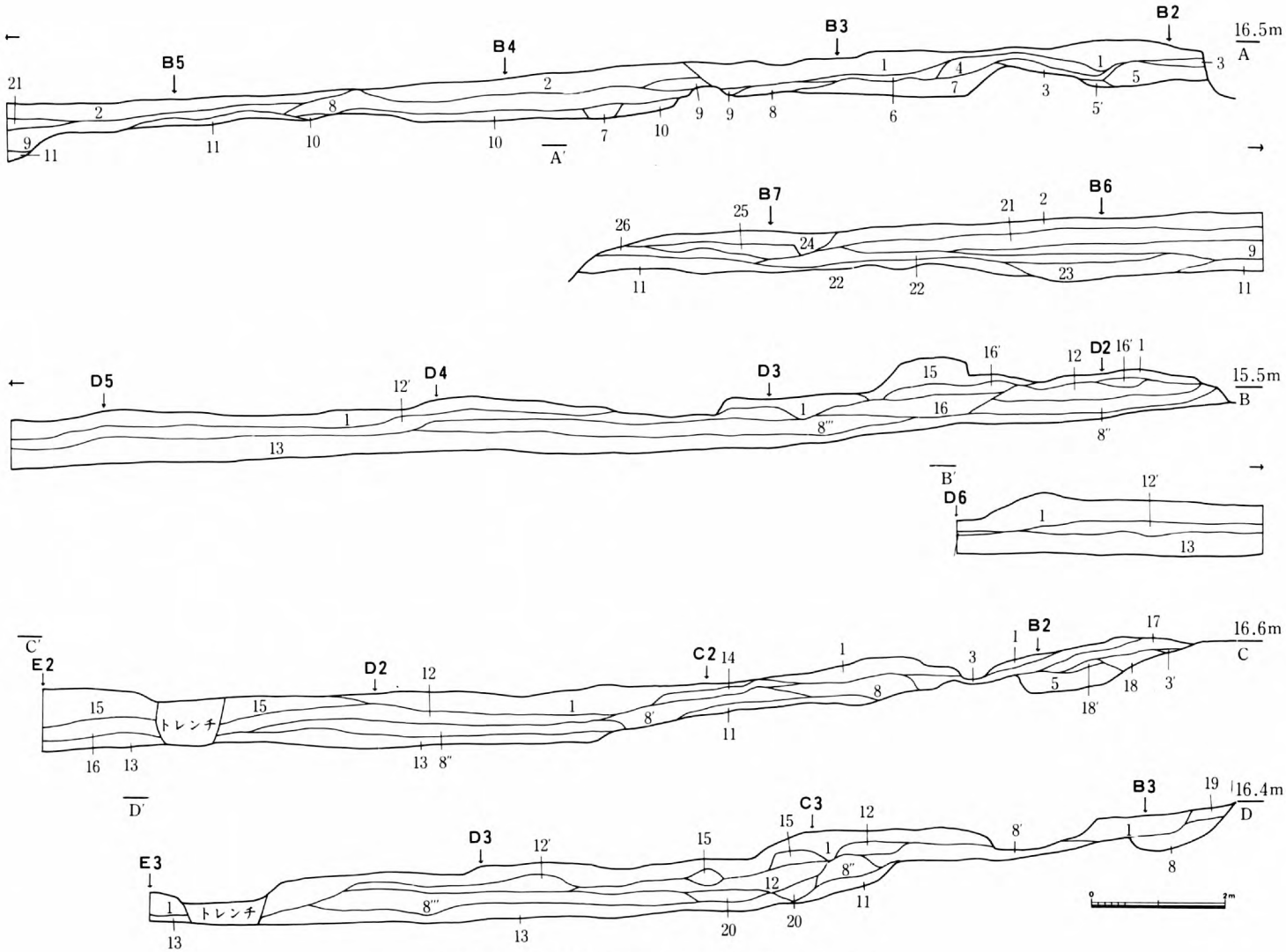
今回の調査においては、「物原」的な中世陶器を多数包含する層(灰原)は検出されたものの、灰層のような黒色灰を含む土層は確認されなかった。調査区域内の土層は第4図の断面図に示すように、全体的に山側から谷側に、つまり北に向かって土が流れている状況が観察できる。そして、その土層の多くは丘陵地山の砂を含んだ土で、丘陵斜面上の土がかなり流れ込んでおり、その土の流れに伴って、窯跡灰原が流れ込んできたものと考えられる。また、最上層の土は以前行われた開田や耕地整理の際の耕作土で、この土がかなり下まで入っており、多くの中世陶器を含んでいる。

中世陶器の出土は、比較的地山に近い層で多く、1A～4A、1B～5B、2C～4Cの範囲で多く分布している。また、標高16.25mと15m付近で等高線に沿うような形で、緩い落ち込み状の段が確認でき、段の下に多くの中世陶器がたまっていた。この分布の状況から土層の流れと同様、1Aグリッドから北に向かって希薄になる傾向が見られる。

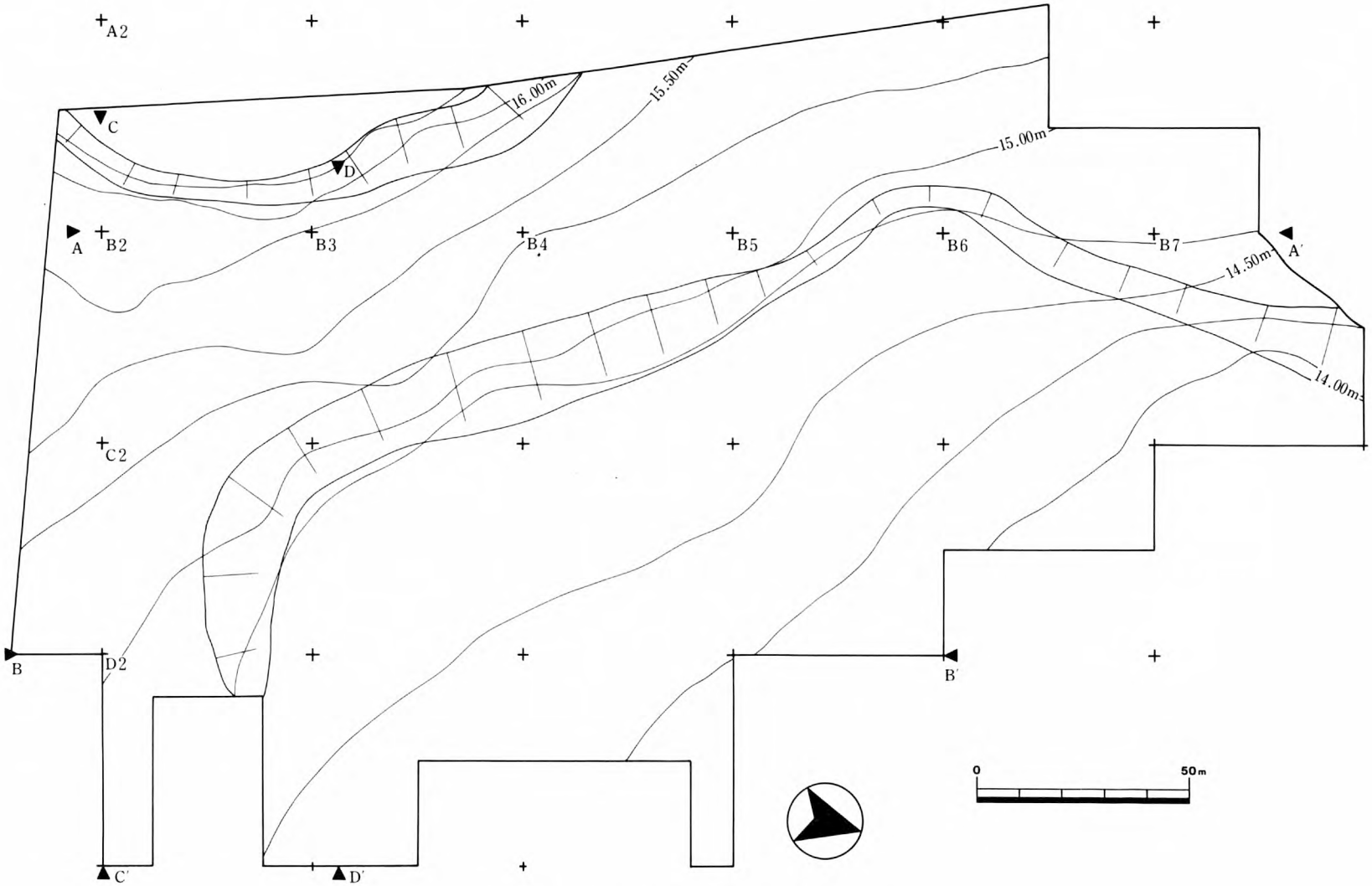
これら以外に、窯跡に伴うような遺構は確認されなかったが、2A・3Aグリッド付近と、1Fグリッド付近で多くの鉱滓が採集されている。この鉱滓の形状から、箱型炉に伴う製錬炉滓であると考えられる。出土量から考えればその近辺に製鉄炉本体が存在すると予想される。

《土層説明》

1　層：(暗)褐色土　耕作土?
2　層：農道構築の際の盛土
3　層：灰褐色砂質土　窯壁ブロック、赤・青粒子含有
3'層：　〃　黄色粘土若干混在
4　層：暗灰色土　軟岩チップ多量、窯壁ブロック少量含有
5　層：暗灰(褐)色土　赤・青色粒子含有、弱砂質
5'層：黒灰(褐)色土　赤・青色粒子多量含有
6　層：灰褐色土　軟岩チップ・青色粒子少量含有、弱砂質
7　層：黒色粘質土　窯壁・黒色粘土ブロック少量含有
8　層：青灰色砂質土　青色粒子多量・黒色粘土ブロック少量含有
8'層：暗青灰色砂質土　青色粒子多量・黒色粘土ブロック少量含有
8"層：暗青灰色土　軟岩チップ通有量含有、弱砂質
8"'層：(青)灰色土　軟岩チップ少量含有、弱砂質
9　層：灰色土　小礫含有、砂質おびる
10　層：青灰色砂質土　黒色粘土ブロック・小礫多く含有
11　層：黒灰色粘質土　青・白色粒子多量含有
12　層：(暗青)灰色土　軟岩チップ・黄土粒子少量含有
12'層：淡(青)灰色土　軟岩チップ・黄土粒子少量含有
13　層：暗(青)灰色土　軟岩チップ少量含有
14　層：黄色砂質土　小礫多量含有
15　層：淡灰色土　軟岩チップ極めて多量・カーボン粒子少量含有、弱砂質
16　層：(暗)灰色土軟岩チップ多量含有、弱砂質
17　層：暗灰色土　軟岩チップ青色粒子少量含有
18　層：(暗)灰色土　軟岩チップ・青色粒子少量含有、弱砂質
18'層：灰色砂質土　軟岩チップ・青色粒子少量含有
19　層：黒(青)灰色砂質土　黄色粘土ブロック多量含有・青・赤ブロック多く含有
20　層：(青)灰色砂質土　小礫多量含有
21　層：黒灰色土　軟岩チップ多量・カーボン・赤色粒子少量含有
22　層：(青)灰色砂質土　青色礫多く・窯壁ブロック少量含有
23　層：暗灰(褐)色砂質土　青色礫多く含有
24　層：暗褐色土　黄土ブロック多量含有
25　層：灰褐色粘土　軟岩ブロック含有
26　層：暗灰色砂質土　軟岩ブロック多く・カーボン粒子少量含有



第４図　調査区域土層セクション図（S＝1/100）



第５図　調査区域内掘り下げ後地形（Ｓ＝１/100）

第4章　遺　物

今回の調査で出土した遺物は、ほとんどが中世陶器のいわゆる加賀古窯製品であり、湯上谷窯跡の灰原から出土したものである。出土量は、遺物箱（パンケース）で約170ケース、破片数で31,291点を数える。器種は、甕・壷・鉢の3種であり、中世陶器通有の器種構成である。

第1節　器種の構成

器種構成については、破片数計測法と口縁部計測法、個体識別法（宇野1988）でその比率を出す方法があるが、本中世陶器の場合、甕と壷の胴部破片はその調整方法等では区別がつかないため、今回は口縁部計側法によってその比率を出してみた。しかし、今回の調査は、灰原全てではなく、窯体も未調査であることをおことわりしておく。

総破片数31,291点のうち、口縁部の破片は2,336点と7％にすぎない。そのうち甕は1,893点と最も多く81％を占め、ついで鉢の296点（12.7％）、壷の147点（6.3％）である。

甕は、口径の大きさにより大・中・小に分けられ、壷も同様に大・中・小に分けられる器種が存在している。尚、甕と壷の区別については、器高に対し口径の割合が大きいものを甕、小さいものを壷としているが、特に小甕について器高が不明の場合、口縁形態で便宜上一応の区別を行なった。口縁端部がいわゆるN字形或いはその類似形状を呈し、口縁部内側に凹（稜）があるものをここでは甕とした。

第2節　各器種の概要

1．甕（第6～20図）

甕は、口縁形態によりA～H類に分けた。また、容積により大・中・小と分かれるが、出土した遺物は破片であり、全体の形をうかがいしれないため、便宜上口径により、大甕、中甕、小甕の3器種に分けた。口径50cm内外以上を大甕、それ以下35cm位までを中甕、35cm位以下を小甕とした。しかし、後述するが本古窯跡の製品であり、数少ない消費遺跡での完形品である牧口出土の甕は、口径48.0cmであるが、実物を見たかぎりでは大甕の部類に入るので、この分類はあくまでも便宜上であることをおことわりしておく。

以下、各類の概要を述べる。口縁部を作る際の基本は、一旦外へ引き出し、それから端部の処理を行なうものと考える。B類からはこの端部の形態を分けたものである。

尚、このような分類を行ったが、厳密にははっきり分けられない中間的形態も存在している。

甕A類　口縁部を引き出しただけのものである。端部内側に凹のあるものとないものが認められる。

甕B類　端部を押さえただけのもの。

甕C類　端部を上へ折った（引き上げた・つまみ上げ　以下「引き上げ」と呼称する）もので、比較的上端部は厚ぼったい。これには引き上げただけのもの（C_1類）、端部の外側面を押さえてあるいは摘んで下に張りださせる（垂れ下る）もので、張り出しの小さいもの（C_2類）、同張り出しの大きいもの（C_3類）と分けられる。このうちC_2類は、押さえただけのものと考えられることもできる。

甕D類　C類と同じく引き上げたもので、上端部は厚くないもの。これも上記と同じく3類に分けられる。

甕E類　口縁端部をさらに押さえて、押しつぶした感じのもの。

甕F類　口縁端部の下側の押えが強く、端部が垂直立つものから外傾するもの。

甕G類　口縁端部を押したもので、縁帯の幅のせまいもの。

甕H類　縁帯の幅のせまいもので、引き出しの強いもの。

このG・Hの各類は、縁帯の幅のせまいもので、大甕では見られず、中・小甕ので見られるものである。

1）大甕（1～44）

A類は、12・13・43である。12は口縁部を引き出し、端部をナデている。43は端部をつまんでナデ、内側に凹が認められる。13は端部を弱く引き出し、そのままやや引き上げ、内側はナデによる凹が認められる。端部は厚ぼったく、甕A類としたが甕B・C類との中間的要素が強いものである。

B類は、2・14・15・44である。2は口径67.3cmを測るものである。端部をやや強く押えただけで上下に張り出さしていて、上端部は厚ぼったいものである。14も口径64.6cmを測る大きなものである。15と同様端部を更に強く押え、外側がやや凹んでいる。また、上端部もやや強くつまみナデているため内側に凹がめぐっている。44は2と同様端部外側はほとんど凹んでなく、上端部は厚ぼったいが、内側の凹は強い。

C類は、前述のように3類に分けられる。

C_1類は、1・3～5・16～19である。1は口径69.2cmを測るものであり、端部をつまんでナデているため　内側にはナデによる凹みがめぐり、外側も凹がみられる。その他は引き上げが強く内側の凹が明瞭（鋭角）になっている。

C_2類は、6～8・20・24・28である。6・20は上端部を押えすぎたためか内傾しており、外側面は出っぱっている。8は下端部を摘んでナデているだけであるが、7は摘んで強く押さえているため下方の張り出しはやや大きくなっていて、外側面も凹んでいる。28は1と同様に内側と外

側にナデによる凹がみられる。本類に入れたがB類の範疇であるかもしれない。

C_3類は、9～11・21・23・25～27である。10は口径76.2cm・11は口径77.0cmを測るもので本調査で出土したものの中ではもっとも大きなものである。本類は、C_2類より更に強く外へ引き出し、また外側面を強く押さえていて、下方への張り出しが大きいものであり、25～27でこの傾向が一層顕著である。また、9・21・23は本類に入れたが、上端部があまり厚くないため、D類との中間的器種の可能性がある。

D類も前述のように3類に分けられる。本類にはいわゆるN字状口縁が含まれる。

D_1類は、36・38である。36は本類に入れたがC類に近いものである。内側に明瞭な凹がみられ、上端部はやや厚い。38は内側にナデによるゆるい凹がみられ、外側面はほぼ直線的で立っている。

D_2類は、29・30・35・37である。29は端部はやや厚ぼったいが、本類に入るものと考える。外側面にはナデによる小さな凹凸が認められるが、ほぼ直線的でやや内傾している。内側の凹はナデによる指先のカーブと考えられる。30は下端部は比較的厚く、丸みをもっているが、35のそれは細くスマートである。両者とも外側面は内傾している。37は縁帯の幅が比較的小さいもので、外側面も直線的で直立している。

D_3類は、22・31～34・39である。22は外側面が内傾していて、小さな凹は認められるものの直線的である。端部下端はやや厚ぼったい。31は38の下端部を張りださせたものと考えられる。32はやや縁帯の幅が狭く、また外側面がほぼ直立しているが本類に入ものと考える。33・34は若干端部処理に相違があるが、基本的には同じと考えられ、N字状を呈している。39は下端部は鋭角的に尖っている。本類も外側面は基本的に内傾している。

E類は、40・41である。40はまだそれほどでもないが、41は端部を強く押さえて。押しつぶした感じのものである。いずれも外側面は内傾している。40の外側面はナデによる凹凸がややみられるが、41はほぼ直線的である。

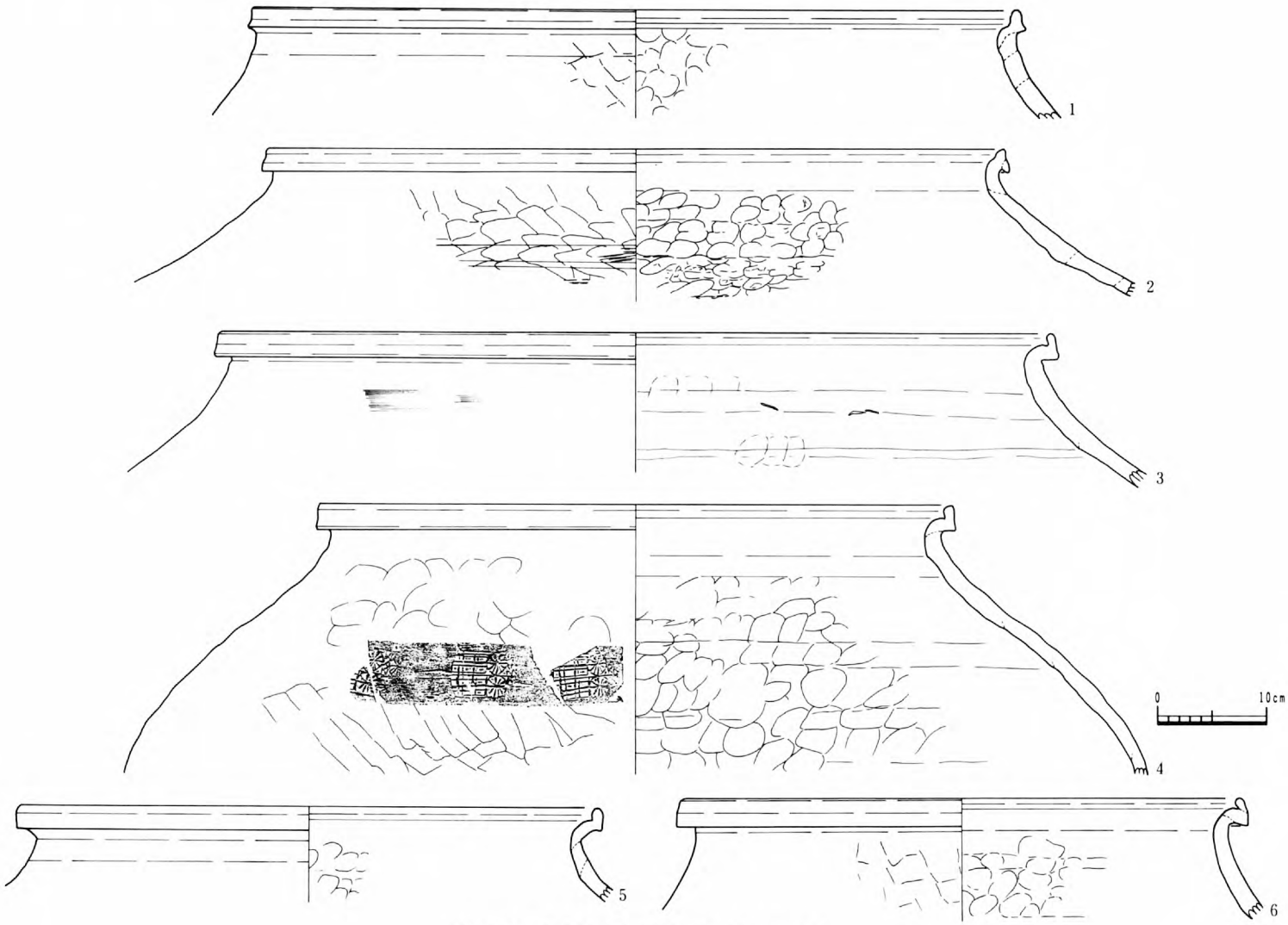
F類は、42である。42の外側面はほぼ直線的で、また、やや内傾しているが直立に近いものである。本類はE類をさらに押さえたものと考えられる。

2）中甕（45～95）

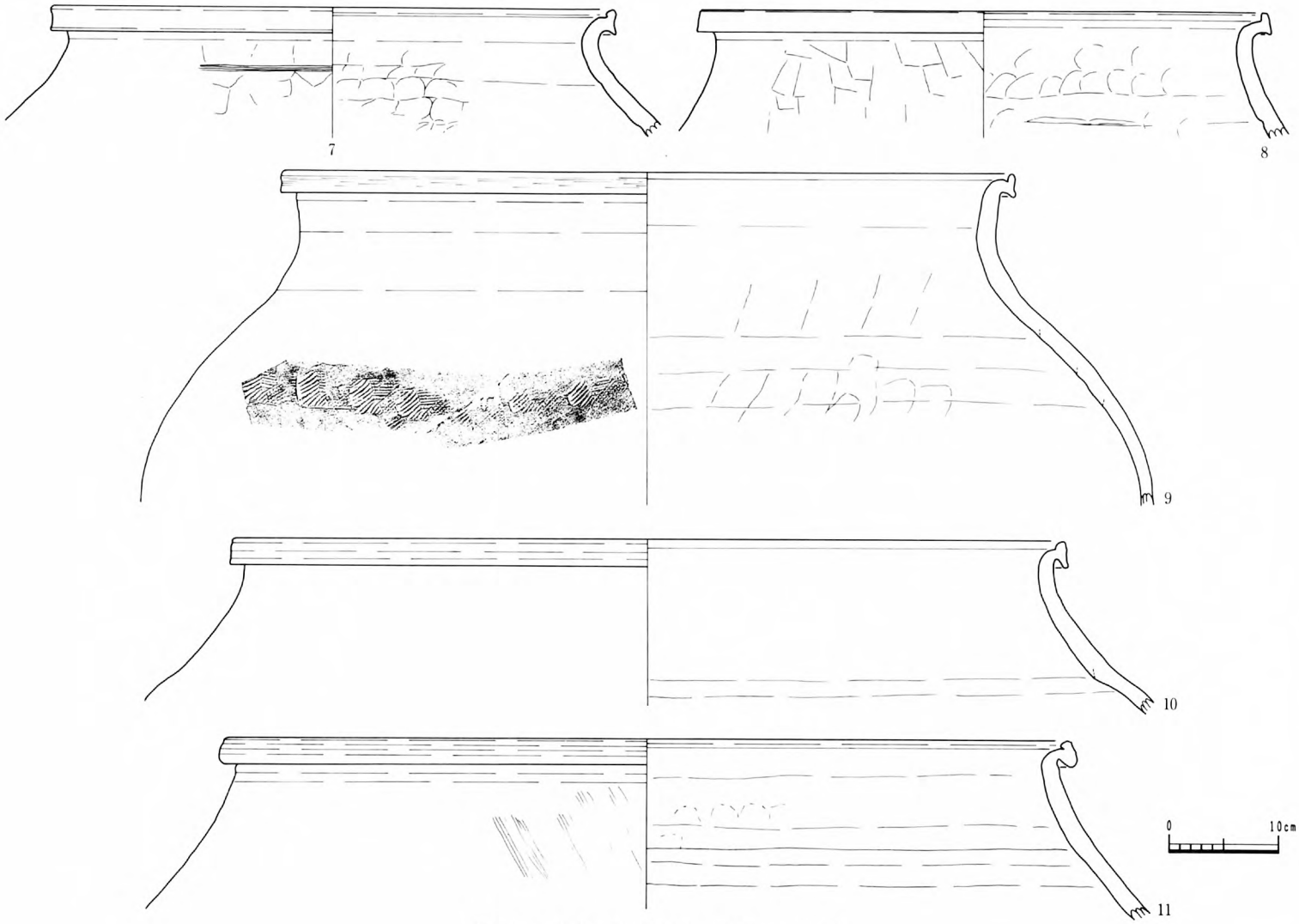
A類は、45・46である。45は端部内側にナデによる弱い凹がめぐっている。縁帯はほとんどみとめられず、ただ引き出してナデただけである。46は引き出して上を摘んでナデていて、端部内側には明瞭な凹がめぐり、また、外側もやや凹んでいる。本品はA類に入れたが、B類との中間的器種と考えられる。

B類は、47・48・87である。47は端部を押さえただけであり、外側面は凹んでいる。48・87は端部を押さえて、更に上へ若干引き上げたものである。外側面は内傾し直線的である。

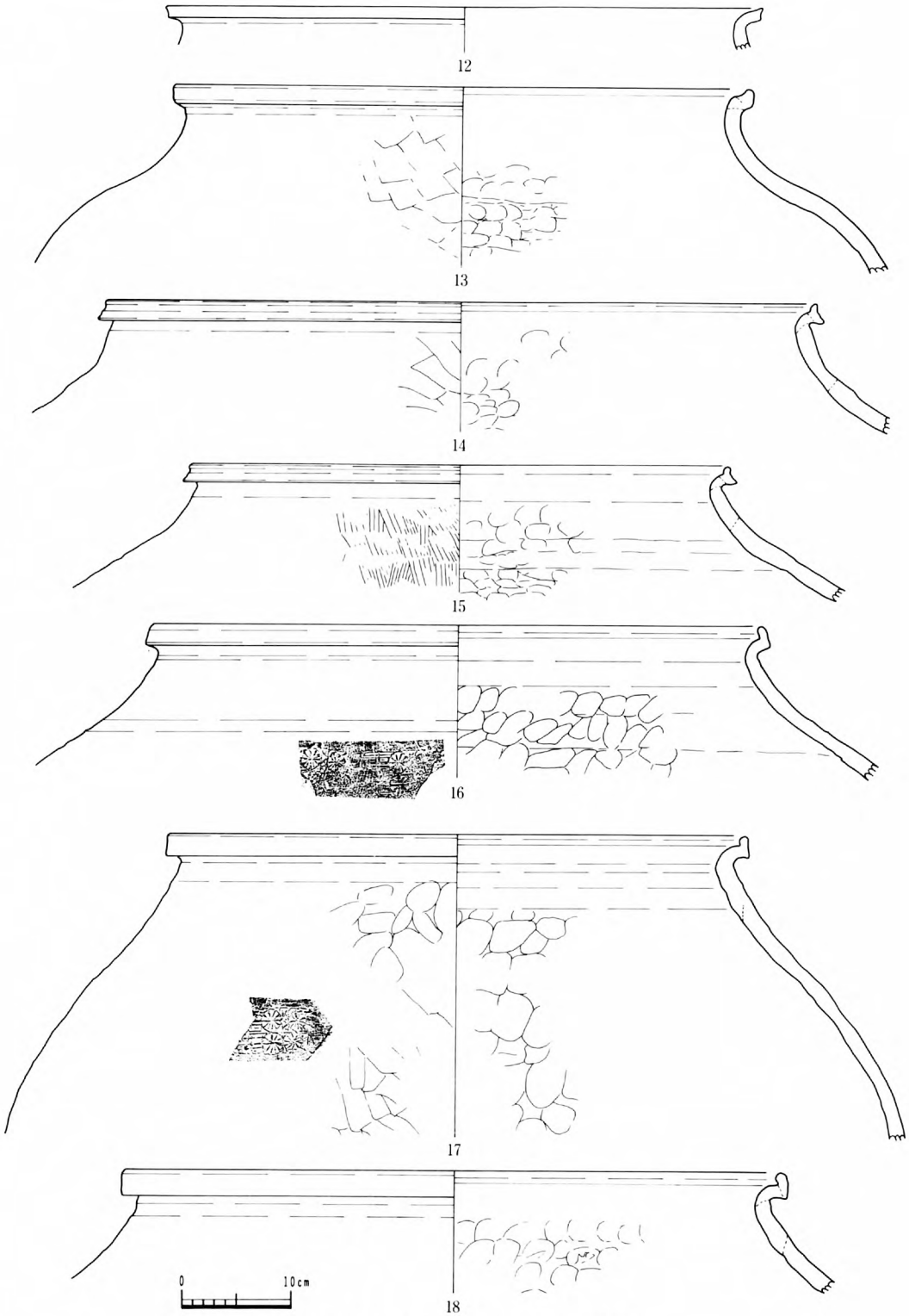
C_1類は、49・52～54・56・62・88・89である。49は外への引き出しは弱く、上への引き上げも



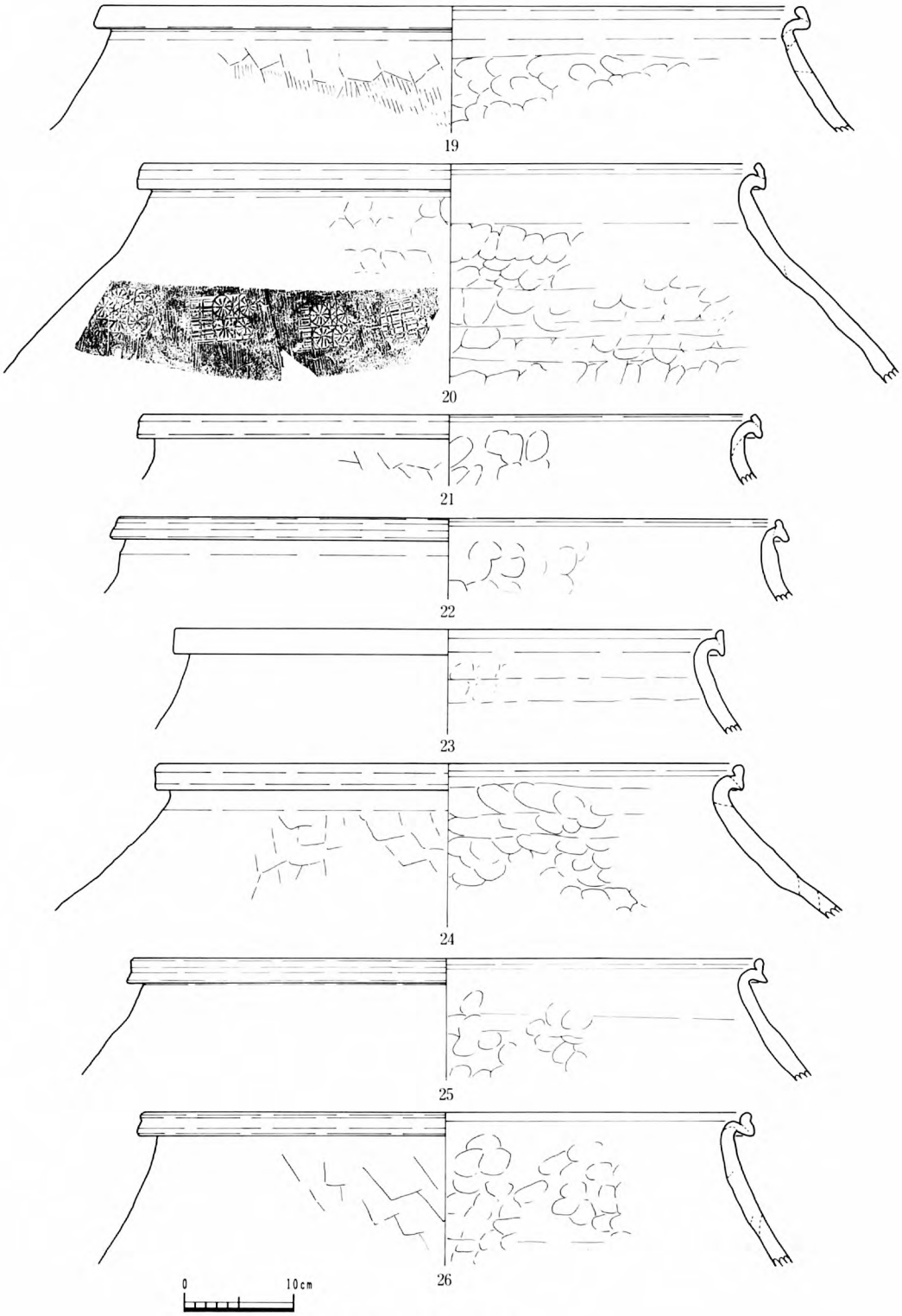
第6図　出土遺物実測図　甕（S＝1/6）



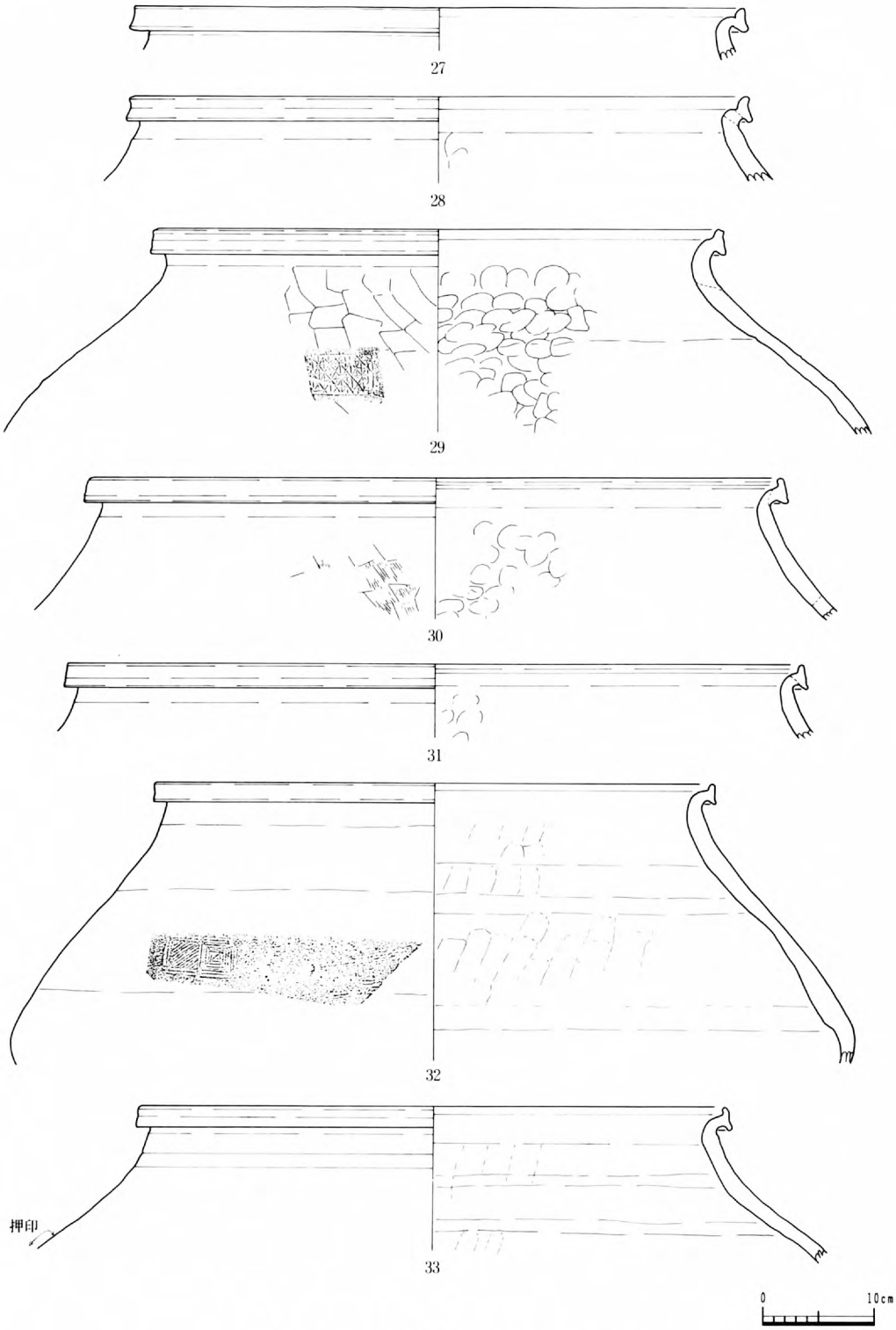
第７図　出土遺物実測図　甕（Ｓ＝１/６）



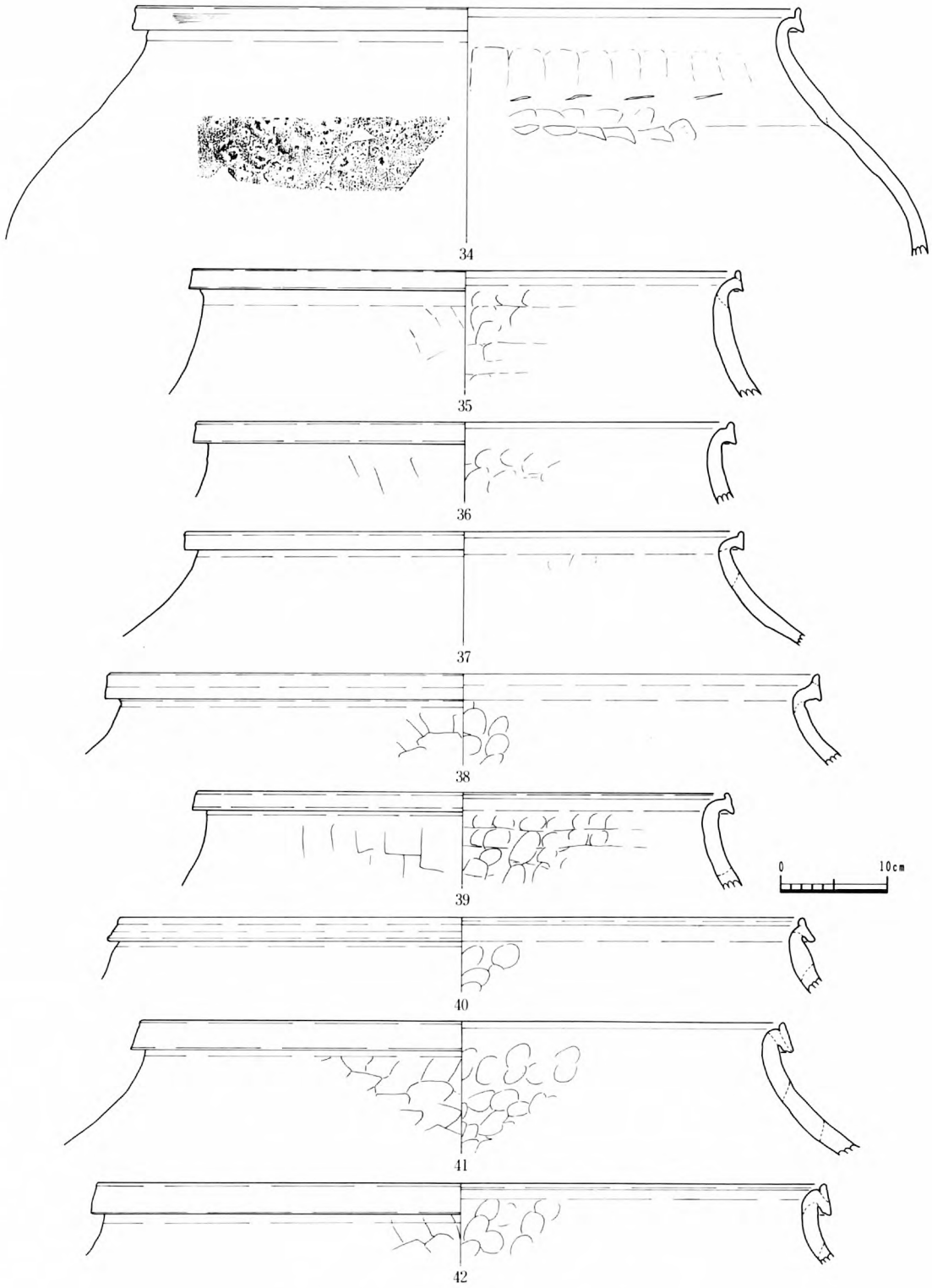
第８図　出土遺物実測図　甕（Ｓ＝１／６）



第９図　出土遺物実測図　甕（Ｓ＝１／６）



第10図　出土遺物実測図　甕（S＝1／6）



第11図　出土遺物実測図　甕（S＝1／6）

弱いものである。62・89はそれより上への引き上げが強いものである。52～54・56は上への引き上げも強くなっていて、また、62のようなボテッとした感じがない。内側の凹も徐々に鋭角的になっている。外側面も内傾していたものから直立になってくる。このことが本類の基本と思われ、のち、下に張りだすC_2類になっていくと考えられる。88は若干それとは様相を異なるが、外側面が直立し、やや下に張りだす傾向をしめしている。

C_2類は、58～60・63・64である。64は縁帯の幅が比較的狭いものであるが、器厚に比べて上端部が厚ぼったいので本類に入れた。58～60は下に小さく張りだすものであるが、また、外側面は内傾する傾向を示している。63はC_1類の89の延長上にあるものと考えられる 下への張り出しがやや強くて下端部は尖っている。

C_3類は、55・57・61・66～73である。55は下への押さえが強すぎたためか焼きゆがみであろうか、外側面が外傾してしまっているが、本類にいれるべきものと考える。57・61・66・67は基本的にはC_2類58～60の形から更に下に強く張り出させたものと考える。外側面の凹は殆どみられない。68～73は引き出しが強く、外側面の押さえも強いため凹が明瞭であり、やや太めのN字状を呈している。

D_1類は、中甕ではみられなかった。

D_2類は、76・79・80である。いずれも外側面は内傾していて、下端は76はやや厚みをもち角ばっているが、79では厚みは薄く鋭角になっている。80ではそれもなくなり先がとびだした感じである。

D_3類は、74・75・77・78・93～95である。75と77はややいびつながら器形の全体がわかる資料である。75は口径35.0㎝、底径16.7㎝、最大径54.8㎝、器高55.0㎝を測り、77は口径38.5㎝、底径18.5㎝、最大径62.0㎝、器高59.2㎝を測るものである。74・75・77は典型的ないわゆるN字状口縁であり、外側面は内傾し、端部上下の張り出しもほぼ同じである。78は上端部の張り出しが下よりやや細長くなっていて、内側の凹も明瞭にめぐっている。93は内側の凹は同じく明瞭であるが、上端部はややぶ厚く、下端部は細くスマートに張りだしている。また、外側面は直立している。95は上下の張り出しの厚みは93とほぼ同じであるが、やや引き出しを強くしていて、外側面もやや外傾している。94は更に外傾している。

E類は、81・82である。いずれも外側面は内傾している。81の端部内側の凹はやや鋭くなっていて、外側面は直線的である。82は上端部を強く押し、つぶれている。

F類は、83～86である。83は前類の81の外端部下側の押さえを強くしたものと考えられ、外側面がほぼ直立している。更に押さえて85から86になると考えられる。84は上端部が厚ぼったくなっているが85に近いものと考える。

G類は、50・51・65である。いずれも縁帯の幅が狭いものである。50は端部を摘んでナデながら引き出したもので、外側面はあまり押さえていなくややふくらんだ感じのものである。51はややつよく引き出し、また、外側面をつよく押さえていて凹んでいる。65は甕C_1類の部類に入る

かもしれないが、縁帯の幅が狭いものであるので本類に入れた。端部を引き出し上へ折ったもので、器厚に比べて上端部が厚ぼったいものである。

H類は、90～92である。いずれも前類の51をさらに引き出した感じのものである。92は端部をつよく摘んでいて内側に明瞭な凹が認められる。

3）小甕（96～151）

小甕ではA類・E類と考えられるものは認められなかった。

B類は、96～98・100である。96は引き出しがつよくないため、端部の内傾度が大きい。98は端部を摘んで引き出しながらナデている。外側面はやや内傾していて、直線的である。100は頸部が直立しているもので、端部外側面も直立していて、あまり押さえていなくややふくらんだ感じである。97は摘んで引き出し、外側面をやや上方に押さえている。これは本類のなかでも次のC_1類に近いものと考えられる。

C_1類は、101～103・105・107である。101は外側面の内傾度がやや強いが、102・105ではほぼ直立している。103は端部を押しつぶしたものであるが、上端部は厚ぼったいものを残し、全体の感じとしては本類に入るものと考えられる。107は縁帯の幅は狭いものであるが、やはり上端部は厚ぼったい感じであるので本類に入れておきたい。下へやや張りだす傾向を示している。

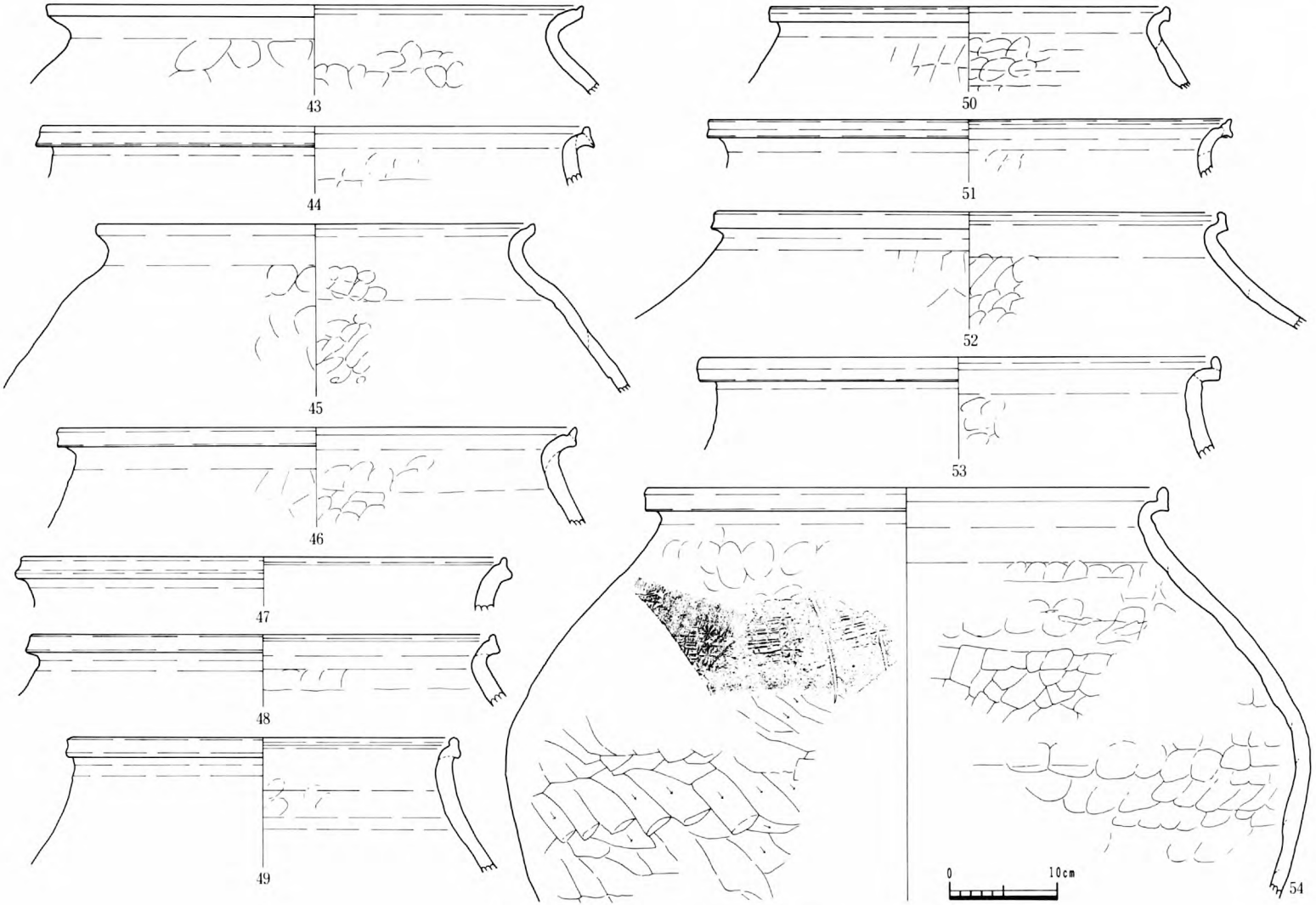
C_2類は、104・106・108～110である。104は下への張り出しが小さいもので、丸みをもっている。上端部は下端部より細身である。106は下端部をナデているためスマートに尖っている。上端部は非常に厚ぼったく感じる。108は下への張り出し部分をナデていて、丸みをもっているが、さらにスマートな感じである。外側面は内傾していて、きれいに湾曲している。109は前類の107と同様なもので、下への張り出しがやや認められるものである。110は下端部はやや尖った感じのもので、外側面は直立している。端部内側の凹は明瞭になっている。

C_3類は、111～115・136・137である。137以外はいずれも端部の下への張り出しはおおきく、上へはあまり出ていない。137は上端部が厚ぼったく、内側の凹も明瞭であり、くびれははっきりしている。外側面は直線的である。

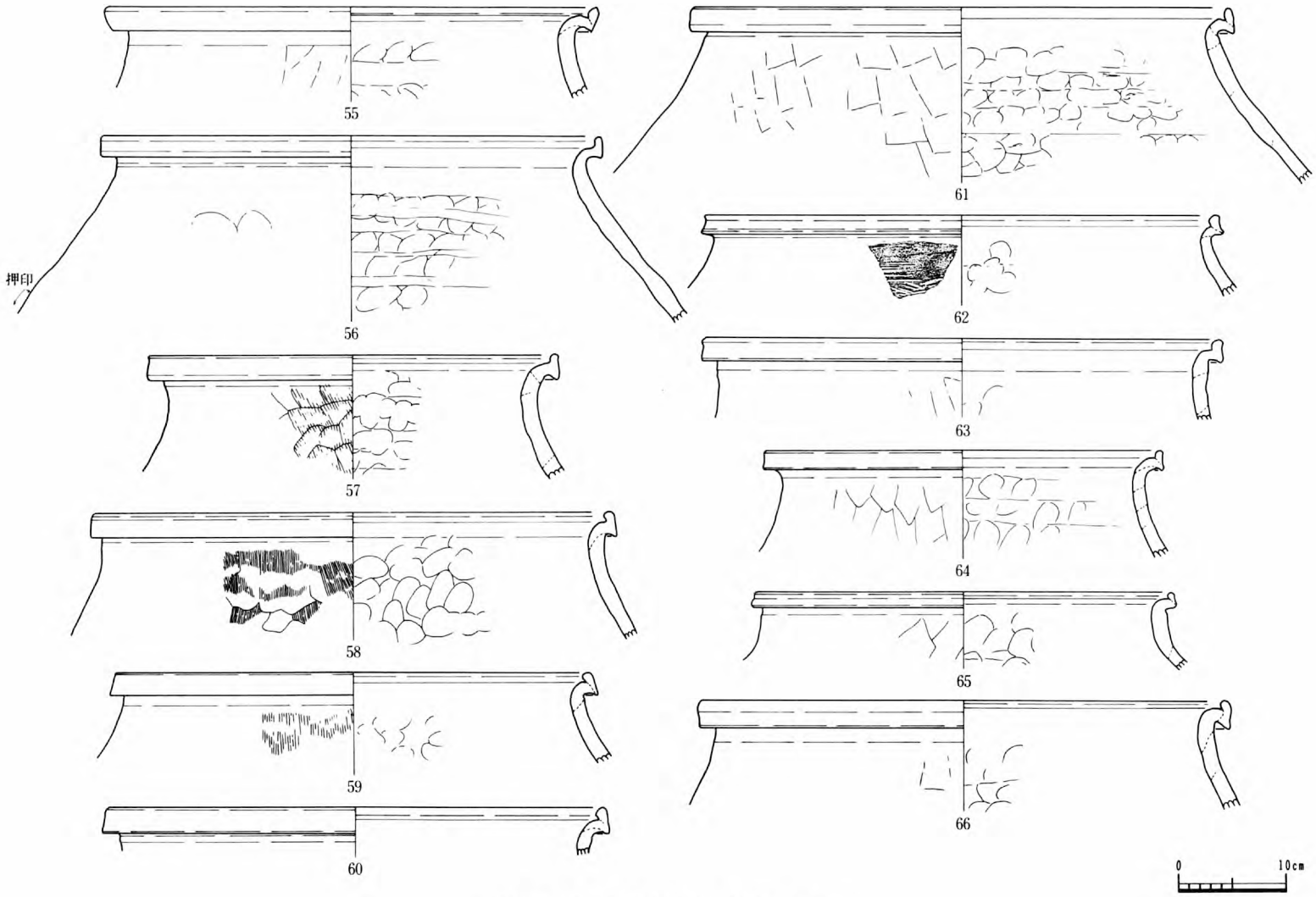
D_1類は、133である。上端部を摘んでナデているため細くなっていて、内側には指先に合った凹が認められる。外側面は内傾している。

D_2類は、125・131・132である。125は端部内側の凹はナデによるものと考えられ指先にあったカーブである。外側面はやや外側に膨らんでいる感じである。131・132はやや引き出しがよわいが38（大甕）とほぼ同じ端部形態である。外側面は直線的であり、端部内側にはナデによるゆるい凹が認められる。131は前類の132と端部毛てた異はほぼ同じであり、下への張り出しが外側面がやや内傾している。

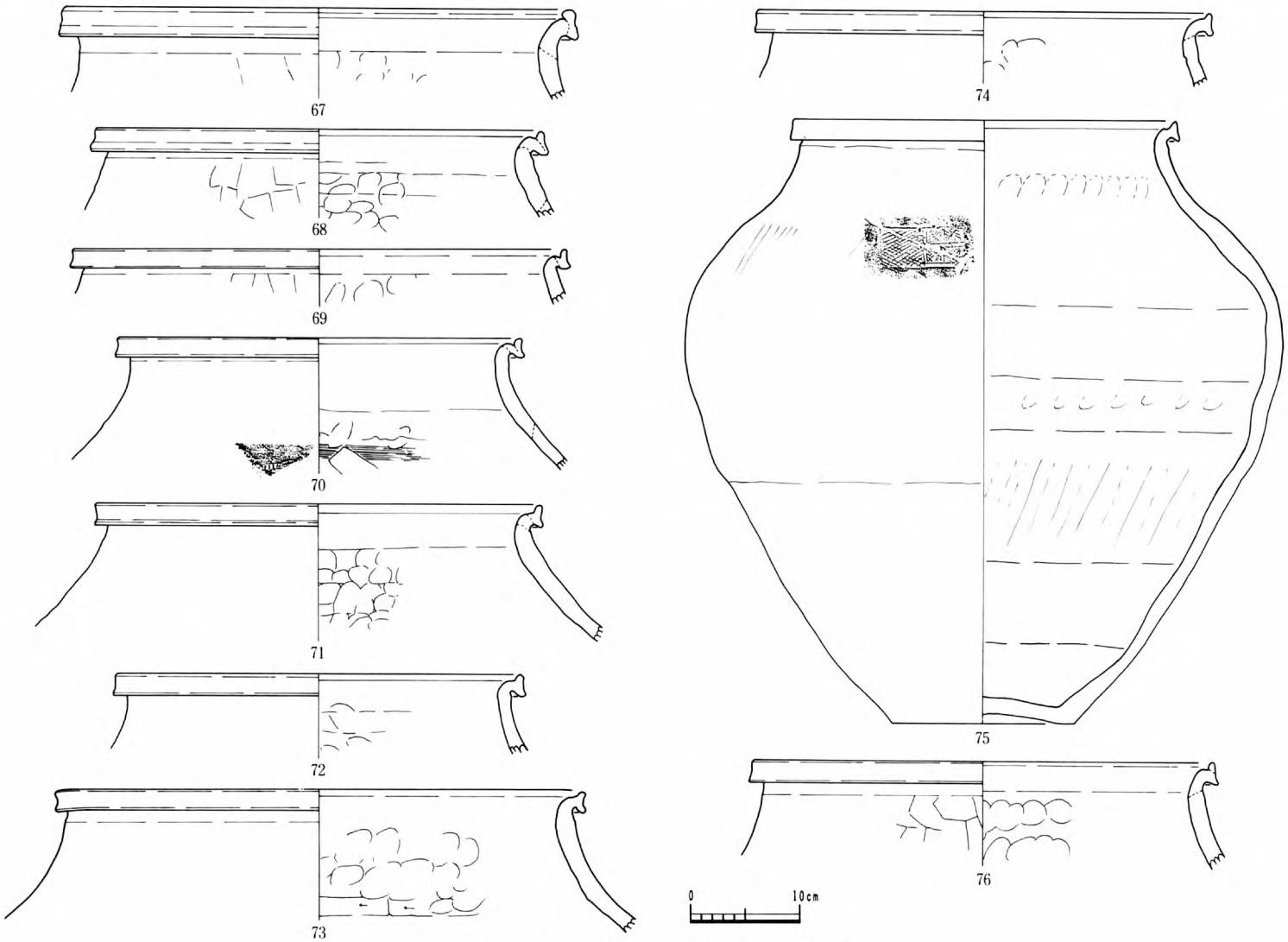
D_3類は、117～120・127・134・135・139である。117～120は典型的なN字状口縁といわれるものである。端部下端は張り出し、上端も出っ張っていて、くびれが明瞭である。また、外側面は



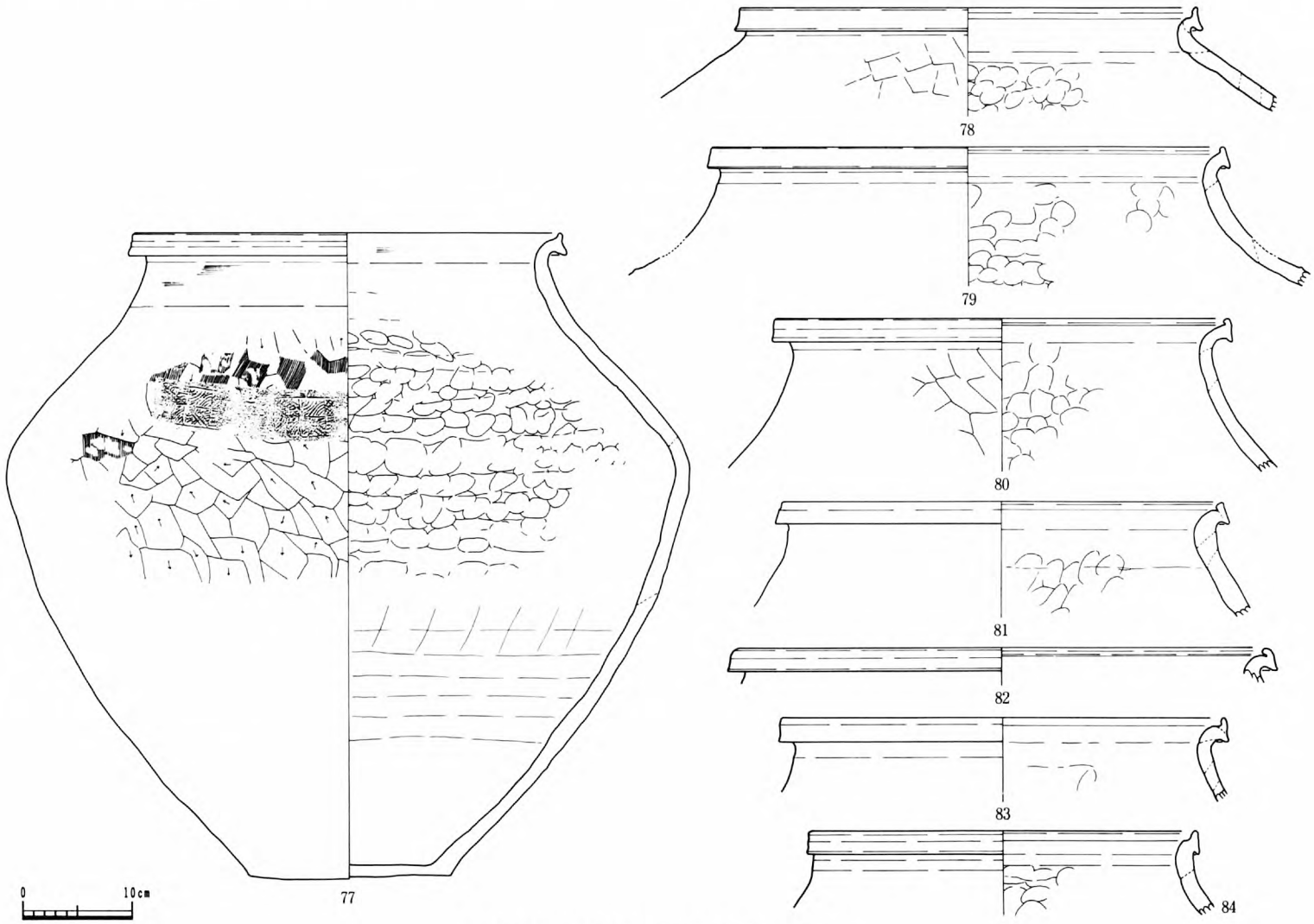
第12図　出土遺物実測図　甕（S＝1／6）



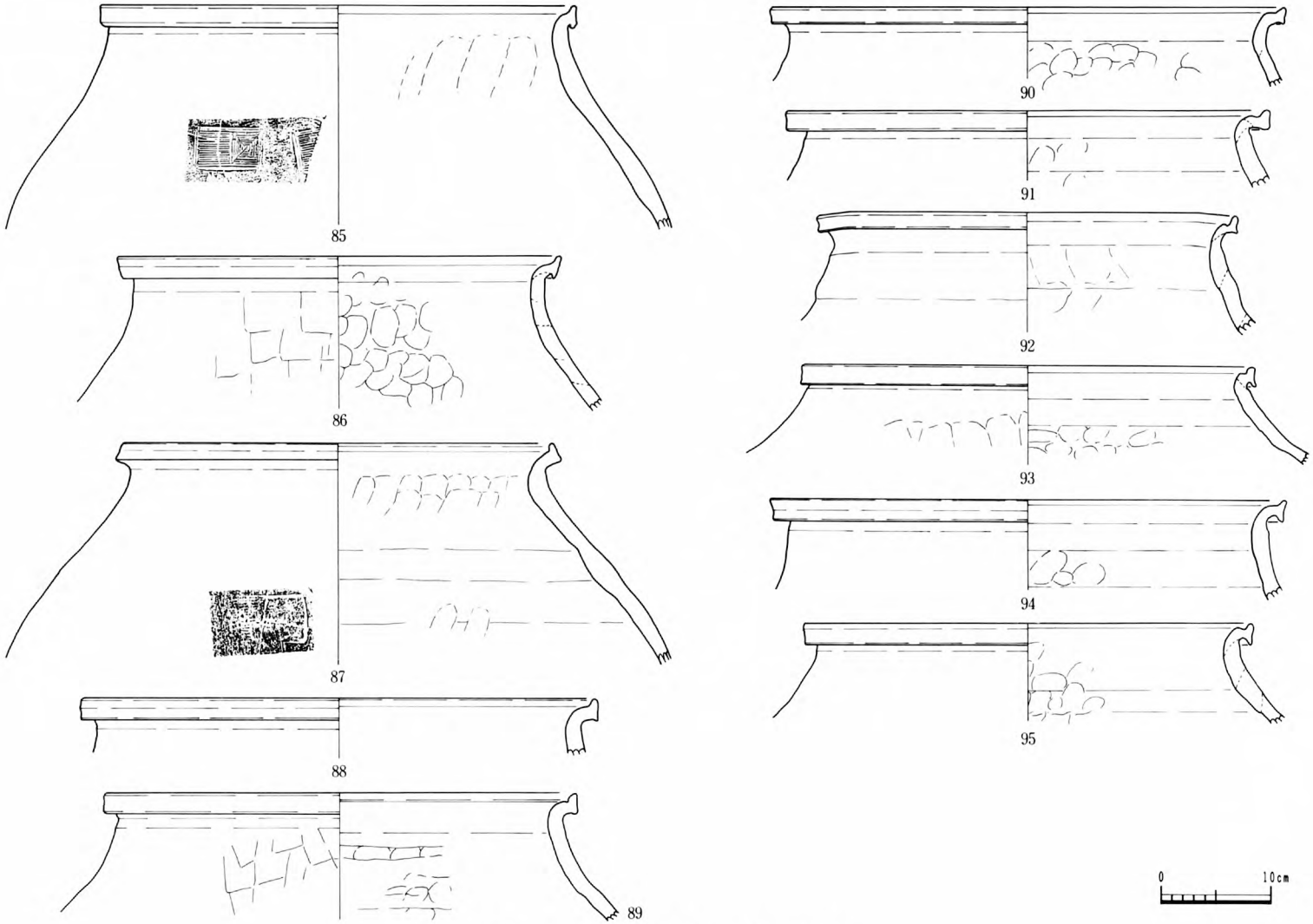
第13図　出土遺物実測図　甕（S＝1／6）



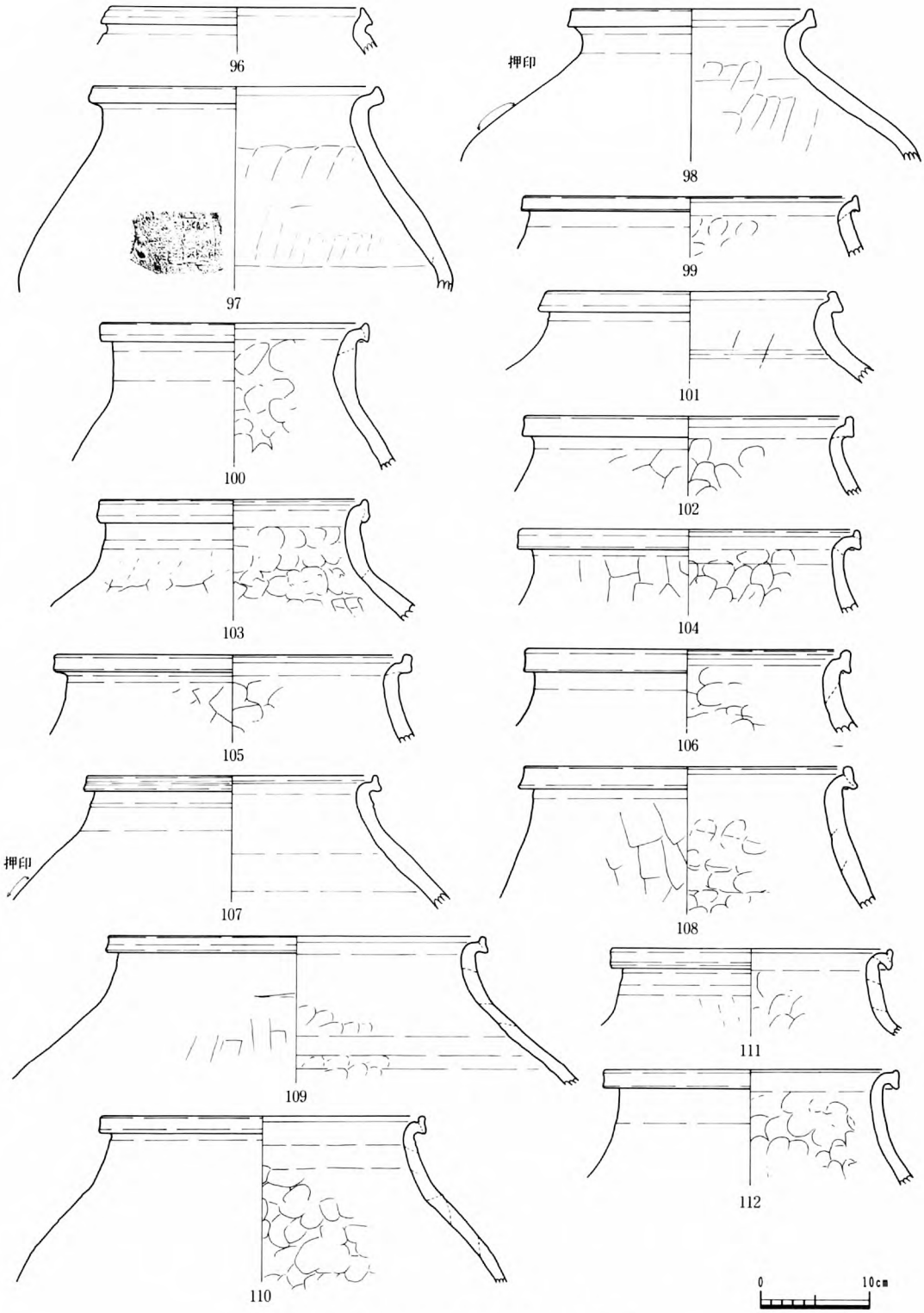
第14図　出土遺物実測図　甕（S＝1／6）



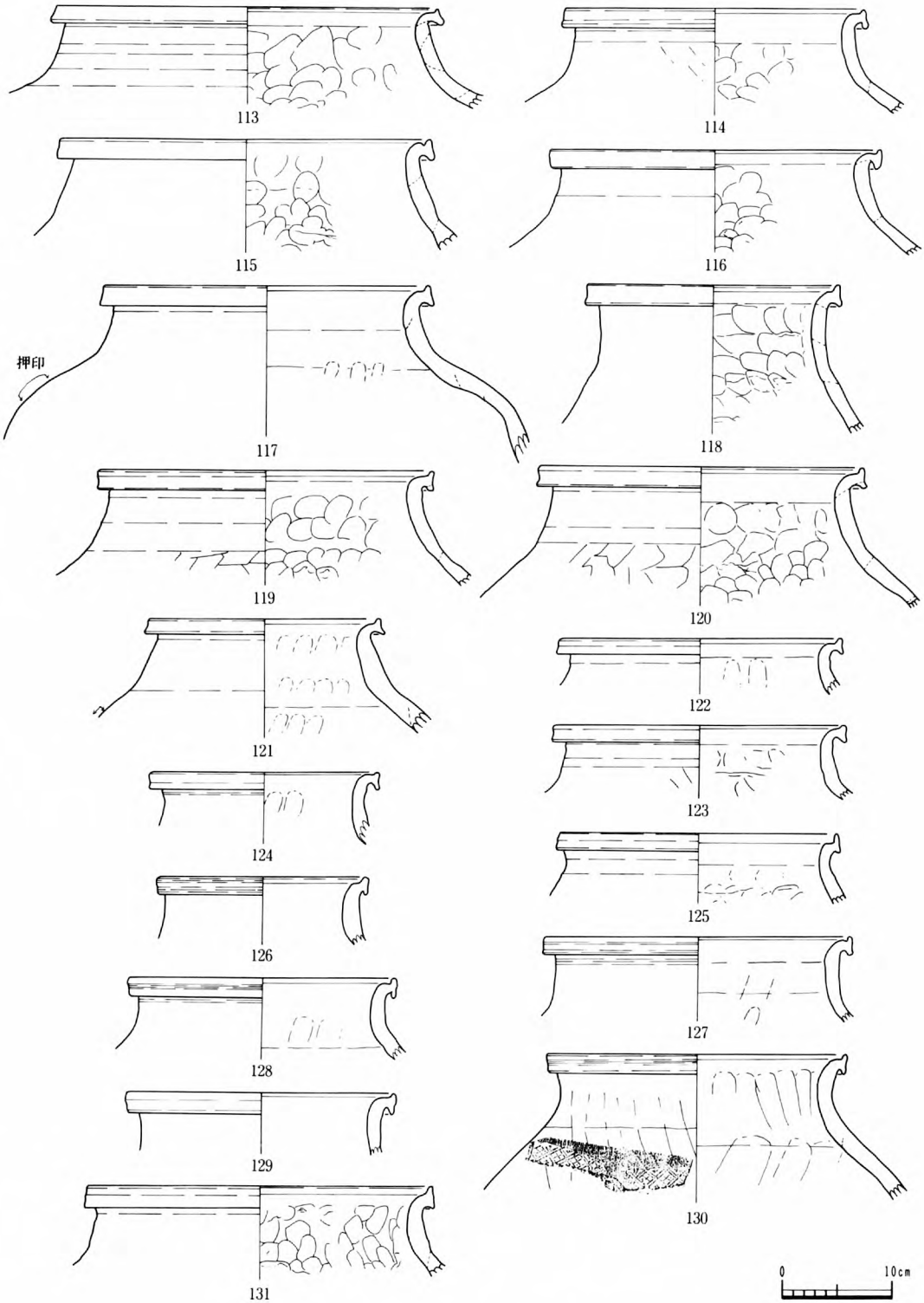
第15図　出土遺物実測図　甕（S＝1／6）



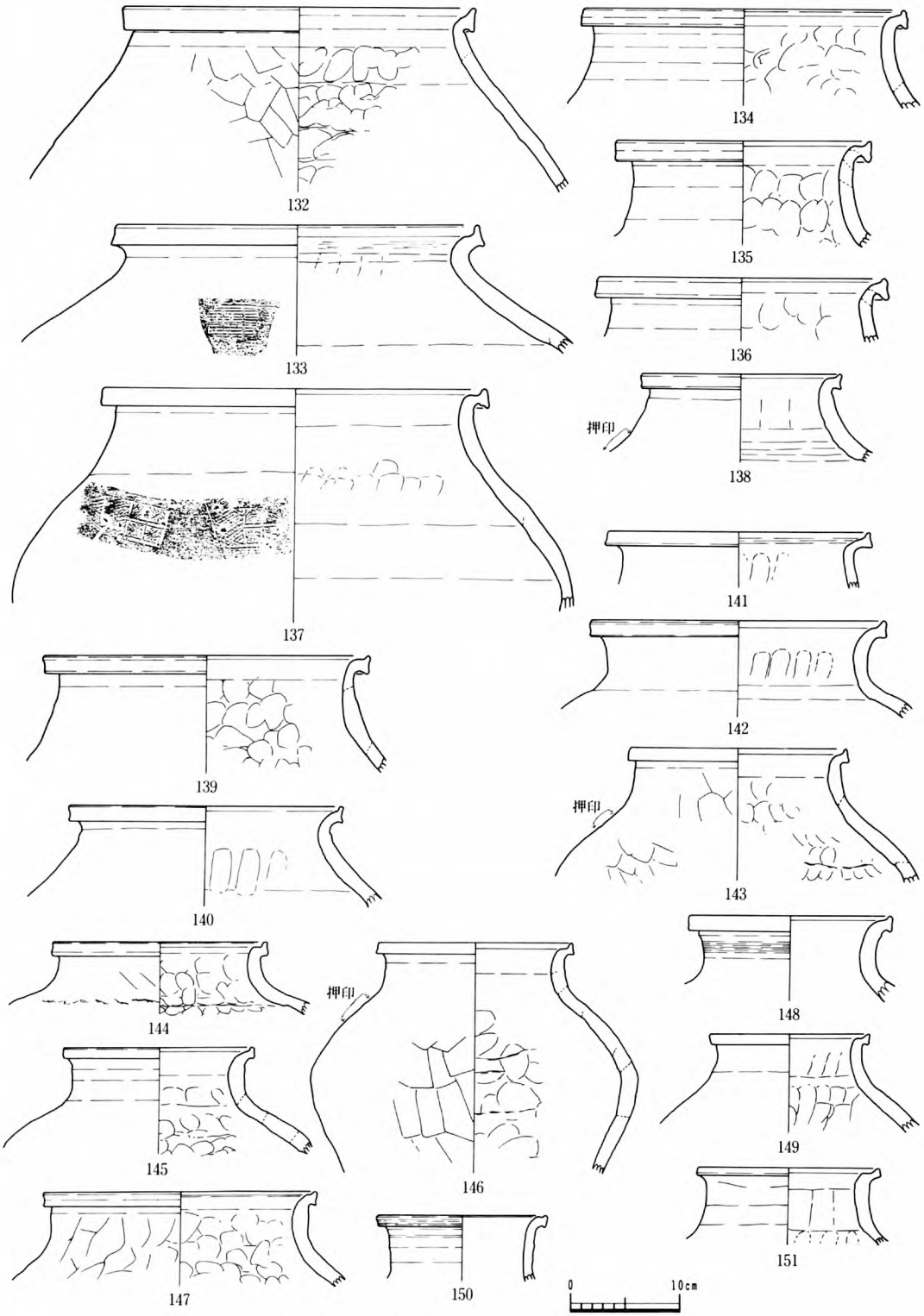
第16図　出土遺物実測図　甕（S＝1/6）



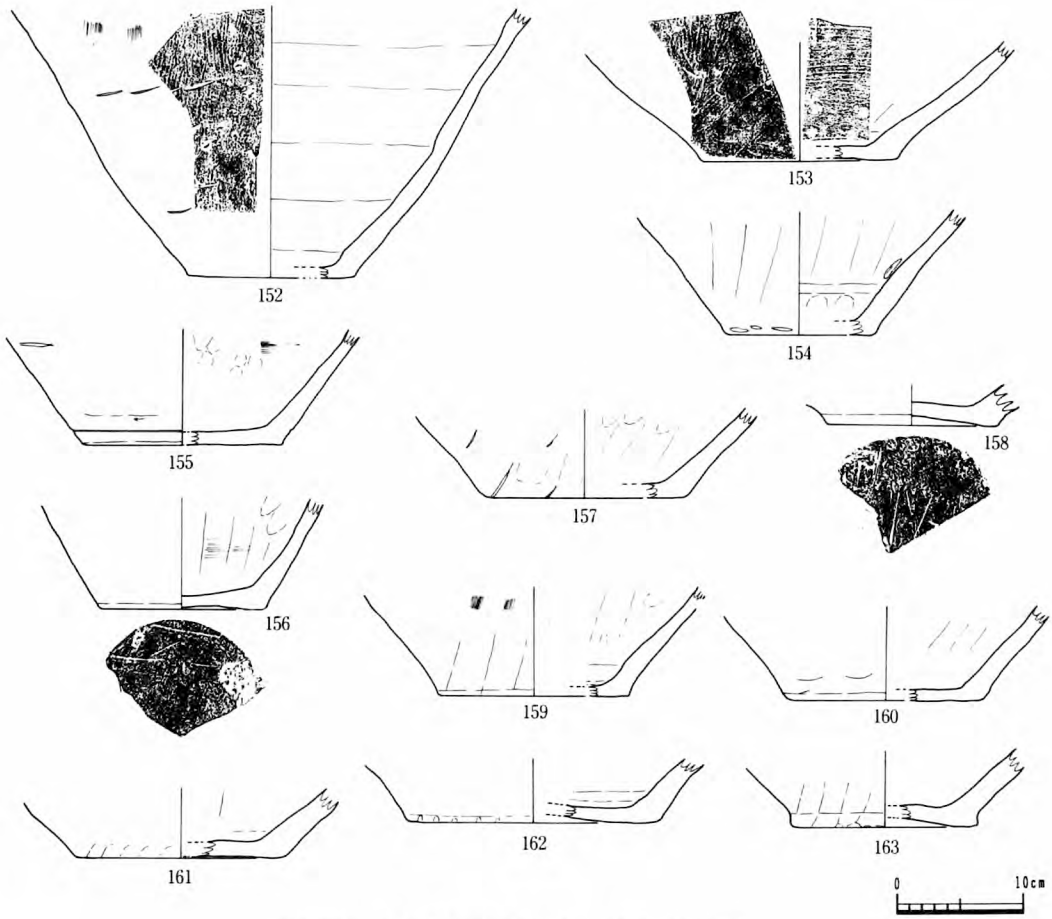
第17図　出土遺物実測図　甕（S＝1／6）



第18図　出土遺物実測図　甕（S＝1／6）



第19図　出土遺物実測図　甕・壷（S＝1／6）



第20図　出土遺物実測図　甕　（S＝1／6）

凹んでいる。127は外側面が直立していて、端部下端は角張った感じである。134は外側面がやや膨らんだ感じであり、端部内側の凹はややなだらかな感じである。135は外側面が直線的で直立している。端部内側が凹んでいて、くびれが明瞭である。139はくびれがやや明瞭であり、外側面は凹んでいるが、直立からやや外に開きぎみでである。

F類は、116・126・128～130である。116は端部下端は角張っていて、厚ぼったい感じである。129は端部上端はあまり出ていないため、内側の凹は浅くなだらかな感じである。128・129は端部下端が上端より細い。130は前類の117～120のN字状端部を外傾させたものと考える。

G類は、99・121～124・138・140である。いずれも縁帯の幅が狭いので本類に入れたが、端部形態は基本的にはA～F類と同じものがある。99はB類と同じで端部を押さえただけで上下にやや張りださせている。121はD2類と同じと考えられる。器厚に比べて端部は細みである。外側面は内傾していてきれいに湾曲している。122はD3類と同じと考えられる。上下の張り出しがやや大きい。123・124もD3類同じと考えられる。138・140はB類と同じと考えられる。端部を引き出して押さえただけであり、外側面はナデのため凹んでいる。

H類は、141である。端部をやや強く引き出していて、外側面を押さえている。

152～163は底部である。

以上甕の口縁形態について略述してきたが、ここで調整について触れておきたい。外面は、縦方向のヘラケズリののちヨコナデを行っているものが多く、縦方向のハケナデ及びそののちヨコナデを行なっているもの、また、両者の組合せも認められる。一部ではあるが、板状具によるケズリを行っているものも認められる。ヨコナデが丁寧でケズリ・ハケナデ等の痕跡を消しているものがやや認められる。内面は、指で押さえて成形・整形したのちヨコナデをおこなっているものが大部分である。ヨコナデが丁寧で指押さえ等の痕跡がわからないものもやや認められる。

2．壷（第19・21～24図）

壷は、口縁形態によりA～E類に分けた。また、甕と同様に容積により大・中・小と分かれるが、出土した遺物は破片であり、全体の形をうかがいしれないため、便宜上口径により、大壷・中壷・小壷に分けた。口径20cm内外以上を大壷、それ以下10cm位までを中壷、10cm位以下を小壷とした。しかし、特に中壷と小壷はあくまでも便宜上口径で分けたもので、これに器厚も加味して分類したものもある。

以下、各類の概要を述べる。

壷A類　頸より外へ引き出しただけのものであり、端部の比較的厚いものは大型と考えられる。

壷B類　頸より外へ引き出し、端部を内側に押さえたものである。これは、端部がほぼ直線的になるもの（B_1類）と端部は丸みをもつものでいわゆる玉縁状口縁に類するもの（B_2類）に分けられる。

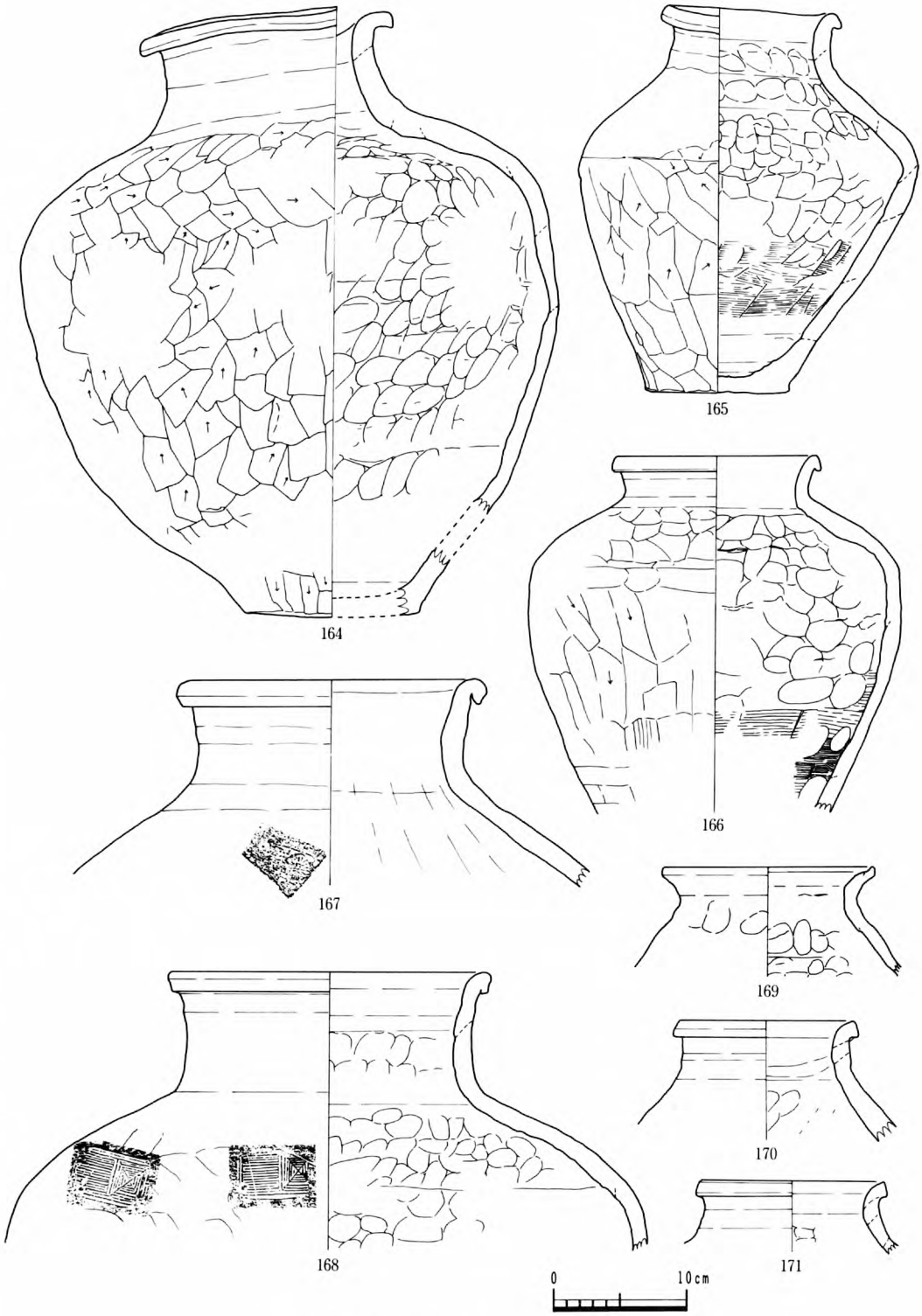
壷C類　端部を押さえ（ナデ）、丸みをもたせ、下端をとがらせたもの。これは、下に張りだした場合は張り出しの小さいもの（C_1類）と張り出しの大きいもの（C_2類）に分けられる。

壷D類　端部を内側と下に押さえたもので、端部は厚ぼったい。

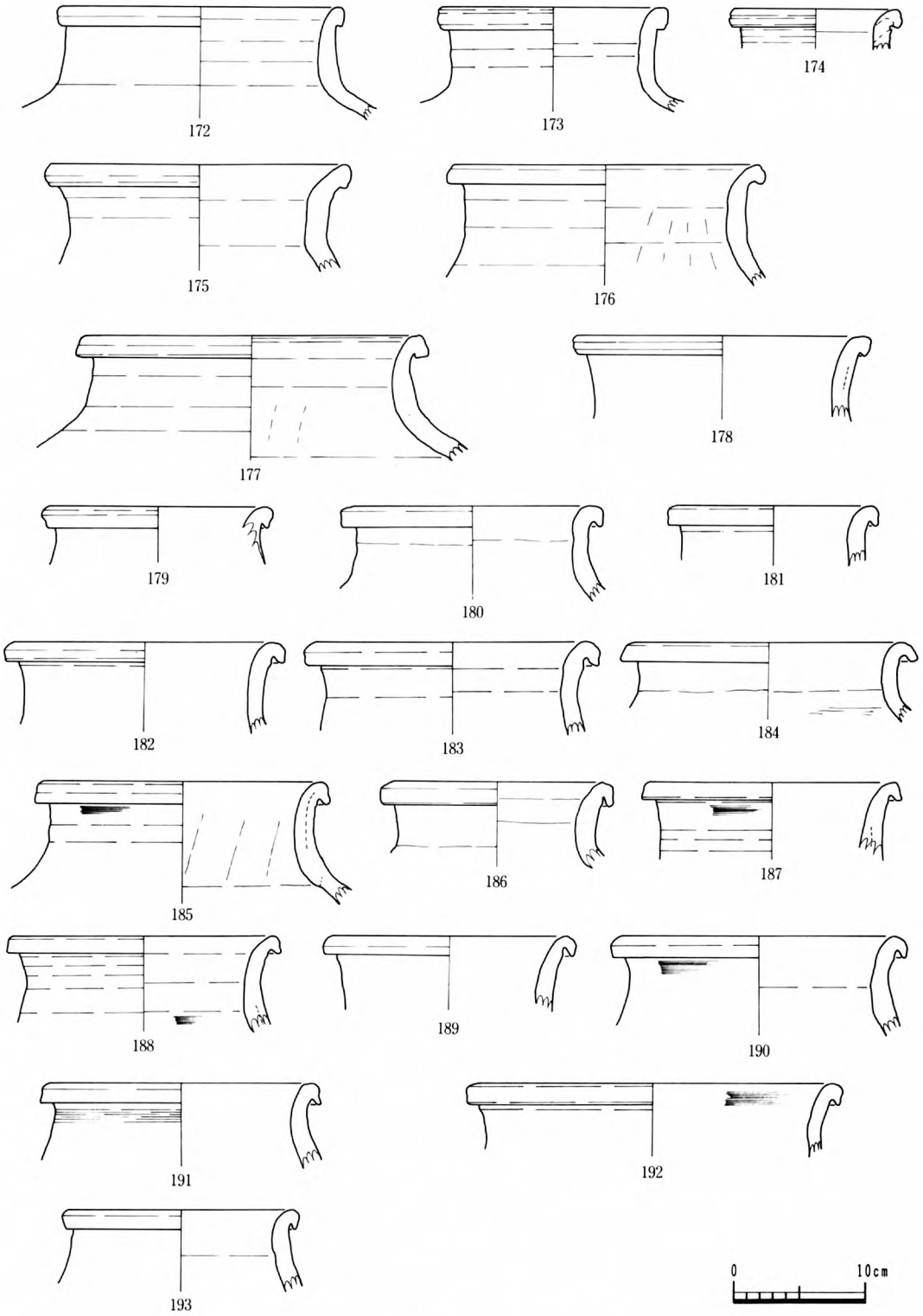
壷E類　端部内側に凹があり、甕類と基本的に同じ口縁形態を示すものである。

A類は、164・199である。164はいびつながら器形の全体がわかる数少ない資料のうちのひとつである。口径18.5cm、底径13.1cm、最大径40.5cm、器高46.1cmを測る中壷のなかでも大きい部類に入るものである。端部を引き出しただけであり、舌状になっていて、先は丸くなっている。外面の肩部より下はヘラケズリ痕が残っており、内面はやはり肩部より下は指押さえののち軽いヨコナデを行っている。内底部付近はヨコナデ痕のみ認められる。内外とも頸部より上はヨコナデを行っている。199は口径11.0cmの小壷である。端部はあまりのびていなく、丸みをもっているがとがる傾向をしめしていて、さらに押さえるとC類になるものと考える。

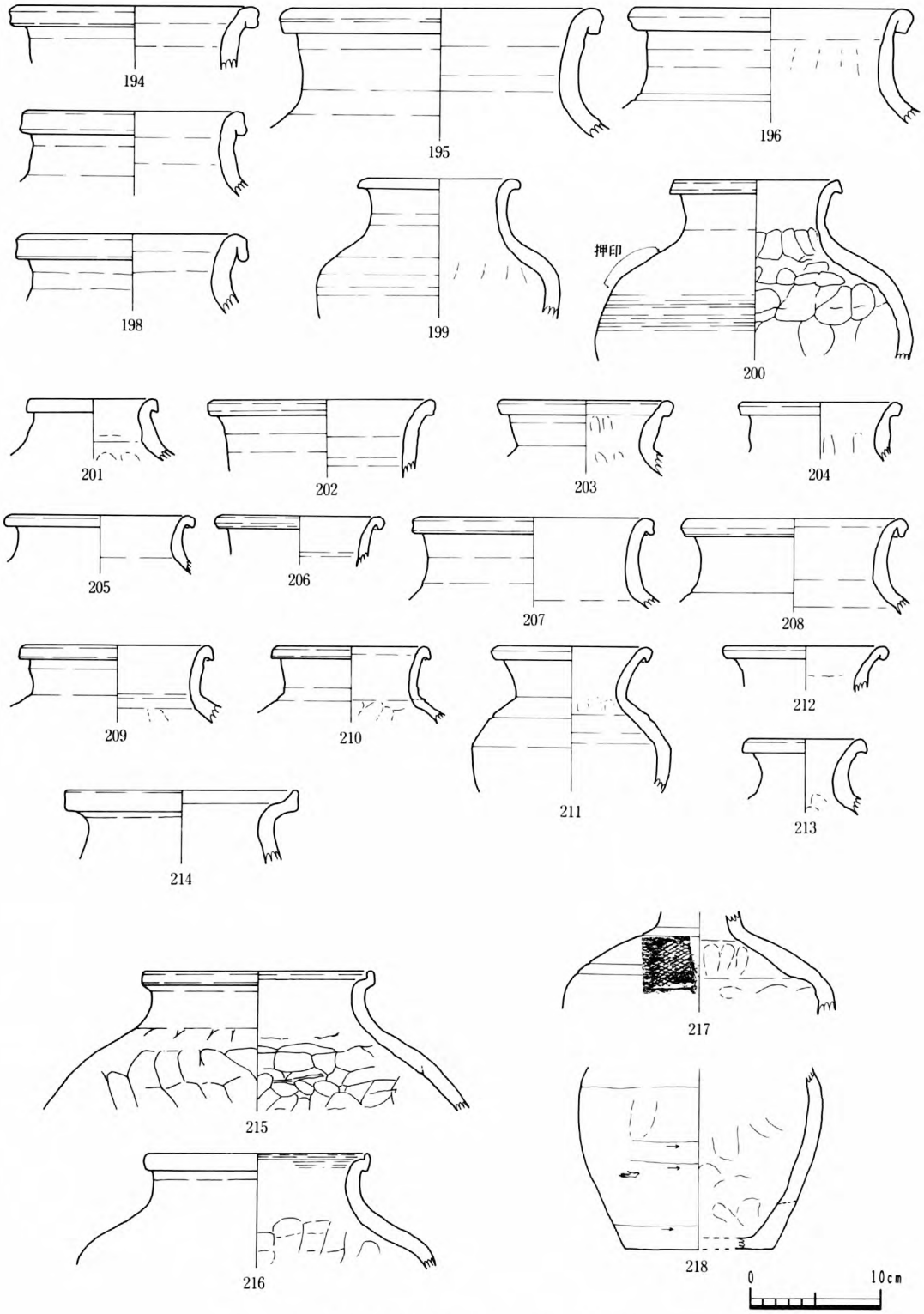
B_1類は、170・171である。いずれも中壷であり、端部を内側に押さえてナデていて、やや下に張りだす傾向が認められる。



第21図　出土遺物実測図　壷（S＝1／5）



第22図　出土遺物実測図　壷（S＝1／5）



第23図　出土遺物実測図　壷（S＝1／5）

B_2類は、172～176・202～204・212である。172・175・176は大壷、173・174・202は中壷、その他は小壷である。174・176・212は端部下端がやや張りだすものであり、203・204は端部上端は丸みをもっているが、外側面及び端部下端は直線的である。その他はいわゆる玉縁状口縁の部類に入るものと考える。

C_1類は、165・166・178・200・201・205・206・209～211・213である。178は大壷、165・166・200・205・209は中壷、その他は小壷である。165は口径12.5cm、底径10.5cm、最大径25.5cm、器高29.4cmを測るものである。外面の肩部より下はヘラケズリののちヨコナデを行っていて、最大径より下はヘラケズリ痕がやや明瞭に残っている。内面は胴部下半中央部分に指押さえののちヨコナデを行い、さらにヨコハケ（？）ナデを行っている。その上は指押さえののちヨコナデをよわく行っている。166も成形・調整方法はほぼ同じである。200の肩部に押印（Ⅳ－106）が認められる。

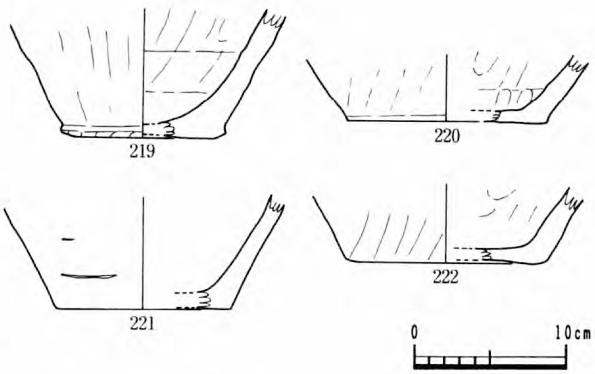
C_2類は、179～193・207・208である。183～185・188・190・192は大壷であり、その他は中壷である。184は端部を摘んで外へ引き出しながら下へ延ばした（張りださせた）もので、延ばした部分と頸部の間はちょうど指の厚みだけ空いている。208は他に比べ口径のわりには器厚が薄い。

D類は、167・168・177・194～198である。本類は前述のように端部を内側と下に押さえたもので、厚ぼったくなっている。194・197・198が中壷で、その他は大壷である。167（Ⅱ－411）、168（Ⅳ－101）の押印が認められる。

E類は、142～151・169・214～216である。A～D類までの口縁形態と様相が違い、端部内側に凹があり甕と同様な形態を示している。146のように甕と同様の口縁形態を示しながらプロポーションから壷と判断できるように、頸部がやや長く直立しているものを壷とした。甕は、おおむね頸部がハの字に開いている。端部形態は前述のように基本的には甕A～F類と同じである。151・169・214はA類、142・145～147はB類あるいはD_1類、143・144・215・216はC_1類、148 はD_2類、149・150はF類と同じであると考える。146には押印（Ⅳ－106）が認められる。

217は肩部の破片である。146と同じ押印が認められ、その上下に各2条の沈線が見られる。

218～222は底部である。



第24図　出土遺物実測図　壷　（S＝1／5）

3．鉢（第25～26図）

鉢は、口縁端部形態によりA～D類に分けた。また、おろし目が有るものをⅠ類、ないものをⅡ類とした。しかし、出土したものは小破片が多く、全体が判明

するなど明確に判断出来るもののみ記した。本遺跡出土遺物も含め加賀古窯製品では、全面におろし目がある場合はほとんどなく、小破片では不明である。更に、高台がないものをａ類、あるものをｂ類とした。ただし、本遺跡出土遺物の鉢のうち底部がわかるもののほとんどは高台のないａ類である。

以下、各類の概要を述べる。

鉢Ａ類　口縁端部（以下「端部」という。）がほぼ水平になるもの。

鉢Ｂ類　端部を引き上げてそのままナデたもので、端部は比較的丸いか斜めになるもの。

鉢Ｃ類　端部に凹がある（凹がめぐる）もの。

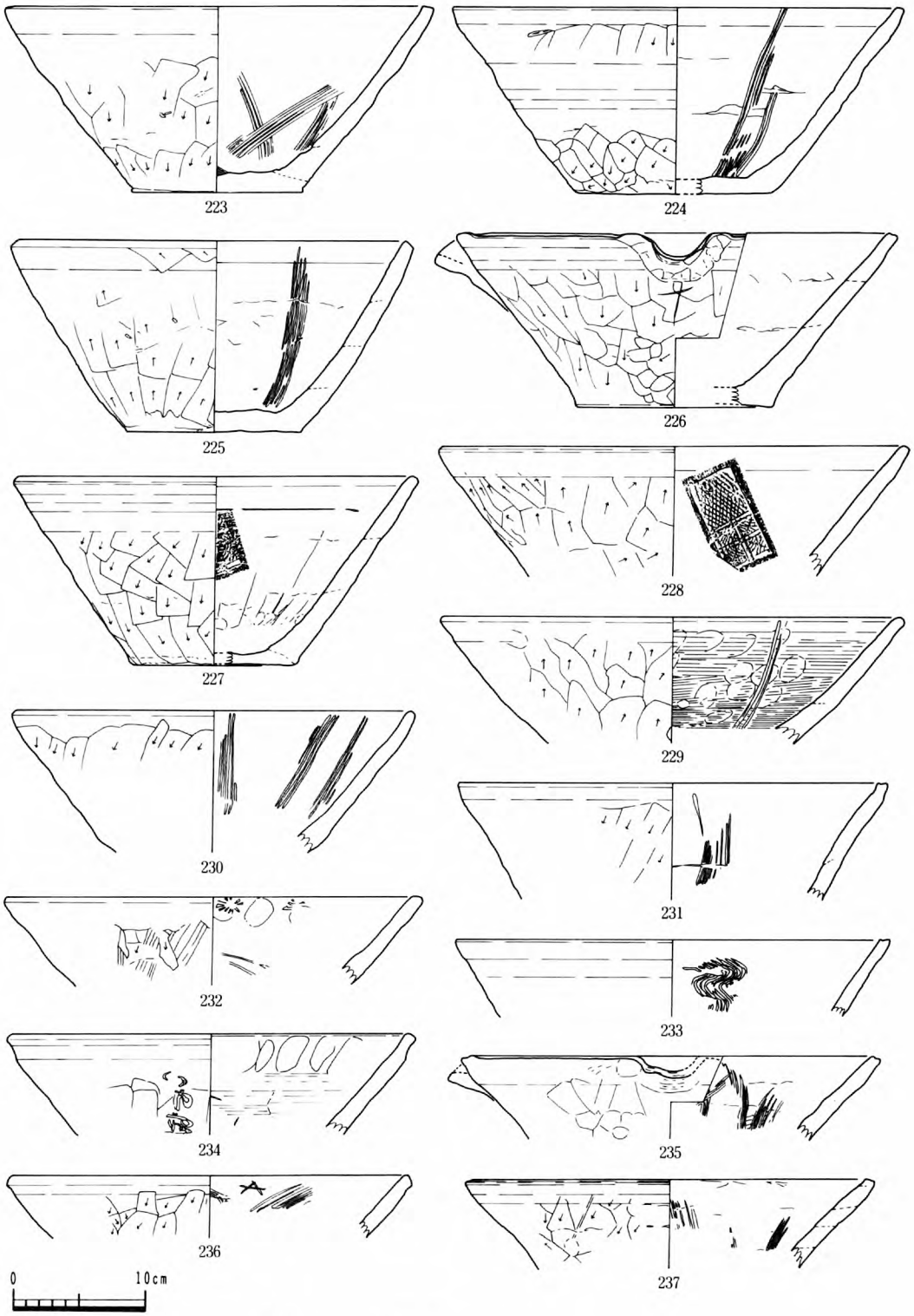
鉢Ｄ類　口縁部外にナデによる凹をめぐらし（くびれている）、口径の割りには器高が低く、浅鉢形をしているもの。

Ａ類は、223(Ⅰ)・224(Ⅰ)・232(Ⅰ)・257(Ⅰ)である。223は口径31.4㎝、底径13.0㎝、器高14.1㎝を測るものである。外底部に板の痕跡が残る。成形・調整方法は外面はヘラケズリ（のちヨコナデ）、内面はヨコナデであり、これは鉢類の基本的なものである。224は口径33.6㎝、底径15.0㎝、器高14.1㎝を測るものである。外底部に板の痕跡が残り、内面におろし目が口縁部から底部までに見られる。232は内面の口縁部に押印が認められる。これは、押印Ⅲ－102と同様の単体の花文であるが、同じものか不明である。257は口径32.2㎝、底径13.0㎝、器高11.3㎝を測るものである。内面下半に１条単位のおろし目が散見され、その部分にカキ目（ヨコハケ？）が認められる。

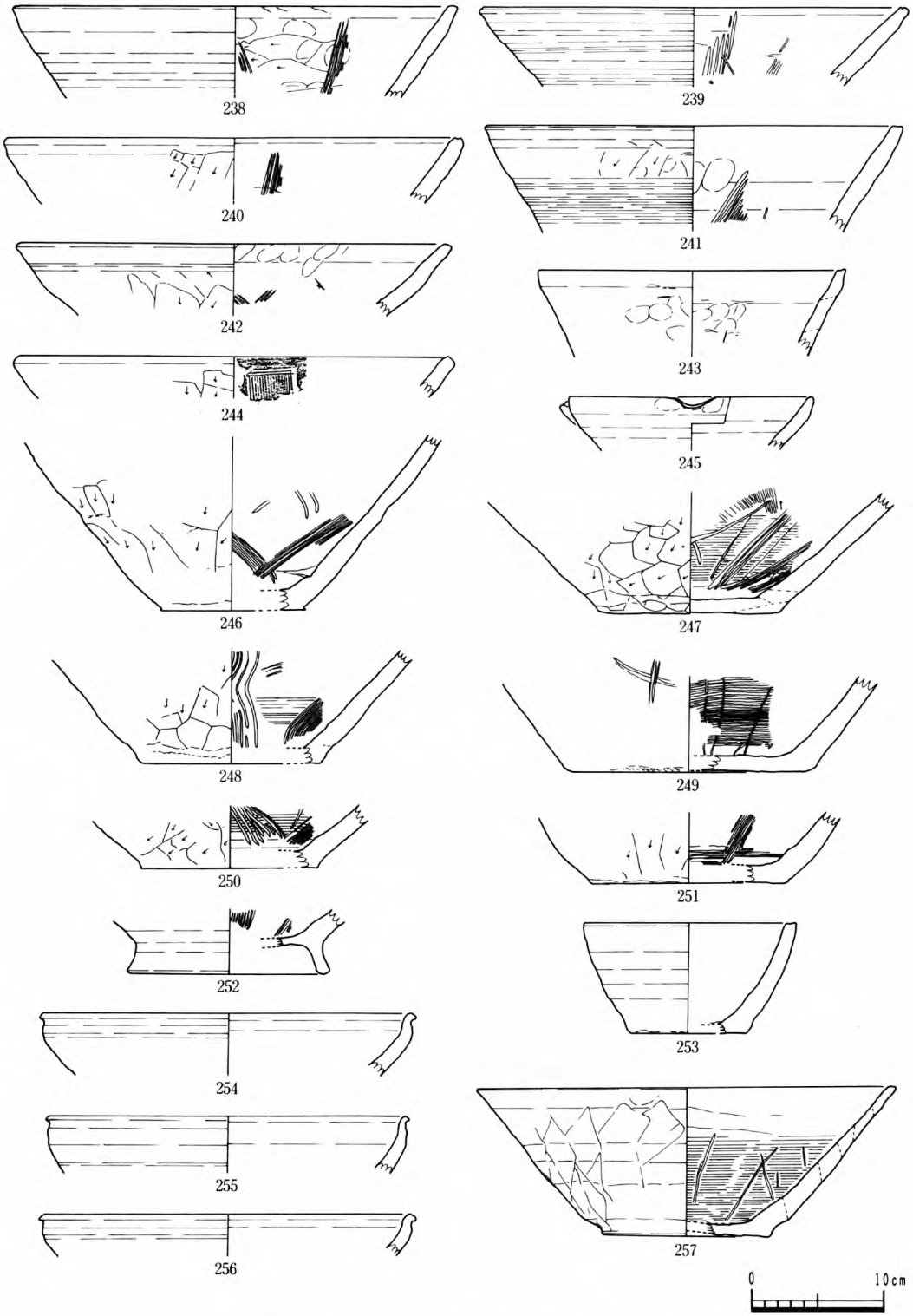
Ｂ類は、225(Ⅰ)・227(Ⅰ)・228(Ⅱ)・229(Ⅰ)・230(Ⅰ)・234・236(Ⅰ)・242(Ⅰ)・244・245である。225は口径29.8㎝、底径13.4㎝、器高14.5㎝を測るものである。内面のおろし目は６条１単位で６単位が見られ、底部中央付近で交差している。227は口径30.2㎝、底径13.0㎝、器高14.1㎝を測るものである。外底部に板の痕跡が残り、内面に押印（Ⅳ－106）が認められる。228の内面にも同じ押印が明瞭に認められる。229の内面にはカキ目が見られる。234の口縁部外にナデによる凹がめぐり、外面の中程に文字（刻文鉢a_2）が認められる。236は内面の口縁部付近におろし目が見られ、その横に刻文（鉢ａ1）が認められる。244は口縁部付近の小破片であるが、内面に押印（Ⅳ－101）が認められる。245は小ぶりながら片口がついている。

Ｃ類は、226(Ⅱ)・231(Ⅰ)・233(Ⅰ)・235(Ⅰ)・237(Ⅰ)・238(Ⅰ)・239(Ⅰ)・240(Ⅰ)・241(Ⅰ)・243・253(Ⅱ)である。226は口径32.7㎝、底径15.2㎝、器高13.2㎝を測るものである。片口がついていて、その下の外面に刻文（鉢ｂ1）が認められる。233はおろし目が蛇行状に施してある。235は片口がついている。253は口径14.6㎝、底径9.0㎝、器高8.4㎝を測るものであり、大きさの割りには厚ぼったい。

Ｄ類は、254～256である。前述のように口縁部外にナデによる凹がめぐり、端部外は尖っている。



第25図　出土遺物実測図　鉢（S＝1／5）



第26図　出土遺物実測図　鉢（S＝1／5）

246～252は底部のわかるものである。246はおろし目が見られ、一部分であり判然としないがおろし目の可能性が残る不明線刻が認められる。247・248はおろし目が見られる。249は1条単位のおろし目及びヨコハケが見られ、外面に刻文（鉢b_1）が認められる。250・251はおろし目が見られる。252は出土した鉢のなかで唯一の高台のあるもの（b類）であり、高台の高さは約2㎝である。おろし目も見られる。

今回の調査は、灰原の一部であり、また、二次堆積の遺物もあるため、全体の様相は不明である。よって、出土遺物の甕・壷・鉢について口縁形態を中心に行った分類を以上でに述べてきたが、これらはあくまでも試案として、今後の調査・研究をまってで改めて述べたい。

第3節　押印等について

1．押印等の分類（付図）

本窯跡で現在までに確認されている押印は58種類であり、その他刻文が認められる。
押印はその特徴からⅠ～Ⅵ類に大別し、更に各類で小分類した。

以下、その概要を記す。

Ⅰ類　斜格子を主たる文様とするもの。（斜行軸細線をもつものともたないもの。）

100番代は細線をもたないで斜行軸線が一本のもの。200番代は細線をもち斜行軸線が一本のもの。300番代は細線をもち斜行軸線が二本のもの

101は一単位が不確定であるが斜格子のみである。

201は斜格子に縦横の細線の組み合わせで、202は不明瞭であるが斜行の細線と縦横の細線を交互に組み合わせていると思われ、横線はつながっているが、縦線は各区画で切れている。203はやはり不明瞭であるが、202と同じタイプで縦幅が小さい（細い）ものである。

301は斜格子に斜行の細線の組み合わせで、302・303は斜行の細線と太めの十字形の組み合わせであり、303は302より縦幅が小さい（細い）ものである。

Ⅱ類　花文を主たる文様とするもの。

100番代は花文に斜格子、200番代は縦分画で2分画（縦2分画）のもの、300番台は縦3分画のもの、400番代は横分画のもの。

101は花文に斜格子を配したもので、那谷コテンノウダニ窯に同種のものが確認されている。

201は単一花文と格子風のものを合成したもの。202は不確定な要素が多いが、201と同じく単一花文と格子風のものの合成と考えられる。203は小花文と横格子を組み合わせたもの。204は降灰釉がかかっていて拓本が採れなかったので模式図としたが、単一花文と横格子を組合せたもので、211は複数の小花文と横格子を組み合わせたもの。221は正格子内に花文を合成したもの。231は花文をワクで囲ったもの。

301は花文の左右で違う2種の格子が認められる。

401・402は長軸方向で花文が一段のもの。411～414は長軸方向で花文が二段のもの。415は不確定な要素が強いが、コーナー部が明瞭で二段と考えられるので本類に入れておく。

Ⅲ類　花文のみのもの。

100番代は単一花文のもの、200番代は複数花文のもの、300番代は花文数の不明のもの。

101は大輪、102は中輪の単一花文である（多数押してあるが単一の花文と考えられる）。

201は中輪の複数花文で、明瞭でないが上方にワクが認められる。201は小輪の複数花文で、上下二段に認められる。

301～303は、不明瞭な要素が多いので一応本類に入れておくが、資料の増加をまって再考したい。

Ⅳ類　幾何学文のもので、縦分画と横分画のものに大別できる。

100番代は縦分画で2分画（縦2分画）のもの、200番代は縦3分画のもの、300番代は縦分画がうかがえられるが分画がくずれたもの、400番代は横分画のもの。

101～103は、区画内の意匠がやや違うだけで基本は同じである。101と102は右区画はほぼ同じで、左区画が違うものである。103の右区画は102の左区画とほぼ同じである。104は弧文が分画内に入るもので、105は横格子と弧文風格子の複合である。106は細線をもたない斜格子と小分画された弧文で、107は細線（縦線）をもつ斜格子と小分画された弧文の組み合わせである。

201は3分画中2分画に弧文が入るもの（3分画とも弧文の可能性もある）で、202は3分画中2分画に小分画された弧文が入るもの。211は3分画中左右の2分画に斜格子（細線をもたない）で中央に小分画された弧文が入り、212は211の斜格子部分に細い縦格子を配したもので中央の弧文の意匠もやや違うもの。

301は弧文・正格子・斜格子等の複雑な組み合わせである。302は不確定であるが弧文・斜格子・正格子が分画内に見られ、やはり複雑な組合せである。

401は二段であるが上下の位置をずらしている。402は矢羽状に斜行を配し、三段まで確認できる。403は401によくにたやや小ぶりの意匠であり、三段まで確認できる。

Ⅴ類　格子文のものである。

100番代は縦格子（櫺子風）のもので、200番代は横格子（簾風）のもの、300番代は正格子のものである。

101は太くて長い大型であり、102はコンパクトにまとまっている。111は102よりやや縦が長いもの。

201～204は横線の太さや縦線の数の違いである。204は203の一部分か複合である可能性もある。211はオーソドックスな横格子である。221は一単位が不明確であるが横線が長い大きなものである。

301はⅡ類の221に似ているもので、やや一単位が大きいが花文の有無の相違と考える。

Ⅵ類　文字押印である。

101は、小分画された中に「大」或いは「本」字の押印である。

刻文

刻文は器種で分け、内容で文字をａ類、記号をｂ類とする。

鉢ａ類

１は内側口縁近くに「大」字、２は外側体部に「いわ□(やヵ)□」字が認められる。

鉢ｂ類

１は外側体部に「×」印。

甕ａ類

１は外側肩部に「大」字、２は外側肩部に「本」字が認められる。このａ1の「大」字には書体が違うものが認められる。

甕ｂ類

１は外側肩部に「×」印、２は外底に「×」と「○」を組み合わせたようなものが認められる。

これら押印等の分類は、あくまでも一応の目安として作成したものである。今後、資料の増加により変更の可能性がある。

なお、不明瞭なものであるが上記に含まれないものがあと数種類ほど認められるので、合わせて今後の資料の増加に期待したい。

２．押印の出土遺跡

中世陶器に限らないが、いわゆる押印（スタンプ等）は消費遺跡で出土した遺物の生産地を特定できる一つの手法となる（もちろん生産遺跡で確認されなければならないが）。

本遺跡出土の押印は前述のように現在までに58種類が確認できている。これら多数の押印のうちには消費遺跡で出土が確認されているものが少なからずある。以下、それらを略述してみる。なお、主に報告書で拾いあげたため、報告書名を記したものもある。

加賀市では、西島遺跡よりⅡ－401が、永町ガマノマガリ遺跡よりⅤ－101が、敷地鉄橋遺跡よりⅣ－106が出土している。

小松市では、戸津町よりⅡ－211が（後述）、牧口中世墓よりⅣ－101が（後述）、白江梯川遺跡よりⅡ－201・231、Ⅳ－301が、佐々木アサバタケ遺跡よりⅠ－201、Ⅱ－201・411、Ⅲ－201、Ⅳ－101か102、Ⅳ－301、Ⅴ－102・111が、古府遺跡よりⅣ－401が、軽海中世墓よりⅣ－101が（後述）、麦口中世墓より同じⅣ－101が、浄水寺遺跡よりⅡ－301、Ⅴ－101・102が出土している。

能美郡辰口町では西部遺跡群中の徳久・荒屋Ｅ地区よりⅡ－301、下開発Ｅ地区よりⅤ－102、同Ｇ地区よりⅠ－101・Ⅴ－102が出土している。

石川郡鶴来町では白山遺跡・白山町墳墓遺跡よりⅤ－101が、八幡町遺跡よりⅣ－104が出土している。

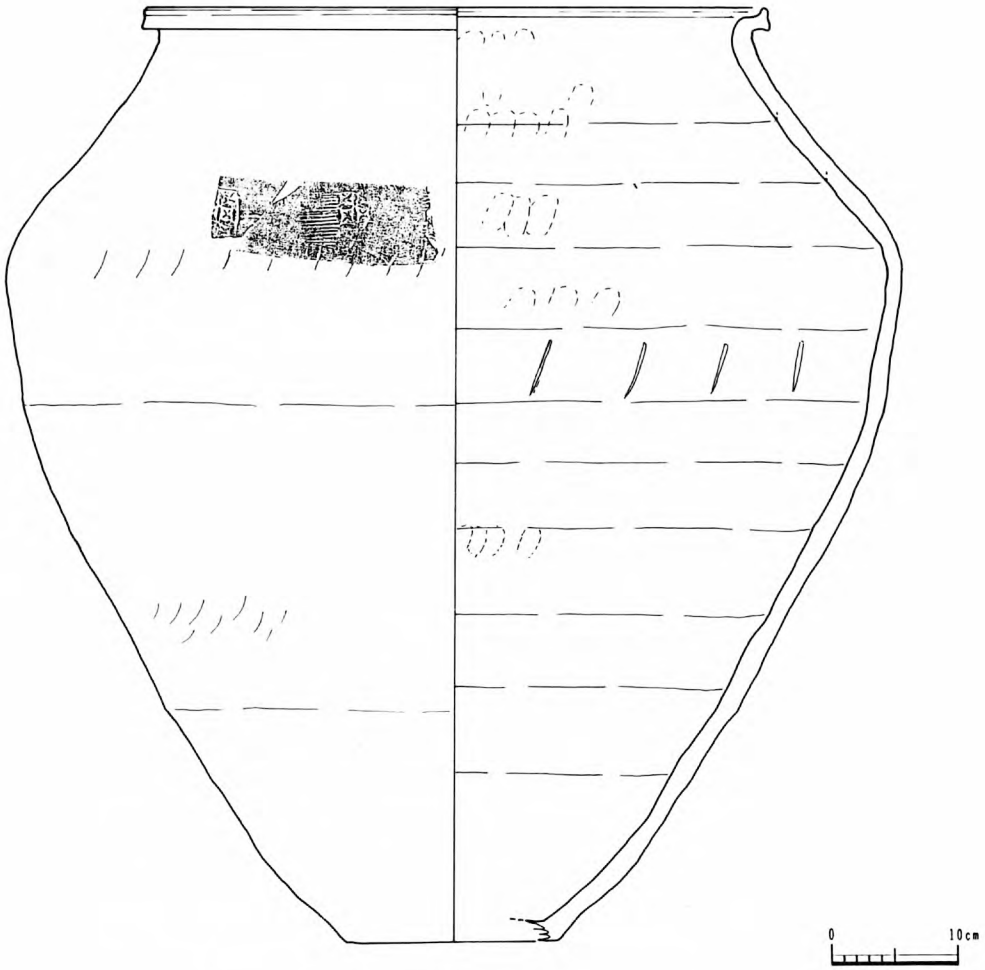
石川郡鳥越村鳥越城跡よりⅡ－201が出土している。

松任市の剣崎遺跡よりⅣ－401が、竹松Ｃ遺跡でⅡ－201が、小川小白山社跡よりⅣ－101か102が出土している。

金沢市の普正寺遺跡より昭和40年の調査でⅣ－104・301が、昭和57年の調査でⅡ－411、Ⅴ－102が出土している。

鳳至郡門前町道下元町遺跡よりⅤ－102が出土している。

福井県坂井郡丸岡町の豊原寺遺跡よりⅠ－101?、Ⅴ－102・111が出土している。



第27図　戸津町出土　甕　実測図　（Ｓ＝１／６）

3．押印をもつ遺物

本遺跡で確認された押印の消費遺跡での出土例を前述したが、その中で図上復元も含めて全体の器形が判明しているものを略述してみる。

1）戸津町出土甕（第27図）

本資料は、表採であり十数片に割れていたが復元した結果、口径50.0cmを測る大甕である。底径16.5cm、最大径72.0cm、器高74.5cmを測る。口縁部は、やや強く引き出し端部を上へ折り、押さえたもので下にはややはりだしている。分類としては甕D_2類と考えられるがD_1類に近く、いわゆるN字状口縁の前段階のものと考える。外面にはヘラ状具によるあて痕が残り、下半にはタテハケナデ痕が認められる。内面は指押さえ痕が残り、中央付近にはやはりヘラ状具によるあて（押さえ）痕が認められる。押印はⅡ－211が認められ、押印部分の破片が少なく数は不明だが肩部に16個位が押されていたと考えられる。

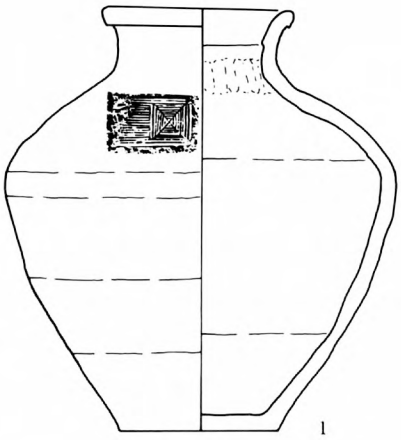
本資料は、昭和60・61年度に、近間強氏と氏が顧問の石川県立小松高等学校地歴部の活動としての小松丘陵窯跡群分布調査により、戸津古窯跡群の向かいの丘陵裾で発見・採集されたものであり、氏の好意により小松市教育委員会に寄贈されたものである。

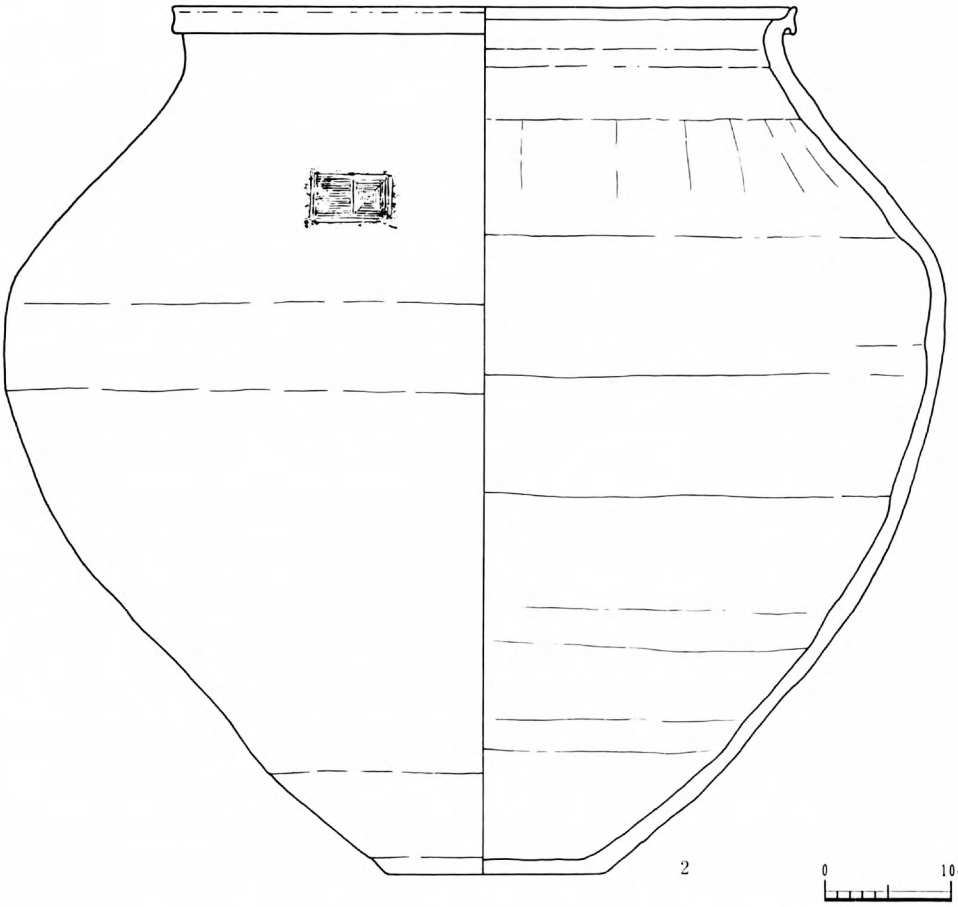
2）牧口中世墓等出土甕・壷（第28図）

本資料は、両者とも完形である。2は口径48.0cm、底径17.5cm、最大径74.0cm、器高69.0cmを測る大甕である。口縁部は、端部を上下に張りださせたもので、いわゆるN字状口縁の下側の張り出しをさらに押えて、端部が垂直に立っている。分類としては甕F類と考えられる。器高に対して胴部の張りが大きいため、全体にずんぐりしている。外面は胴部最大径部分にヘラケズリ痕が、その上にはナデ痕が認められ、全体にはタテハケ痕が残る。内面は丁寧な指押さえ痕が見られる。押印はⅣ－101が認められ、肩部に12個押されている。1は口径15.4cm、底径12.0cm、最 大径20.6cm、器高33.0cmを測る中壷である。口縁部は、やや外へ引き出し、端部を押さえてまるみをもたせ、やや下端を尖らせている。分類としては壷B_2類に入るもので、いわゆる玉縁状口縁の前段階と考えられ、172に似ている。外面はタテハケ痕が認められ、内面頸部には指押さえ痕が残る。押印は2と同じくⅣ－101が肩部に認められ、7個が等間隔に押されている。

2は、昭和30年代に耕地整理の際発見されたもので、現在市立博物館に収蔵されている。牧口町にある牧姫塚と伝えられる場所よりの出土である。出土状況は、塚の下に凝灰岩の切石を組み合わせて約1.5m四方の石の箱があり、その中に人骨がはいった本品があって、その上に少量の木材と14枚の土師質の皿が乗り、外部よりの水の侵入を防ぐ目的であろうが粘土で密封されていたとのことであった。

1は、その出自ははっきりしないが牧口町出土と伝えられるものであり、中に骨片が残りやはり蔵骨器として転用されたものである。2と同じ色調（灰色）であり、押印も同じものであるので、同一の窯の製品と推定され、湯上谷古窯跡のものと考えられる。

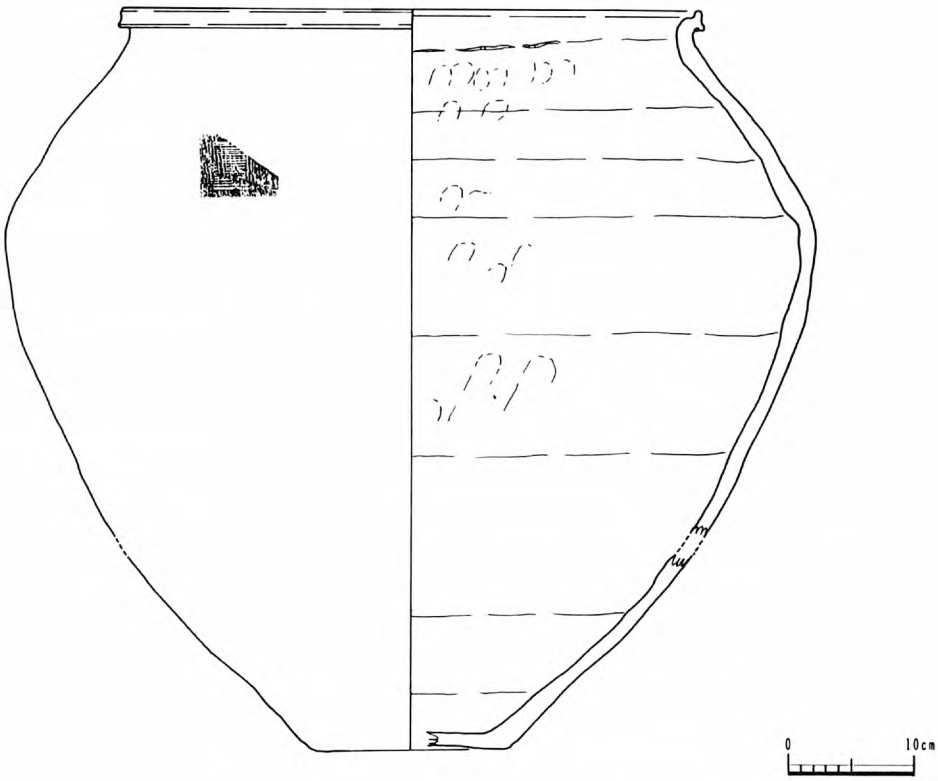




第28図　牧口中世墓等出土　甕・壷　実測図（S＝1／6）

3）軽海中世墓出土甕（第29図）

本資料は、軽海中世墓の発掘調査により出土したもので、口縁から胴部下半中ほどまで接合できた。また、同一個体で底部より胴部下半までも接合できたもので、プロポーションは牧口中世墓出土の大甕に似ているため、足りないところを図上復元してみた。口径46.0㎝、底径16.0㎝、最大径65.0㎝、器高推定60.0㎝を測る中甕である。口縁部は、引き出した端部を上へ折り、外側面を押さえて下にやや張りださせたもので、端部は比較的厚ぼったい。端部内側には明瞭な凹が認められ、また、外側面（縁帯）は内傾し、中ほどがやや凹んでいる。分類としては甕C_2類と考えるが、厚ぼったいN字形である。外面下半にはタテハケ痕がみられ、内面は指押さえ痕が残っている。押印はⅣ－101が認められ、前述の牧口中世墓等出土の甕・壷と同じである。



第29図　軽海中世墓出土　甕　実測図　（S＝1／6）

第5章　まとめ

ここでは、中世加賀古窯の中での湯上谷古窯跡の位置づけの試案を呈示してまとめとしたい。

（1）加賀における瓷器系中世陶器は、発見当初よりの研究者である上野与一氏により加賀古陶と命名され、小村と共に1984年に『加賀古陶』が刊行された。これはいままでの研究の集大成であり、基本文献としての価値は大なるものがある。その後、第1章でも述べたが最近の分布調査の進展により新たな発見がなされ、また、消費遺跡等の発掘調査例が多くなり、そこでの出土資料の増加により研究も新たな段階に入った。

名称としては、前述した上野氏等の“加賀古陶”は、須恵器窯廃絶後から磁器窯創始直前に南加賀で焼成された焼物の内、瓦を除いた窯業製品を指し、その定義を踏まえ、作見焼等を除外した楢崎彰一氏の分類による瓷器系第4類を“加賀焼”と呼称する研究者もいる。これは、同じ中世窯の“越前焼”・“珠洲焼”に対してのものである。これらは製品をさす言葉であり、窯自体を呼称することが不便と考えられるので、ここでは同じく瓷器系第4類を正しくは“加賀古窯”や“加賀古窯製品”と呼称する。しかし、いずれの場合も文章として短縮した場合や、口頭で述べるときは“加賀”とすることが多いので、本書でも単に加賀と記述する場合もある。

（2）加賀古窯の編年については、『加賀古陶』において第Ⅰ～Ⅴ期に分類されている。第Ⅰ期は奥谷1号窯（二ツ梨オクダニ窯）で平安時代末（12世紀後半）、第Ⅱ期は那谷1号窯（那谷カナクソダニ窯）が鎌倉時代初（12世紀末～13世紀初）、小天王谷窯（那谷コテンノウダニ窯）が鎌倉時代前半（13世紀前半）、第Ⅲ期は大天王谷窯（那谷ダイテンノウダニ窯）で鎌倉時代中頃（13世紀後半）、第Ⅳ期はカミヤ窯（那谷カミヤ窯）で鎌倉時代末から南北朝時代（14世紀）、第Ⅴ期はカマンダニ窯（西荒谷カマンダニ窯）で室町時代初（14世紀末～15世紀初）である。これらは、年代はともかくおおまかな流れとしては的を得ているものと考えられる。次以降に、本湯上谷古窯跡の成果をふまえつつ、新たな出土資料も含めて一考してみたい。

（3）編年を考える上では器種分類等の総合的な判断が重要であるが、現段階ではできていないため、上記の編年もそうであるが、主に甕の口縁部の変化で概略述べてみたい。

本調査で出土した甕の口縁形態をA～H類に分類してみたが、相対的に見ればA類とB類が古式に位置付けができると考える。上記編年の那谷カナクソダニ窯・那谷コテンノウダニ窯のⅡ期に相当する甕の口縁形態に比定できるものが存在する。また、B類としたなかには、同じく上記の那谷ダイテンノウダニ窯のⅢ期に相当するものに類似しているものも認められる。しかし、このA・B類は量的には少なく、C・D類が圧倒的な量を占めている。中でも特に、下への張り出

し（垂れ下り）が強いC_3類とD_3類の比率が大きいので、本古窯跡の操業の盛期はこの頃と考えられ、この盛期は上記の第Ⅳ期の那谷カミヤ窯と一部重なるか次にくるものと考えられる。しかし、上記の編年における第Ⅴ期の西荒谷カマンダニ窯までは下らないと考える。

（4）以上のこと及び窯跡分布調査の進展による新知見を加えて、現在考えられている編年観を試案として述べてみたい。

上記編年のⅤ期6群の窯跡より、本古窯跡・上荒屋ハカンタニ窯跡が発見され、また、那谷カミヤ窯跡では新たな発見がなされたので、第Ⅰ～Ⅵ期に分けてみた。基本的には、上記編年をたたきだいにしつつ第Ⅴ期の西荒谷カマンダニ窯跡をⅥ期とした。その中で、第Ⅵ期の那谷カミヤ窯跡については5基の窯跡の存在が確認されている。出土している資料の中に明瞭になるN字状口縁をもつ大甕の他に、Ⅰ期～Ⅲ期的な形態をもつ中小甕も認められる。また、内外面ハケ調整の鉢が存在している。これは甕については未確認であるが、最近消費遺跡で出土しているハケ製品との関連で重要な窯跡である。よって、カミヤ窯跡は第Ⅰ期から第Ⅳ期までの窯跡群と考えられる。しかし、第Ⅰ期のうちでもオクダニ窯跡より後出性を感じる。本湯上谷古窯跡については第Ⅱ期に操業を開始し、第Ⅲ期の中頃までは続き、その後不明確である（続いていた可能性が高い）が、第Ⅳ期の中頃に前出のカミヤ窯跡の操業期間に重複する形で操業が上向き、第Ⅴ期で一気に盛期を迎えたが、長続きせずに終息したと考えられる。上荒屋ハカンタニ窯跡は、本湯上谷窯跡とは同一支群であり、甕はN字状口縁の最も発達した形態をもつことより、同じ第Ⅴ期のなかに入るものと考えている。

（5）本古窯跡の押印については、操業期間が長いことも一因であろうが、一窯場で60種近くが確認されていることは他に例をみないのではなかろうか。この押印のもつ意味はいろいろ推定できると考えるが、浅学な筆者には述べられないので、その他気付いた二三の点について述べてみたい。

加賀の押印は、第Ⅰ期から認められ、当初は斜格子のみである。それに花文が組み合わされ、花文が単一から複数花文となっていく。また、組み合わされた斜格子も単線から複線となり複雑な組合せへと変化していくと考えられている。前出のカミヤ窯跡よりカナクソダニ窯跡出土のものに近似している斜格子のみの押印が出土していて、このカミヤ窯跡が押印よりもⅡ期までさかのぼれることが言える。

湯上谷古窯跡では、この伝統的なパターンもあるが、花文と格子を分画内に配置したものや、幾何文風なもの、櫺子風や簾風なものの多種にわたっている。湯上押印Ⅰ－101・Ⅱ－101は那谷カナクソダニ窯・同コテンノウダニ窯で確認されている押印に近似している。蛇足ではあるが、Ⅱ－101は色調等により甕A類の45と同一個体かそれに近いものと考えられる。

また、Ⅴ－101・102や301等は同じ瓷器系中世陶器である新潟の笹神窯製品の押印の意匠に近

似している。Ⅰ－301は須恵器系中世陶器である珠洲法住寺２号窯よりよく似たものが出土している。

（６）その他、壷については、窯跡調査例が少なく、ほとんどが表採品であるので様相が不明確である。本調査ではある程度まとまって出土していて、口縁形態によりＡ～Ｅ類に分類したが、それが時期差なのか、またはその他なのかは不明といわざるを得なかった。鉢の口縁形態についても、Ｃ類はやや新しいかという感じ位の認識であり、今後の明確な器種分類に伴う総合的な観察を行う必要性を痛感している。

（７）さて最後に編年に伴う年代観であるが、筆者の考えるところは、前出の『加賀古陶』のなかで小村が述べていることと大差はない。現段階で最も古いと考えられている二ツ梨オクダニ窯は、12世紀の後半遅くとも末までには操業を開始したと考える。第Ⅳ期の中頃までは13世紀代におさまり、本湯上谷窯の操業が本格的になったのは14世紀に入ってからと考える。上荒屋ハカンタニ窯は14世紀の第３四半期と考えられ、次には湯上谷窯とハカンタニ窯は操業が停止し、西荒谷カマンダニ窯は同第４四半期のなかでの開始で、おそくとも15世紀の初めには停止した（加賀古窯の終焉）と考えているが、このカマンダニ窯は、あまりにも越前を意識している傾向が強いため、あるいはもうすこし下がる可能性もあると考える。なお、このカマンダニ窯の出土資料の中に、Ⅱ期的な斜格子のみの押印が認められるが、これは遺物を発見・採集した経緯及び保管・移動のなかでの混入とも考えられなくもないので、この解明は今後の調査等にゆだねたい。

番号	器種	法量(cm)	器面調整等	胎土	色調・焼成	出土地点	備考
6図1	甕	口径69.2	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	5㎜大の小石若干含む 1㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒多く含む	内外とも淡橙灰色 ・良好	A 5 − 4	
〃2	〃	口径67.3	内害口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ一部ヘラによるヨコケズリ、内指押え後ヨコナデ	4〜5㎜大の小石若干含む 2㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒含む	外暗灰色、一部灰色 内暗赤灰色 ・良好	A 4 − 1	肩部にヘラによる3条の沈線及びヘラ刺し（？）痕
〃3	〃	口径76.2	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	2〜3㎜大の小石・石英粒やや含む、2㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや多く含む	外黄褐色 内灰褐色 ・良好	B 2 − 3 B 3 − 4	
〃4	〃	口径57.4	外ヨコナデ・指押え・ヘラケズリ・ナデ 内指押え後ヨコナデ	5㎜位の白色粒・石英粒やや含む、1㎜以下のくろいろ粒・砂粒含む	内外とも灰色 ・良好	B 3 − 2〜4 B 4 − 3　C 5 − 2 C 3 − 1〜3 C 6 − 1　D 3 − 2	押印Ⅱ 4 1 2
〃5	〃	口径52.7	外ヨコナデ 内ヨコナデ・指押え	5㎜大の小石若干含む 2㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや含む	内外とも灰色 ・良好	A 3 − 4 B 1 − 2	
〃6	〃	口径50.5	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	4㎜大の小石やや含む 2㎜以下の白色砂粒・黒色多く含む	内外とも淡赤灰色 ・良好	B 4 − 3	
7図7	〃	口径50.7	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後2条の凹線、内指押え後ヨコナデ	5㎜大の小石若干含む 1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや多く含む	内外とも灰色 ・不良	C 3 − 1	
〃8	〃	口径50.8	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	5㎜大の小石若干含む 1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも黄白色 ・不良	A 3 − 4	
〃9	〃	口径67.0	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	2〜5㎜大の小石・石英粒若干含む、1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外淡灰褐色（自然釉）、内淡褐色 ・良好	A 4 − 4　A 5 − 3 B 5 − 1〜3	押印Ⅳ 3 0 1
〃10	〃	口径76.2	外口縁部ヨコナデ 内丁寧なヨコナデ	1㎜大の白色砂粒・黒色粒やや含む	外緑灰色（自然釉）、内黒灰褐色 ・良好	A 4 − 4 B 4 − 2 B 5 − 1	
〃11	〃	口径77.0	内外口縁部ヨコナデ 外タテハケナデ 内指押え後ヨコナデ	2〜5㎜大の小石・石英粒若干含む、1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外灰褐色 内黄灰褐色 ・良好	B 3 − 3 B 4 − 3	
8図12	〃	口径54.4	内外ともヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒若干含む	内外とも灰色 ・良好	B 7 − 3	
〃13	〃	口径52.1	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	4㎜位の小石若干含む 1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外淡青灰色 内暗褐色	B 3 − 4	
〃14	〃	口径64.6	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ、内指押え	2㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも灰褐色 ・良好	C 3 − 1 C 3 − 3	
〃15	〃	口径48.9	内外口縁部ヨコナデ 外タテハケ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	5㎜大の小石やや含む 1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや多く含む	内外とも灰色 ・良好	表採	
〃16	〃	口径56.0	外ヨコナデ 内ヨコナデ・指押え	5㎜大の小石・石英粒やや含む、1㎜以下の黒色粒・砂粒含む	外淡緑灰色（自然釉） 内灰色 ・良好	B 4 − 4　B 6 − 1 C 4 − 4 C 5 − 1・2	
〃17	〃	口径52.4	内外口縁部ヨコナデ 外指押え・ヨコナデ・ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	3㎜以下の白色砂粒、1㎜以下の黒色粒含む	内外とも灰色 ・良好	A 5 − 1　B 4 − 4 C 3 − 1　C 4 − 4 C 5 − 2	押印Ⅱ 4 1 2
〃18	〃	口径59.7	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	4㎜位の小石やや多く含む、2㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも灰色 ・良好	C 6 − 1	

番号	器種	法量(cm)	器面調整等	胎土	色調・焼成	出土地点	備考
9図 19	甕	口径63.1	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ ・タテハケ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	5㎜大の小石若干含む 2㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒含む	内外とも淡青灰色 ・良好	A 5 − 4	
〃 20	〃	口径55.8	外口縁部ヨコナデ・指押え・タテハケナデ 内口縁部ヨコナデ・ヨコナデ・指押え	3㎜以下の白色砂粒、1㎜以下の黒色粒含む	内外とも淡黒灰色 ・良好	B 2 − 4 B 3 − 1 C 3 − 1・2	押印Ⅱ 4 1 2
〃 21	〃	口径55.7	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	3㎜大の小石若干含む 1㎜以下の白色砂粒・黒色粒多く含む	内外とも灰褐色 ・良好	B 1 − 4	
〃 22	〃	口径59.9	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	2㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも灰褐色 ・良好	B 3 − 1 C 4 − 4 C 5 − 1	
〃 23	〃	口径49.9	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	2㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外灰色（自然釉）、内灰褐色 ・良好	A 4 − 1	
〃 24	〃	口径52.8	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	3㎜以下の白色砂粒・石英粒含む、1㎜以下の黒色粒やや含む	内外とも灰色 ・良好	C 6 − 1	
〃 25	〃	口径57.1	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	5〜7㎜大の小石若干含む 2㎜以下の白色砂粒、0.5㎜以下の黒色粒含む	外灰白色（自然釉） 内灰色 ・良好	C 3 − 1 ミゾ	
〃 26	〃	口径54.7	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	2〜5㎜大の小石若干含む 1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外淡灰褐色 内灰褐色 ・良好	B 3 − 4 C 3 − 2 C 4 − 2	
〃 27	〃	口径53.7	内外ともヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒若干含む	内外とも灰色 ・良好	C 3 − 3	
〃 28	〃	口径54.5	内外口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	4㎜大の小石若干含む 1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外明褐色(口縁部)・淡緑灰色(自然釉) 内橙褐色 ・良好	表採	
〃 29	〃	口径50.3	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	6㎜大の小石若干含む 1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	内外とも淡青灰色 ・良好	B 4 − 3 B 5 − 1	押印Ⅰ 2 0 1
〃 30	〃	口径61.4	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ・タテハケ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも灰色 ・良好	B 7 − 1・3 C 1 − 2	
〃 31	〃	口径65.5	内外口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外灰白色（自然釉）、内灰色 ・良好	B 4 − 3	
〃 32	〃	口径50.0	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	2〜5㎜大の小石若干含む 1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外緑灰色（自然釉）、内淡灰色 ・やや良好	B 5 − 2・4 C 6 − 1	
〃 33	〃	口径52.4	内外口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	3〜5㎜大の小石若干含む 1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外淡緑灰色(自然釉)、内口縁部明黄褐色(自然釉) ・良好	A 5 − 3・4	押印Ⅴ 1 0 2
11図 34	〃	口径62.0	内外口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	2〜5㎜大の小石・石英粒若干含む、1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外淡緑灰色（自然釉） 内淡灰褐色 ・良好	B 5 − 4 C 5 − 1 D 3 − 2	押印Ⅴ 1 0 6
〃 35	〃	口径50.8	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ	3㎜大の小石・石英粒若干含む、1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや多く含む	内外とも灰褐色 ・良好	A 3 − 4	
〃 36	〃	口径49.2	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも灰色 ・良好	B 4 − 3	

番号	器種	法量(cm)	器面調整等	胎土	色調・焼成	出土地点	備考
11図 37	甕	口径51.5	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	5㎜大の小石若干含む 2㎜以下の白色砂粒、1㎜以下の黒色粒含む	内外とも青灰色（外自然釉）・良好	B3－3	
〃 38	〃	口径66.2	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	4㎜位の小石若干含む 1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも明褐色（自然釉）・良好	ミゾ	
〃 39	〃	口径49.1	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	2㎜以下の白色砂粒 0.5㎜以下の黒色粒含む	外灰白色 内灰色 ・良好	ミゾ	
〃 40	〃	口径63.4	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え	2㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも明褐色・良好	A3－3	ゆがみあり
〃 41	〃	口径59.3	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや多く含む	外灰褐色 内淡青灰色 ・良好	B2－1	
〃 42	〃	口径67.1	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	3㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも灰褐色・良好	表採	
12図 43	〃	口径49.1	内外口縁部ヨコナデ 外指押え（？） 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外淡灰色、一部黒灰色 内灰色 ・良好	B1－4 B7－2	
〃 44	〃	口径49.9	外ヨコナデ 内外口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや多く含む	内外とも灰白色・良好	A5－4	
〃 45	〃	口径40.2	内外口縁部ヨコナデ 外指押え（？） 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外淡褐色 内灰褐色 ・良好	A4－1 表採	
〃 46	〃	口径47.8	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	2㎜大の小石・石英粒若干含む、0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外淡青灰色、外口縁部及び内明褐色 ・良好	A4－3 A5－3	
〃 47	〃	口径44.7	内外ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも灰白色・良好	A3－4	
〃 48	〃	口径42.6	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒含む	内外とも灰色、口縁部青緑色（自然釉）・良好	B6－1	
〃 49	〃	口径35.2	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや多く含む	外緑灰色、（自然釉）、一部灰白色、内淡灰褐色 ・良好	表採	
〃 50	〃	口径36.2	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ 内指押え後ヨコナデ	2㎜以下の白色砂粒 0.5㎜以下の黒色粒やや多く含む	外青緑色（自然釉）・淡青灰色 内淡灰褐色 ・良好	A3－4	
〃 51	〃	口径47.9	外丁寧なヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	2㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも灰色・良好	B4－3	
〃 52	〃	口径45.9	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ 内指押え後ヨコナデ	2㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外淡緑色（自然釉）、一部灰白色、内淡灰褐色 ・良好	B3－4	
〃 53	〃	口径47.4	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	4㎜大の小石若干含む 2㎜以下の白色砂粒、1㎜以下の黒色粒やや含む	外灰白色 内灰褐色 ・良好	A2－4	
〃 54	〃	口径48.0	内外口縁部ヨコナデ 外ヨコナデ後ハケナデ・板状具によるケズリ	5㎜以下の小石・石英粒やや含む、1㎜以下の白色粒・黒色粒含む	内外とも灰色・良好	A2－3	

番号	器種	法量(cm)	器面調整等	胎土	色調・焼成	出土地点	備考
13図 55	甕	口径45.3	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外緑灰色（自然釉）、内灰色 ・良好	B 4 − 4	
〃 56	〃	口径46.0	外口縁部ヨコナデ・指押え 内ヨコナデ・指押え	5㎜以下の小石・石英粒やや含む、1㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや含む	外緑灰色（自然釉）、内灰色 ・良好	B 3 − 3・4 C 3 − 1 C 4 − 4	押印Ⅱ 4 1 2
〃 57	〃	口径37.5	内外口縁部ヨコナデ 外タテハケ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも灰色 ・良好	A 3 − 4 B 6 − 3	
〃 58	〃	口径47.8	外口縁部ヨコナデ・タテハケ 内指押え後ヨコナデ	3㎜以下の石英粒やや含む、1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外灰色 内淡灰褐色 ・良好	A 3 − 3 B 3 − 3 C 3 − 1	
〃 59	〃	口径43.8	内外口縁部ヨコナデ 外タテハケ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外淡青灰色 内灰色 ・やや良好	C 3 − 2	
〃 60	〃	口径45.5	内外ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも淡青灰色 ・良好	B 5 − 1 B 6 − 1	
〃 61	〃	口径48.9	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	4〜5㎜大の小石やや多く含む、2㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや多く含む	内外とも灰色 ・良好	A 2 − 3　B 2 − 4 B 3 − 4　B 4 − 4 C 3 − 1・3	
〃 62	〃	口径47.2	内外口縁部ヨコナデ 外タタキ（ヨコ） 内指押え後ヨコナデ	4㎜大の小石若干含む 1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも灰色 ・良好	ミゾ	
〃 63	〃	口径47.6	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ 内指押え後ヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外暗緑色（自然釉）、一部灰白色、内灰白色 ・良好	表採	
〃 64	〃	口径36.2	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	3㎜以下の白色砂粒・石英粒やや含む、0.5㎜以下の黒色粒含む	内外とも青灰色 ・良好	D 4 − 1	
〃 65	〃	口径38.3	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外灰白色 内灰褐色 ・良好	A 2 − 5 B 1 − 4 B 2 − 1	
〃 66	〃	口径48.0	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	3㎜以下の白色砂粒・黒色粒若干含む	内外とも灰色 ・良好	B 5 − 4 C 5 − 1 D 3 − 2	
14図 67	〃	口径45.8	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	2㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	内外とも明褐色 ・良好	ミゾ	
〃 68	〃	口径40.4	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒含む 0.5㎜以下の黒色粒やや含む	外灰白色 内灰褐色 ・良好	A 2 − 4	
〃 69	〃	口径44.7	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外灰色 内明褐色 ・良好	B 4 − 3	
〃 70	〃	口径36.4	内外口縁部ヨコナデ 内ヨコハケ・ヘラケズリ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒多く含む	外淡青灰色・緑灰色（自然釉） 内淡灰褐色 ・良好	B 3 − 3	押印Ⅴ 1 0 2
〃 71	〃	口径39.9	内外口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	5㎜位の小石やや多く含む、1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや多く含む	外灰色（自然釉）、内灰色 ・良好	B 4 − 3	
〃 72	〃	口径36.6	外ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外淡青灰色 内緑褐色（自然釉） ・良好	表採	やきゆがみのため若干小さくなる可能性あり

番号	器種	法量(cm)	器面調整等	胎土	色調・焼成	出土地点	備考
14図 73	甕	口径47.8	内外口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ・ヘラ(?)によるヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外灰色、外一部緑灰色(自然釉) ・良好	A5－4 C3－1 C6－1	
〃 74	〃	口径41.1	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒若干含む	内外とも淡青灰色 ・良好	B2－1 C1－2	
〃 75	〃	口径35.0 底径16.7 最大54.8 器高55.0	内外口縁部ヨコナデ 外ハケナデ 内板状具による押え	3㎜以上の小石・石英粒やや含む、1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや多く含む	外緑灰色(自然釉)、一部黄褐色、内黄褐色(自然釉) ・良好	A5－4　B3－4 B4－3	押印Ⅳ106 やきゆがみ激しい
〃 76	〃	口径41.5	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	3㎜以下の白色砂粒・石英粒・黒色粒・砂粒含む	外灰色 内灰褐色 ・良好	B3－3	
15図 77	〃	口径38.5 底径18.5 最大62.0 器高59.2	内外口縁部ヨコナデ 外タテハケナデ・ヘラケズリ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外淡黒灰色、一部灰色 内灰色 ・良好	B3－4 C3－1．2 C4－3	押印Ⅳ202
〃 78	〃	口径41.4	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	4㎜大の小石若干含む 0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも淡青灰色 ・良好	C6－1	
〃 79	〃	口径45.9	内外口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	2㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外灰白色 内褐色 ・やや良好	A4－2　A6－3 A5－1～3 C1－2	
〃 80	〃	口径43.7	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	4㎜大の小石を含む 2㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも灰褐色 ・良好	A4－1	
〃 81	〃	口径39.7	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外灰緑色(自然釉)、一部灰褐色、内灰褐色 ・良好	C3－1	
〃 82	〃	口径48.0	内外口縁部ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒含む	内外とも明黄褐色 ・良好	ミゾ	
〃 83	〃	口径40.2	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	3～5㎜大の小石若干含む、1㎜以下の白色砂粒、0.5㎜以下の黒色粒含む	内外とも灰色 ・やや良好	ミゾ	
〃 84	〃	口径35.0	外ヨコナデ 内外口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	2㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒含む	外灰色 内淡灰褐色 ・良好	B3－4	
16図 85	〃	口径42.6	内外口縁部ヨコナデ 内指押え	0.5㎜大の白色砂粒・黒色粒やや含む	外淡緑灰色 内淡灰褐色 内外自然釉 ・良好	B3－3 C3－1	押印Ⅳ101
〃 86	〃	口径40.3	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	3㎜大の小石・石英粒若干含む、1㎜以下の白色粒・黒色粒含む	外緑灰色(自然釉)、内淡青灰色 ・良好	B2－1	
〃 87	〃	口径39.0	内外口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	5㎜大の小石若干含む 1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外緑灰色(自然釉)・褐色 内濃黄褐色・緑灰色(自然釉) ・良好	A3－3 C3－1 B2－1・2	押印Ⅱ211
〃 88	〃	口径46.6	内外ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも灰白色 ・不良	C3－1	
〃 89	〃	口径42.6	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	2㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや多く含む	外灰白色・一部灰褐色 内黄褐色 ・良好	表採	
〃 90	〃	口径45.9	内外口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや多く含む	外緑灰色(自然釉)・一部灰色 内灰色 ・良好	B4－4 C4－4	やきゆがみあり

番号	器種	法量(cm)	器面調整等	胎土	色調・焼成	出土地点	備考
16図 91	甕	口径43.3	外ヨコナデ 内外口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒多く含む	外緑灰色（自然釉）、内灰白色 ・良好	B 4 − 3	
〃 92	〃	口径38.2	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒多く含む	外緑灰色（自然釉）・一部灰色 内赤褐色 ・良好	A 4 − 1	
〃 93	〃	口径40.6	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ（タテ） 内指押え後ヨコナデ	4㎜大の小石若干含む 2㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや多く含む	外灰白色・一部緑灰色（自然釉）、 内淡灰褐色 ・良好	A 4 − 1 A 5 − 4	
〃 94	〃	口径46.2	内外口縁部ヨコナデ 外ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒黒色粒含む	外緑黄色(自然釉)・ 一部淡青灰色、内淡青灰色 ・良好	B 2 − 1 B 5 − 4	
〃 95	〃	口径40.0	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ 外指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒多く含む	外灰褐色 内黄褐色 ・良好	B 3 − 2 B 3 − 3	
17図 96	〃	口径23.2	内外ヨコナデ	1㎜位の石英粒やや含む 0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外緑灰色、内濃緑灰色、内外自然釉 ・良好	B 2 − 3	
〃 97	〃	口径25.8	内外口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや多く含む	外淡緑灰色、内緑灰色、内外自然釉 ・良好	A 2 − 3 B 2 − 1	押印Ⅱ 2 1 1 やきゆがみ激しい
〃 98	〃	口径22.0	内外口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外黄緑灰色(自然釉)、 内黄灰褐色・一部黄緑色(自然釉) ・良好	B 3 − 4	押印Ⅱ 2 1 1
〃 99	〃	口径30.2	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも灰色 ・良好	A 3 − 3 B 2 − 1	
〃 100	〃	口径24.2	内外口縁部ヨコナデ 内指押え	2㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも灰白色・ 一部明褐色（自然釉） ・良好	C 3 − 1	
〃 101	〃	口径26.4	内外口縁部ヨコナデ 内ヨコナデ	1㎜位の石英粒やや含む 0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外淡緑灰色、内緑灰色・一部緑灰褐色(全自然釉) ・良好	ミゾ	
〃 102	〃	口径29.3	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも灰白色 (自然釉) ・良好	表採	
〃 103	〃	口径24.2	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	5㎜大の小石若干含む 1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外灰白色、内明褐色、内外口縁部明褐色(自然釉) ・良好	B 3 − 3 C 2 − 1	
〃 104	〃	口径30.8	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも明褐色 内外口縁部自然釉 ・良好	A 5 − 3	
〃 105	〃	口径31.9	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	2㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも灰色 ・良好	A 6 − 4	
〃 106	〃	口径29.1	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも青灰色 ・良好	B 4 − 2	
〃 107	〃	口径26.4	内外ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外灰白色 内褐色 ・良好	表採	押印Ⅴ 1 1 1 (？)
〃 108	〃	口径29.1	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外灰色、内緑灰色（自然釉） ・良好	B 4 − 3	

番号	器種	法量(cm)	器面調整等	胎土	色調・焼成	出土地点	備考
17図 109	甕	口径34.5	外口縁部ヨコナデ・タテハケ 内ヨコナデ・指押え	1㎜以下の白色砂粒・石英粒・黒色粒・砂粒やや多く含む	外淡緑灰色（自然釉） 内橙褐色 ・良好	表採	
〃 110	〃	口径29.4	内外口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒多く含む	内外とも灰色 ・良好	C3－1	
〃 111	〃	口径25.3	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	2㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒含む	内外とも灰色 ・良好	C3－3	
〃 112	〃	口径26.8	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外明褐色、外口縁部灰白色（自然釉） ・良好	C3－1	
18図 113	〃	口径34.6	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒含む	内外とも灰色 ・やや良好	C3－1	
〃 114	〃	口径27.1	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	3㎜大の小石・石英粒若干含む、2㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも淡青灰色 ・良好	C3－3	
〃 115	〃	口径33.5	内外口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	3㎜大の小石・石英粒若干含む、1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外灰白色、内赤褐色、内外口縁部自然釉 ・良好	C3－4	
〃 116	〃	口径30.1	内外口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	2㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや多く含む	内外とも灰色 内外口縁部自然釉 ・良好	C3－2	
〃 117	〃	口径29.8	内外口縁部ヨコナデ 内指押え	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒多く含む	外濃緑灰色(自然釉)、内黄茶色・口縁部黒緑色(自然釉) ・良好	B3－3　C2－2 表採	押印Ⅳ106 やきゆがみあり
〃 118	〃	口径22.8	内外口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	3㎜大の小石・石英粒若干含む、1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外灰色 内赤褐色 ・良好	A5－3	
〃 119	〃	口径30.3	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	5～7㎜の小石若干含む、2㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも明褐色 内外口縁部自然釉 ・良好	C3－1	
〃 120	〃	口径29.2	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	4㎜大の小石・石英粒若干含む、2㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも明褐色 内外口縁部自然釉 ・良好	A3－4	
〃 121	〃	口径21.0	内外口縁部ヨコナデ 外ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1～2㎜位の石英粒若干含む、1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外淡緑灰色、内口縁部淡緑灰色・黄褐色 全て自然釉 ・良好	B3－4	押印Ⅲ201 (？)
〃 122	〃	口径25.8	内外口縁部ヨコナデ 内指押え	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外緑灰色(自然釉)、内口縁部緑灰色(自然釉)・濃黄褐色 ・良好	ミゾ	
〃 123	〃	口径26.6	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	5㎜大の小石若干含む 1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外灰白色（自然釉）・一部明褐色、内明褐色 ・良好	B3－3　C3－1	
〃 124	〃	口径21.0	内外口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・石英粒・黒色粒やや多く含む	外口縁部黄緑灰色・緑灰色(自然釉)、内口縁部緑灰色(自然釉)・黄灰褐色 ・良好	C2－1	
〃 125	〃	口径25.1	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも淡青灰色 ・良好	ミゾ 埋土	
〃 126	〃	口径19.0	内外口縁部ヨコナデ 内指押え・ヨコナデ	1～2㎜大の小石・石英粒やや含む、1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや多く含む	外濃緑色(自然釉)・一部白灰色、内淡黄緑色(自然釉)・一部褐色 ・良好	表採	

番号	器種	法量(cm)	器面調整等	胎土	色調・焼成	出土地点	備考
18図 127	甕	口径28.2	内外口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや多く含む	外淡緑灰色(自然釉)、内口縁部淡緑灰色(自然釉)・淡灰色 ・良好	D 3 − 1	
〃 128	〃	口径24.4	内外口縁部ヨコナデ顕著 内指押え後ヨコナデ	2㎜大の石英粒やや含む 1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外淡緑灰色(自然釉)、内緑灰色(自然釉)・一部黒灰褐色 ・良好	A 5 − 1	
〃 129	〃	口径24.2	内外口縁部ヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや多く含む	外口縁部灰白色・緑灰色(自然釉)、内濃緑灰色(自然釉) ・良好	C 3 − 3	
〃 130	〃	口径27.0	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ 内指押え後ヨコナデ	3㎜大の小石若干含む 1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	内外とも灰白色 ・良好	D 3 − 1	押印Ⅰ 3 0 2
〃 131	〃	口径31.2	内外口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒多く含む	外灰色、内明褐色、内外口縁部自然釉 ・良好	B 2 − 1 B 4 − 4	やきゆがみあり
19図 132	〃	口径32.0	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	4㎜位の小石若干含む 2㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒多く含む	内外とも灰白色 内外口縁部自然釉 ・良好	ミゾ	
〃 133	〃	口径32.6	内外口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1〜2㎜大の白色砂粒・黒色粒やや多く含む	外淡緑灰色（自然釉） 内灰白色 ・良好	B 6 − 3	押印Ⅱ 2 1 1
〃 134	〃	口径29.1	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒多く含む	外灰色・口縁部明褐色（自然釉）、内明褐色 ・良好	C 5 − 2	
〃 135	〃	口径23.3	内外口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	2㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外青灰色、内灰褐色、内外口縁部自然釉 ・良好	C 3 − 1	
〃 136	〃	口径25.9	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	5㎜大の小石若干含む 1㎜以下の白色砂粒・黒色粒多く含む	内外口縁部明褐色(自然釉) 外灰白色、内明褐色 ・良好	B 3 − 4	
〃 137	〃	口径34.6	内口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	2〜5㎜大の小石やや含む、1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外口縁部黄緑灰色・緑灰色（自然釉）、内黄緑色 ・良好	B 3 − 4 B 4 − 3 C 6 − 1	押印Ⅳ 1 0 6
〃 138	〃	口径18.2	内外口縁部ヨコナデ 内ヨコナデ	1㎜位の小石・石英粒やや多く含む、0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外緑灰色(自然釉)・一部赤褐色、内黒灰褐色(自然釉) ・良好	B 2 − 3	押印Ⅳ 2 0 1 又はⅡ 4 1 1
〃 139	〃	口径29.5	内外口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	5㎜大の小石若干含む 2㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒多く含む	外灰白色（自然釉）、内暗褐色 ・良好	C 3 − 1 C 4 − 1	
〃 140	〃	口径25.0	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	内外とも淡灰色 ・やや良好	A 1 − 4	
〃 141	〃	口径24.0	内外口縁部ヨコナデ 内指押え	1㎜大の石英粒やや含む 0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや多く含む	内外淡灰緑色(自然釉) 内一部淡黄灰色 ・良好	B 2 − 1 表採	
〃 142	壷	口径27.2	内外口縁部ヨコナデ 内指押え	1〜1.5㎜大の小石・石英粒やや含む、0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外口縁部濃褐色・緑灰色(自然釉)、内口縁部黄灰色(自然釉)・黄灰褐色 ・良好	B 3 − 3	
〃 143	〃	口径19.7	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	内外とも灰白色(自然釉) ・良好	B 3 − 4 B 4 − 3	押印Ⅳ 1 0 6
〃 144	〃	口径19.8	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ・平行タタキ(？) 内指押え後ヨコナデ	5㎜大の小石若干含む 2㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや多く含む	外灰白色（自然釉） 内明褐色 ・良好	B 3 − 3	

番号	器種	法量(cm)	器面調整等	胎土	色調・焼成	出土地点	備考
19図 145	壷	口径17.5	外ヨコナデ 内外口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	2㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも淡青灰色（自然釉） ・良好	表採	
〃 146	〃	口径17.7	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリのりヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	内外とも灰白色（自然釉） ・良好	B 4 − 4 C 5 − 1・2	押印Ⅳ１０６
〃 147	〃	口径25.0	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	5㎜大の小石若干含む 1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや多く含む	外淡青灰色 内暗緑色 ・良好	B 3 − 4	
〃 148	〃	口径19.6	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ	1㎜大の小石・石英粒やや含む、0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや多く含む	外口縁部黄緑色・緑灰色、内灰色一部黄褐色・内外自然釉 ・良好	C 3 − 2	やきゆがみあり
〃 149	〃	口径14.8	内外口縁部ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒多く含む	外黄灰色一部濃緑灰色(自然釉)、内緑灰色(自然釉)・淡黒灰色 ・良好	C 3 − 3	
〃 150	〃	口径15.6	外丁寧なヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや多く含む	外淡緑灰色（自然釉）、内黒灰色・黄灰色 ・良好	C 2 − 1 C 3 − 1	
〃 151	〃	口径16.7	内外口縁部ヨコナデ 外ヨコナデ 内指押え・ヨコナデ	0.5〜1.2㎜の小石・石英粒やや多く含む、0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外緑灰色(自然釉)・黒灰色・内淡緑灰色(自然釉)・黒灰色 ・良好	ミゾ	
20図 152	甕	底径13.2	外ヘラケズリ後タテハケナデ 内ヨコナデ	5㎜大の小石・石英粒やや多く含む、1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外濃緑灰色(自然釉)一部黒褐色、内黄褐色(自然釉) ・良好	C 4 − 3	
〃 153	〃	底径15.5	外ハケナデ 内ヨコナデ・指押え	5㎜大の小石・石英粒やや含む、0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	内外とも淡灰色 ・良好	B 4 − 3	
〃 154	〃	底径11.8	外ヘラケズリ後タテハケナデ 内指押え後ヨコナデ	0.5㎜大の石英粒やや含む 0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外黄灰色、内淡緑灰色、内外自然釉 ・良好	B 4 − 3	
〃 155	〃	底径15.8	外ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外黒褐色・緑灰色、内黄灰褐色、外底黄褐色、内外自然釉 ・良好	A 3 − 4	
〃 156	〃	底径13.2	外ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや多く含む	外緑灰色（自然釉）・一部褐色 内黄褐色 ・良好	C 5 − 2	
〃 157	〃	底径15.6	外ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	0.5㎜大の石英粒やや含む 0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外灰色 内淡灰色 ・良好	B 4 − 1	
〃 158	〃	底径13.0	底部板おこし（？）	1㎜大の石英粒やや含む 0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや多く含む	内外緑灰色（自然釉）、外一部褐色、外底灰白色 ・良好	A 5 − 3	
〃 159	〃	底径15.0	外ハケナデ・ヘラケズリ 内指押え・ヨコナデ	1〜2㎜大の小石・石英粒やや含む、0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒多く含む	外褐色・一部灰白色、内灰白色 外底黄褐色 ・やや良好	C 3 − 1	
〃 160	〃	底径15.6	外タテヘラケズリ・ヨコケズリ 内指押え後ヨコナデ	0.5〜1㎜大の小石・石英粒やや含む、0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外黄灰褐色 内赤灰色 外底黄灰色 ・良好	B 3 − 4	
〃 161	〃	底径16.8	内ヨコナデ	1㎜大の石英粒若干含む 0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外淡黒灰色 内白灰色 ・良好	C 5 − 1	
〃 162	〃	底径20.0	内ヨコナデ	1㎜大の石英粒やや含む 0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外黄白色 内赤灰色 ・良好	ミゾ	

番号	器種	法量(cm)	器面調整等	胎土	色調・焼成	出土地点	備考
20図 163	甕	底径14.6	外タテヘラケズリ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや含む	外黄灰色、内黒緑色（自然釉） 外底黄灰色 ・良好	A 2 − 4	
21図 164	壷	口径18.5 底径13.1 最大40.5 器高46.1	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ 内指押え後ヨコナデ・ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒含む	外淡灰色・淡青灰色、外面自然釉 内淡灰色・暗灰色 ・良好	B 3 − 4　B 4 − 4 C 4 − 1　C 5 − 3 ミゾ	やきゆがみあり
〃 165	〃	口径12.5 底径10.5 最大25.5 器高29.4	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ・ヨコハケ・ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒含む	内外ともに青灰色内一部明灰褐色 ・良好	A 1 − 4　A 2 − 3 B 2 − 1　B 4 − 4 B 7 − 1 表採	やきゆがみあり
21図 166	〃	口径14.6 最大28.4	内外口縁部ヨコナデ 外指押え・ヘラケズリ・ヨコナデ、内指押え後ヨコナデ・ヨコハケ	5㎜位の小石・石英粒やや含む、1㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒含む	内外とも濃赤褐色 ・良好	A 4 − 4　B 2 − 1 B 3 − 4　B 4 − 3 B 4 − 4　C 3 − 2 C 4 − 1　C 5 − 4 C 6 − 1　D 3 − 1	
〃 167	〃	口径22.0	内外口縁部ヨコナデ 外ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	5㎜大の小石・石英粒やや含む、1㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや含む	外緑灰色（自然釉） 内黄灰色 ・良好	B 5 − 3 B 6 − 1	押印Ⅱ 4 1 1
〃 168	〃	口径23.2	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ（？） 内指押え後ヨコナデ	2㎜大の小石・石英粒やや含む、1㎜以下の白色砂粒・砂粒やや含む	外緑灰色（自然釉）、内淡灰褐色、内外一部褐色 ・良好	B 2 − 1　B 2 − 3 B 3 − 2　B 3 − 4 B 4 − 3　C 3 − 2 C 3 − 3　C 4 − 2 C 4 − 4　C 7 − 2	押印Ⅳ 1 0 1
〃 169	〃	口径15.7	内外口縁部ヨコナデ 外指押え（？） 内指押え後ヨコナデ	2㎜以下の白色砂粒・黒色含む	外灰色（自然釉）、内黒灰色 ・良好	C 3 − 1 D 3 − 1	
〃 170	〃	口径12.9	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも淡青灰色（自然釉） ・良好	B 3 − 4 B 4 − 4	
〃 171	〃	口径13.6	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも淡青灰色、外自然釉 ・良好	B 2 − 1 B 4 − 3	
22図 172	〃	口径21.2	内外ヨコナデ	1～2㎜大の小石・石英粒やや多く含む、1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外黄緑色（自然釉）、内褐色 ・良好	C 2 − 3 C 3 − 1	
〃 173	〃	口径16.8	内外ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや含む	外灰褐色一部灰色(自然釉)、内灰褐色(自然釉) ・良好	B 4 − 3・4 C 3 − 1	
〃 174	〃	口径11.7	内外ヨコナデ	2㎜以下の白色砂粒・黒色粒多く含む	内外とも淡青灰色、内自然釉 ・良好	B 2 − 1	
〃 175	〃	口径22.6	内外ヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒含む	内外とも黄灰褐色・緑灰色、内外自然釉 ・良好	C 6 − 1	
〃 176	〃	口径23.2	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒含む	内外黄灰色、一部黄緑色（自然釉） ・良好	B 6 − 3 C 6 − 1 C 6 − 2	
〃 177	〃	口径25.4	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	2～5㎜大の小石・石英粒やや含む、1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外黄灰褐色・緑灰色、外自然釉、内黄灰色、一部黄緑灰色 ・良好	A 3 − 4	
〃 178	〃	口径21.4	内外口縁部ヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒若干含む	外黄灰色、内濃緑灰色・一部灰色 内外自然釉 ・良好	C 3 − 1	
〃 179	〃	口径16.4	内外口縁部ヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒若干含む	外灰緑色、内灰色、内外自然釉 ・良好	ミゾ	
〃 180	〃	口径18.0	内外ヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外淡黄緑色、内淡褐色 ・良好	B 4 − 3	

番号	器種	法量(cm)	器面調整等	胎土	色調・焼成	出土地点	備考
22図 181	壷	口径14.9	内外口縁部ヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒若干含む	内外とも淡緑灰色（自然釉） ・良好	ミゾ	
〃 182	〃	口径19.5	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ	0.5～1㎜大の小石・石英粒やや含む、0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒含む	内外緑灰色・濃灰色、内外自然釉 ・良好	ミゾ	
〃 183	〃	口径21.2	内外ヨコナデ	1～3㎜大の小石・石英粒若干含む、0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒含む	外緑灰色 内黄緑灰色 内外自然釉 ・良好	B 2 － 1 ミゾ	
〃 184	〃	口径20.2	内外ヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色砂粒やや含む	外淡緑灰色（自然釉）、内灰色一部黒灰色 ・良好	B 5 － 2	
〃 185	〃	口径21.0	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・板状具の押え後ヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色砂粒やや含む	外灰色・濃緑色(自然釉)、内黄緑色・濃灰色 ・良好	B 4 － 3	
〃 186	〃	口径16.0	内外ヨコナデ	1㎜位の小石・石英粒若干含む、0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外緑灰色、内黒灰色、内外自然釉 ・良好	D 2 － 2	
〃 187	〃	口径18.6	内外ともヨコナデ顕著	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外濃黄褐色、内黄緑灰色、内外自然釉 ・良好	C 3 － 2	
〃 188	〃	口径20.4	内外ともヨコナデ顕著	2㎜大の小石・石英粒若干含む、1㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒含む	外淡緑灰色、内黄灰褐色一部淡緑灰色、内外自然釉 ・良好	B 2 － 3	
〃 189	〃	口径18.0	内外ヨコナデ	1㎜大の小石・石英粒やや多く含む、0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外濃灰色(自然釉)、内淡緑灰色(自然釉)、一部灰色 ・良好	ミゾ	
〃 190	〃	口径21.0	内外ヨコナデ	1㎜大の小石・石英粒若干含む、0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外淡緑色、内灰色、内外自然釉 ・良好	A 2 － 3	
〃 191	〃	口径19.6	内外ヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや含む	外緑灰色、内黄灰色・口縁緑灰色、内外自然釉 ・良好	C 3 － 4	
〃 192	〃	口径27.6	内外ヨコナデ	1㎜大の石英粒やや多く含む、0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや多く含む	外緑灰色一部黄緑灰色、内淡緑灰色、内外自然釉 ・良好	ミゾ	
〃 193	〃	口径17.6	内外ヨコナデ	1㎜大の小石・石英粒やや含む、0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒含む	外灰色 内灰白色（自然釉） ・良好	ミゾ	
23図 194	〃	口径18.0	内外ヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや含む	外黄緑灰色、内黄褐色 ・良好	C 3 － 1	
〃 195	〃	口径23.6	内外ヨコナデ	2～5㎜大の小石・石英粒若干含む、0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや含む	外濃灰褐色 内黄灰褐色 ・良好	D 2 － 1	
〃 196	〃	口径20.2	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	3～4㎜大の小石・石英粒若干含む、0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや多く含む	外淡黄緑灰色(自然釉)一部黄灰色、内黄灰色 ・良好	A 2 － 4 B 1 － 2	
〃 197	〃	口径16.7	内外ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや多く含む	外黄緑色、一部緑灰色、内緑灰色 内外自然釉 ・良好	B 4 － 3	
〃 198	〃	口径16.2	内外ヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや含む	外緑灰色、内濃緑灰色・黄灰色 内外自然釉 ・良好	B 4 － 3	

番号	器種	法量(cm)	器面調整等	胎土	色調・焼成	出土地点	備考
23図 199	壷	口径11.0 最大18.8	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ（?） 内指押え後ヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒含む	外淡緑色(自然釉)一部黄褐色、内黄褐色•黄灰色 ・良好	B 3 − 3 ・ 4	
〃 200	〃	口径12.4 最大24.5	内外口縁部ヨコナデ 外カキ目（ヨコ） 内指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒含む	外緑灰色一部褐色（自然釉） 内淡褐色 ・良好	B 3 − 4 C 5 − 2	押印Ⅳ 1 0 6
〃 201	〃	口径 9.0	外ヨコナデ、内口縁部ヨコナデ・指押え	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外灰色（自然釉） ・良好	B 2 − 1	
〃 202	〃	口径16.6	内外ヨコナデ	5㎜大の小石若干含む 0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや多く含む	外緑灰色・一部黒灰色 内灰色・黒灰色 ・良好	B 3 − 1	
〃 203	〃	口径12.2	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外灰色（自然釉） ・良好	表採	
〃 204	〃	口径12.0	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	内外灰色（自然釉） ・良好	C 2 − 1	
〃 205	〃	口径13.6	内外ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外緑灰色、内褐色、内外自然釉 ・良好	A 2 − 3 C 3 − 1	
〃 206	〃	口径12.2	内外ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外濃緑灰色（自然釉） ・良好	B 3 − 2	
〃 207	〃	口径18.1	内外ヨコナデ	1～3㎜大の小石・石英粒若干含む、0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外緑灰色・一部黒灰色（自然釉） 内灰色 ・良好	A 3 − 4	
〃 208	〃	口径16.6	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	1㎜大の小石・石英粒やや多く含む、0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒含む	外濃緑灰色 内緑褐色 内外自然釉 ・良好	C 6 − 1	
〃 209	〃	口径14.0	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	3㎜以下の小石・石英粒含む、1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外緑灰色 内褐色 ・良好	C 3 − 1 D 4 − 1	
〃 210	〃	口径11.4	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え後ヨコナデ	2㎜大の石英粒やや含む 1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外灰色 ・良好	A 5 − 3	肩部に沈線
〃 211	〃	口径11.2 最大15.3	内外口縁部ヨコナデ 外ヨコナデ・ヘラケズリ後ヨコナデ（？） 内指押え後ヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや含む	内外淡緑色・黄褐色 外自然釉 ・良好	B 4 − 4 D 3 − 2	肩部に2条の沈線
〃 212	〃	口径11.6	内外ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外灰色（自然釉） ・良好	C 2 − 3	
〃 213	〃	口径 8.6	内外口縁部ヨコナデ 内指押え	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外緑灰色、内緑灰色・一部褐色、内外自然釉 ・良好	C 3 − 1 D 4 − 1	
〃 214	〃	口径17.8	内外口縁部ヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色流部・砂粒やや含む	内外とも淡緑灰色（自然釉） ・良好	B 3 − 4	
〃 215	〃	口径17.6	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後タテナデ 内指押え	4㎜位の小石・石英粒若干含む、1㎜以下の黒色粒・砂粒含む	外淡緑灰色、内灰褐色一部褐色 内外自然釉 ・良好	A 1 − 4 A 2 − 3 B 1 − 2	
〃 216	〃	口径17.2	内外口縁部ヨコナデ 内指押え・ヨコナデ	0.5～1㎜大の小石・石英粒やや多く含む、0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外黄灰色一部濃緑灰色（自然釉）、内淡褐色 ・良好	B 2 − 1 B 3 − 3	

番号	器種	法量(cm)	器面調整等	胎土	色調・焼成	出土地点	備考
23図 217	壷		外ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや多く含む	外黒緑色（自然釉)、内淡黄褐色・良好	C３－１	押印Ⅳ１０６ 肩部に４条の沈線
〃 218	〃	底径18.8 最大11.6	外ヘラケズリ後ヨコナデ 内指押え後ヨコナデ	0.5～１㎜大の小石・石英粒やや含む、0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒多く含む	外淡黒灰色 内淡灰色 ・良好	Ｂ２－１　Ｂ２－３ Ｂ３－４　Ｂ４－３ Ｃ２－２　Ｃ３－１ Ｃ３－３	
24図 219	〃	底径11.0	外ヘラケズリ 底板おこし 内指押え後ヨコナデ	１～３㎜大の小石・石英粒やや多く含む、１㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや含む	外淡黒灰色・一部赤黄灰色 内黄緑灰色(自然釉) ・良好	Ｂ３－３	
〃 220	〃	底径13.0	外指によるタテナデ 内指押え後ヨコナデ	１㎜大の石英粒若干含む 0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや含む	外灰色 内灰白色 ・良好	Ｂ３－１	
〃 221	〃	底径11.4	内外ヨコナデ（？）	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや含む	外褐色一部緑灰色（自然釉)、内緑灰色（自然釉） ・良好	ミゾ	
〃 222	〃	底径13.2	外指によるタテナデ 内指押え	0.5㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや多く含む	外灰色一部青灰色(自然釉)内緑灰色(自然釉)内底白緑色 ・良好	Ｃ３－２	
25図 223	鉢	口径31.4 底径13.0 器高14.1	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ 底板おこし後ナデ 内ヨコナデ（？）	５㎜以下の小石・石英粒やや含む、１㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外淡灰褐色 内淡灰色 ・良好	Ａ２－４ Ｂ３－３ Ｃ３－２	おろし目３～６条
〃 224	〃	口径33.6 底径15.0 器高14.1	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ・ヨコナデ 底板おこし、内ヨコナデ	３㎜以下の石英粒やや含む １㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外淡赤褐色 内暗橙色・灰白色 ・良好	Ｂ２－１	おろし目９条
〃 225	〃	口径29.8 底径13.4 器高14.5	口縁端部ヨコナデ 外口縁部板ナデ（？） ヘラケズリ後ヨコナデ 内ヨコナデ	１㎜以下の黒色粒・砂粒含む	外黄灰褐色一部灰色、内灰褐色・一部灰色 ・良好	Ｂ３－４ Ｂ４－３・４ Ｃ３－２	おろし目６条 単位 底で交差
〃 226	〃	口径32.7 底径14.5 器高13.2	外口縁部ヨコナデ・板ナデ（？）・指押え 内ヨコナデ	１㎜以下の白色砂粒・黒色多く含む	外灰褐色・灰色一部淡赤褐色 内灰色（自然釉） ・良好	Ｃ３－１ Ｃ４－１	片口 外面片口下に刻文鉢b_1
〃 227	〃	口径30.2 底径13.0 器高14.4	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ、底板おこし、内指押え・板押え	１㎜以下の白色砂粒・黒色多く含む	内外とも灰褐色 ・良好	Ｂ２－１	内面押印 Ⅳ１０６
〃 228	〃	口径35.4	外口縁部ヨコナデ・板ナデ（？） 内ヨコナデ	２㎜大の石英粒含む １㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒多く含む	内外とも灰褐色一部灰色 ・やや良好	Ｂ３－３ Ｂ４－３	内面押印 Ⅳ１０６ やきゆがみあり
〃 229	〃	口径34.9	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内カキ目・指押え	２㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	外灰褐色 内灰色 ・良好	Ａ５－４	おろし目２条
〃 230	〃	口径30.2	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラ（板）ケズリ	５㎜位の小石・石英粒やや含む、２㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒含む	外灰褐色、内緑灰色（自然釉） ・良好	Ａ２－４	おろし目５条 単位
〃 231	〃	口径31.6	外口縁部ヨコナデ・ヘラケズリ後ヨコナデ 内ヨコナデ	１㎜以下の黒色粒・砂粒含む	外灰色 内淡赤褐色 ・良好	Ｂ３－４	おろし目６条 （？）
〃 232	〃	口径30.8	外口縁部ヨコナデ・ハケ目・ヘラケズリ 内指押え・ヨコナデ	３㎜大の小石・石英粒やや含む、１㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも淡灰色 ・良好	表採	内面口縁部菊花文あり
〃 233	〃	口径31.8	内外ヨコナデ	２㎜以下の黒色粒・砂粒含む	外黒灰色 内灰色 ・良好	Ｂ４－２	おろし目９条 蛇行状に施す
〃 234	〃	口径30.2	外口縁部ヨコナデ・ヘラケズリ又は板ナデ（？） 内口縁部指押え・ヨコナデ・ハケナデ	５～６㎜大の小石・石英粒若干含む、１㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも灰色 ・良好	Ｂ２－３	外面刻文 鉢a_2

番号	器種	法量(cm)	器面調整等	胎土	色調・焼成	出土地点	備考
24図 235	鉢	口径30.9	外口縁部ヨコナデ・ヘラケズリ又は板ナデ・指押え 内ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒含む	外暗赤褐色一部灰色、内赤褐色一部灰色 ・良好	C 3 − 1	おろし目5〜7条 片口
〃 236	〃	口径30.2	外口縁部ヨコナデ・ヘラケズリ 内ヨコナデ	2㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒含む	外淡赤褐色 内灰色 ・良好	B 4 − 3	内面刻文鉢a1 おろし目6条
25図 237	〃	口径30.1	外口縁部ヨコナデ・ヘラケズリ 内ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒やや含む	内外とも暗赤褐色 ・良好	A 5 − 3 C 4 − 3	おろし目6条 (?)
26図 238	〃	口径32.7	外ヨコナデ 内口縁部ヨコナデ・指押え・板ナデ(?)	2㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒多く含む	外赤灰褐色、内赤灰褐色・一部灰色 ・良好	C 6 − 1	おろし目4〜5条
〃 239	〃	口径31.8	外口縁部ヨコナデ・カキ目(?) 内ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒やや含む	外暗褐色 内灰褐色 ・良好	A 2 − 3	おろし目5条
〃 240	〃	口径34.0	外口縁部ヨコナデ・ヘラケズリ 内ヨコナデ	2㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外暗褐色 内淡赤褐色・一部淡灰褐色 ・良好	C 3 − 3	おろし目6条
〃 241	〃	口径30.7	外口縁部ヨコナデ・ヘラケズリ後ヨコナデ・カキ目 内ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒・砂粒多く含む	内外赤灰色・一部淡黄褐色 ・良好	D 3 − 2	おろし目9条
〃 242	〃	口径32.2	外口縁部ヨコナデ・ヘラケズリ後ヨコナデ・板ナデ 内指押え・ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外灰褐色 内灰色(自然釉) ・良好	C 3 − 1	おろし目3条 (?)
〃 243	〃	口径23.0	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ後ヨコナデ 内ヨコナデ・指押え	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外暗赤褐色 ・良好	B 2 − 1	
〃 244	〃	口径32.8	内外口縁部ヨコナデ 外ヘラケズリ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	外灰色 内淡灰色 ・良好	ミゾ	内面押印 Ⅳ101
〃 245	〃	口径18.6	内外ヨコナデ	5㎜位の小石・石英粒若干含む、1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも淡青灰色 ・良好	B 4 − 3	片口
〃 246	〃	底径11.0	外ヨコナデ・ヘラケズリ 内ヨコナデ	1〜5㎜の小石・石英粒・白色砂粒若干含む 1㎜以下の黒色粒含む	外淡灰褐色 内淡灰色 ・良好	C 3 − 1	おろし目7条 不明線刻あり
〃 247	〃	底径13.9	外ヘラケズリ、底板おこし、内タテハケ・ヘラケズリ・ヨコハケ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも灰色 ・やや不良	A 4 − 4	おろし目4条 単位 刻文鉢b1
〃 248	〃	底径13.6	外ヘラケズリ後ヨコナデ・板押え又はヘラケズリ 内ヨコナデ・ヨコハケ	1〜5㎜の小石・石英粒若干含む、1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも灰色 ・良好	C 5 − 2	おろし目7条
〃 249	〃	底径19.4	外板状具によるナデ? 内ヨコハケ・ヨコナデ	2㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも灰色 ・良好	B 2 − 3 B 7 − 3 表採	外面刻文 鉢b1
〃 250	〃	底径13.6	外ヘラケズリ 内ヨコハケ・ヨコナデ	3㎜以下の石英粒・白色砂粒・黒色粒含む	内赤褐色 内淡赤褐色 ・やや良好	A 3 − 3	おろし目5条 (?)
〃 251	〃	底径15.4	外板状具又はヘラによるタテナデ、底板おこし 内底ヨコナデ	3㎜以下の石英粒・白色砂粒含む	外灰色一部淡灰褐色、内淡灰色 ・良好	C 3 − 1	おろし目7条
〃 252	〃	高台径 14.0	高台ヨコナデ 内ヨコナデ	3㎜位の石英粒・白色砂粒やや含む、1㎜以下の黒色粒・砂粒含む	外暗褐色、底淡褐色、内淡灰色 ・良好	A 5 − 4	おろし目9条 (?)

番号	器種	法量(cm)	器面調整等	胎土	色調・焼成	出土地点	備考
26図 253	鉢	口径14.6 底径 9.0 器高 8.4	外ヨコナデ	2㎜以下の白色砂粒やや含む	外褐色 内暗褐色（自然釉） ・良好	ミゾ	
〃 254	〃	口径28.0	内外ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも灰色 ・良好	B 3 − 4	
〃 255	〃	口径27.4	内外ヨコナデ	1〜5㎜大の石英粒・白色砂粒やや含む、1㎜以下の黒色粒含む	内外とも灰色 ・良好	B 2 − 4	
〃 256	〃	口径28.0	内外ヨコナデ	1㎜以下の白色砂粒・黒色粒含む	内外とも灰色 ・良好	B 5 − 1	
〃 257	〃	口径32.2 底径13.0 器高11.3	外口縁部ヨコナデ・指押え・ヘラケズリ、底板おこし(?) 内口縁部指押え・ヨコナデ・カキ目又はヨコハケ	1㎜以下の石英粒・白色砂粒・黒色粒・砂粒含む	内外とも灰褐色 ・良好	表採	

調査区域調査前遠景（北東から）

調査区域掘り下げ前近景（南から）

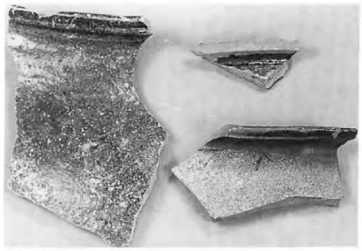
土層断面D－D′（北西から）

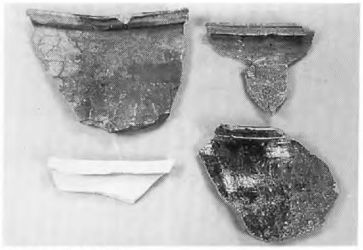
1Aグリッド掘り下げ風景

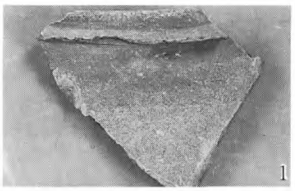
調査区域完掘後近景（南から）

C5－1Gr 下層土器出土状況

3B－4Gr 下層土器出土状況


大甕（A類）

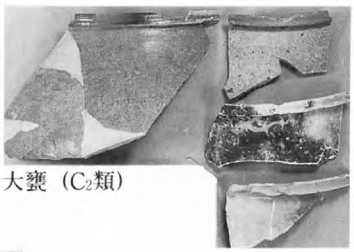

大甕（B類）

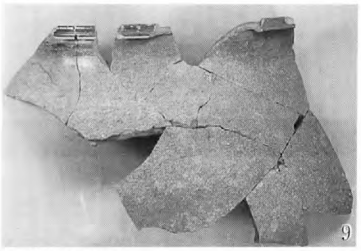


大甕（C_1類）

大甕（C_1類）

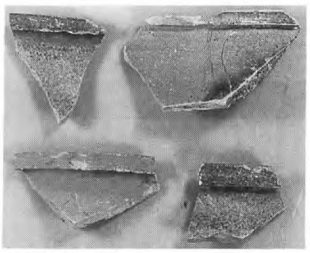
大甕（C_1類）


大甕（C_2類）

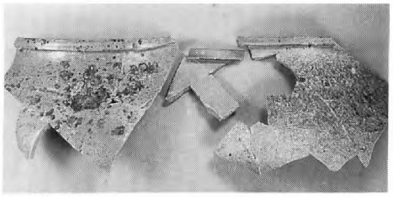


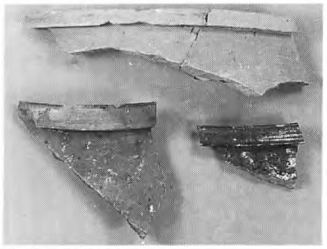
大甕（C_3類）

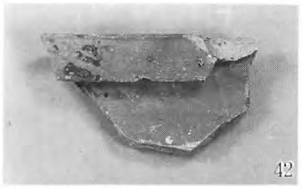
大甕（C_3類）


大甕（D_1類）

大甕（D_2類）

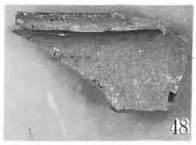

大甕（D_3類）


大甕（E類）



大甕（F類）

中甕（A類）



中甕（B類）

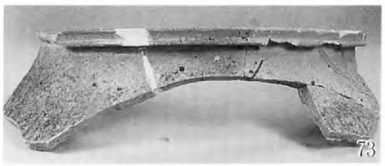
中甕（B類）

中甕（B類）

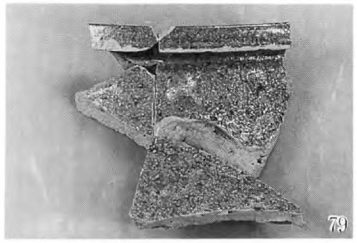
湯上谷古窯跡灰原出土甕

中甕（B類）

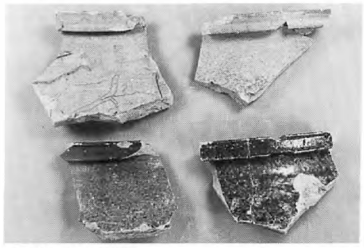
中甕（C_2類）

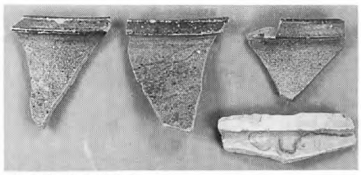


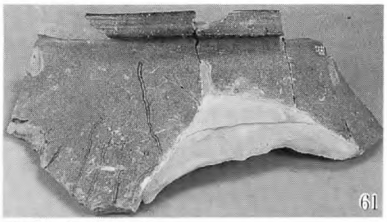
中甕（C_3類）



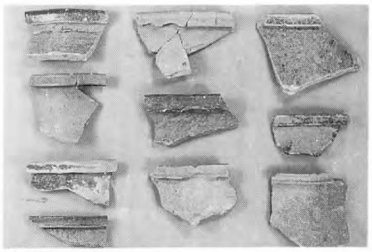
中甕（D_1類）

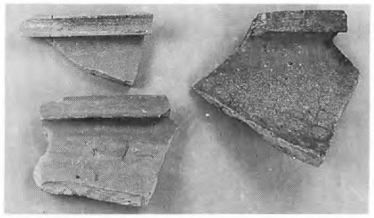

中甕（D_3類）

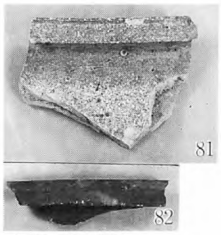

中甕（C_1類）



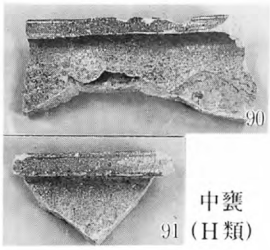
中甕（C_3類）


中甕（C_3類）


中甕（D_2類）



中甕（E類）

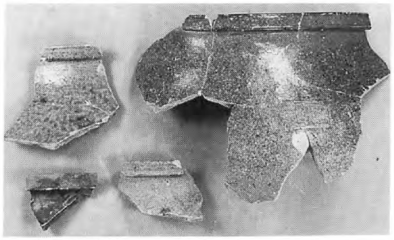


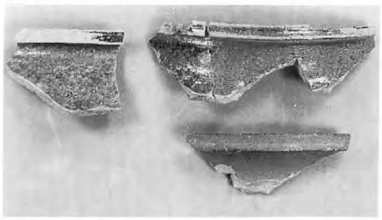
中甕（H類）

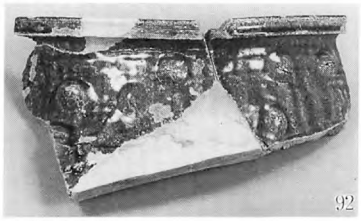
中甕（C_1類）

中甕（D_3類）

中甕（D_3類）

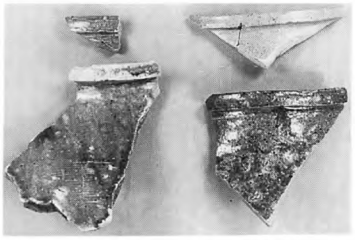

中甕（F類）


中甕（G類）



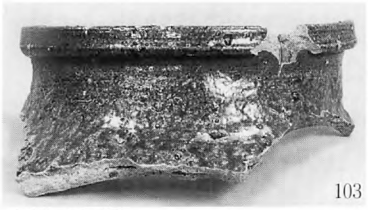
中甕（H類）

湯上谷古窯跡灰原出土甕

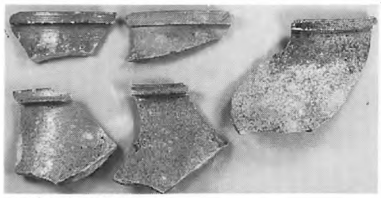


小甕（B類）

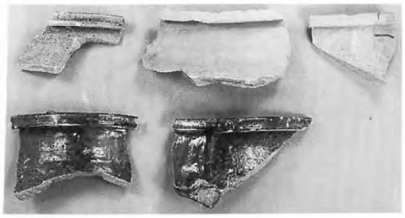
小甕（C_1類）



小甕（C_1類）



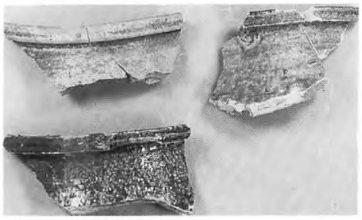
小甕（C_2類）



小甕（C_3類）

小甕（D_1類）

小甕（D_1類）



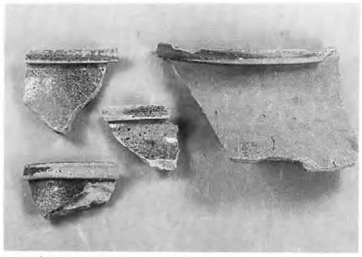
小甕（D_2類）

小甕（D_3類）

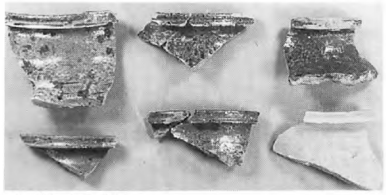
小甕（F類）

小甕（D_3類 押印Ⅳ106）

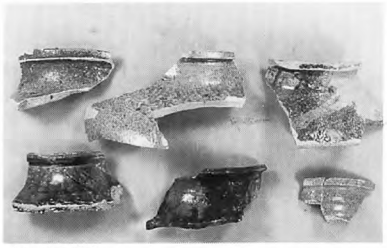
小甕（H類）



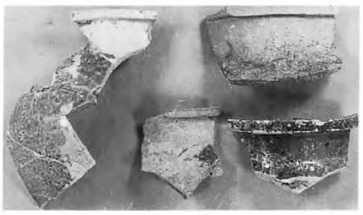
小甕（F類）



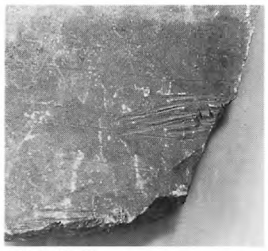
小甕（G類）



壺（E類）



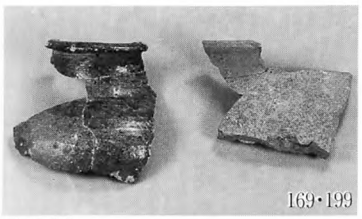
壺（E類）



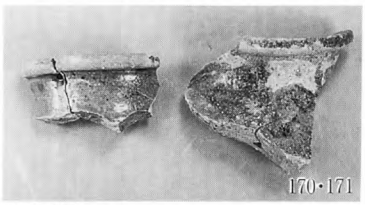
2の部分

湯上谷古窯跡灰原出土甕・壺

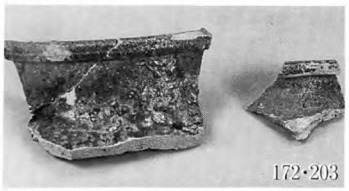
壺A類



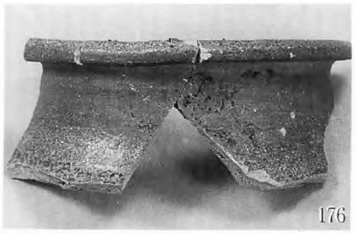
壺A類



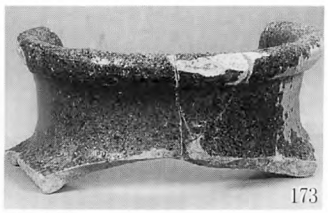
壺B_1類



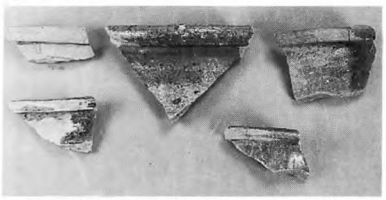
壺B_2類



壺B_2類

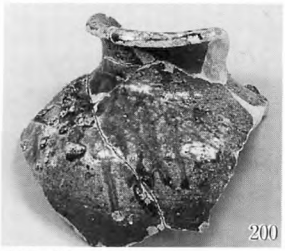


壺B_2類

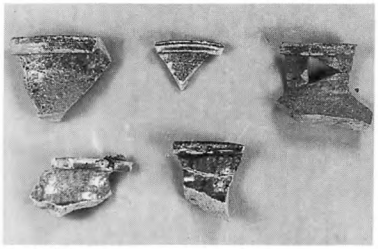

壺B_2類

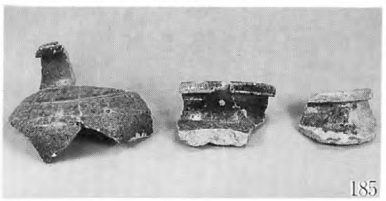
壺C_1類

壺C_1類

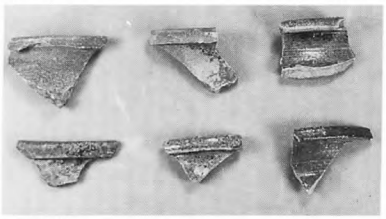


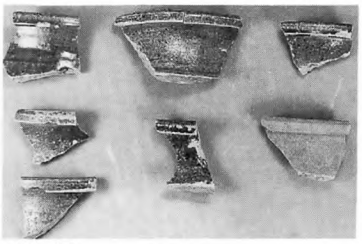
壺C_1類

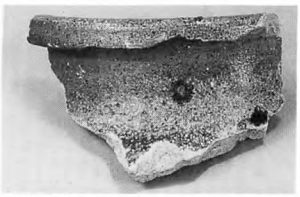

壺C_1類



壺C_1類


壺C_2類


壺C_2類


壺C_2類

壺C_2類

湯上谷古窯跡灰原出土壺

壺D類

壺D類

壺D類

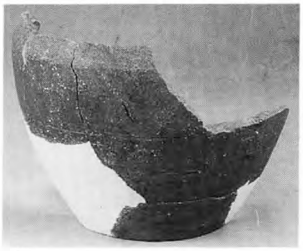
壺D類

壺D類

壺E類

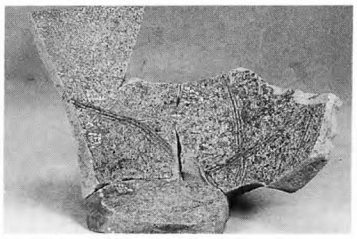
壺 その他 214

壺E類

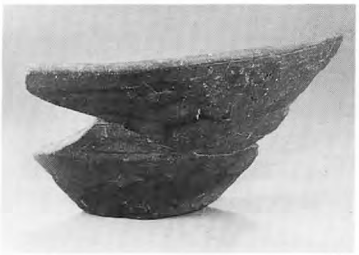


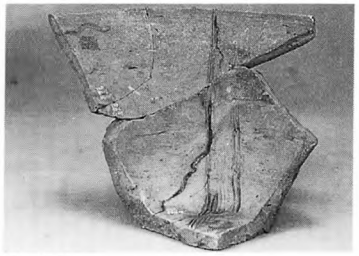
壺

壺

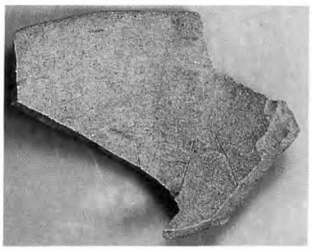


鉢A類 223





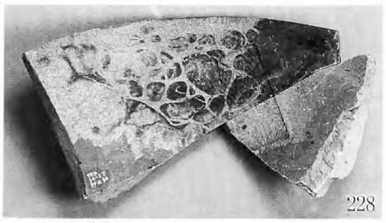
鉢A類 224



鉢A類 257

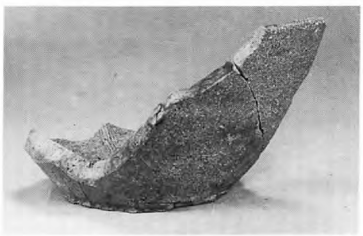
湯上谷古窯跡灰原出土壺・鉢

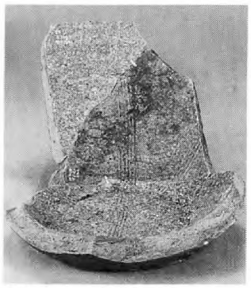
鉢A類



鉢B類 押印Ⅳ106

鉢B類



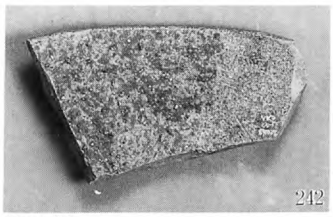


鉢B類 225

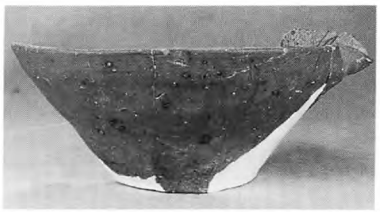
鉢B類

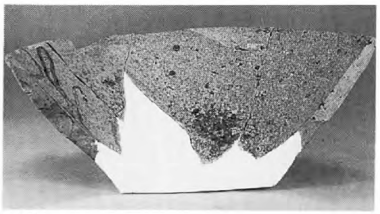
鉢B類

鉢B類

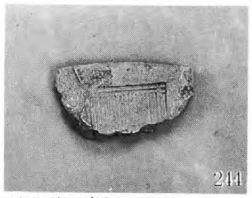


鉢B類



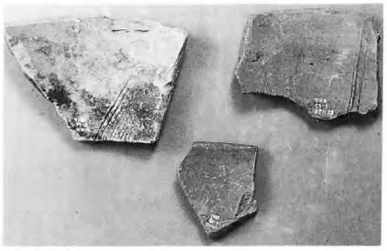


鉢C類 226

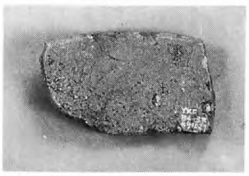


鉢B類 押印Ⅳ101

鉢C類



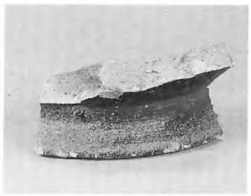
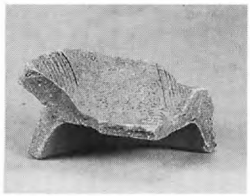
鉢C類



鉢B類 245

湯上谷古窯跡灰原出土鉢

鉢C類　253

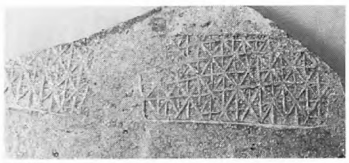
鉢 252（b類）

鉢 249（I類）

鉢D類　254・255・256

押印

I 101

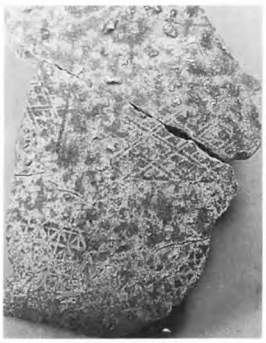


I 201

I 301

I 202

I 302



上 I 301・下 I 201

I 203

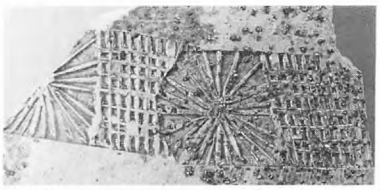
I 303

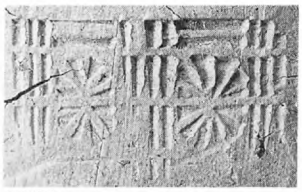
湯上谷古窯跡灰原出土鉢・押印

II 101

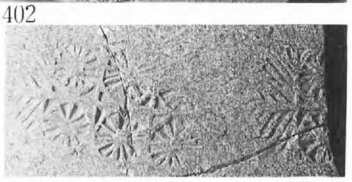
II 211

II 401


II 201

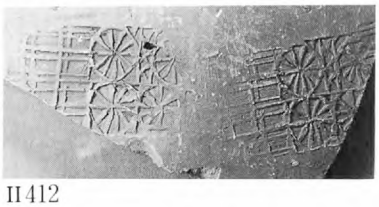

II 221

II 402


II 411

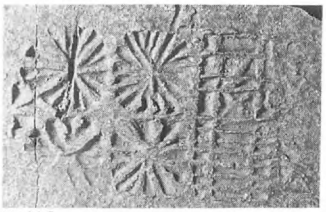
II 202

II 231


II 412

II 203

II 301


II 413

II 414

III 101

III 201

III 301

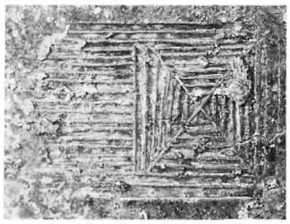
III 302

III 102　下IV 102

III 202

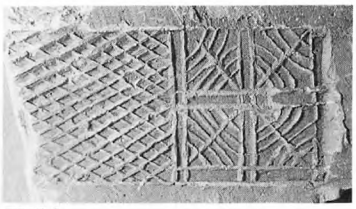
III 303

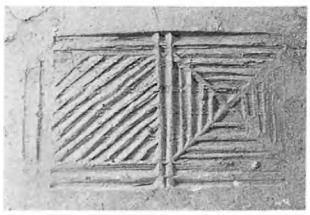
湯上谷古窯跡灰原出土押印


Ⅳ101

Ⅳ105

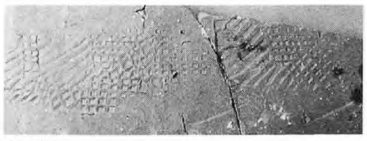
Ⅳ211


Ⅳ106


Ⅳ102

Ⅳ212

Ⅳ107


Ⅳ301

Ⅳ103

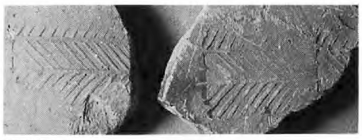
Ⅳ201

Ⅳ302

Ⅳ104

Ⅳ202

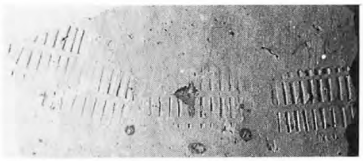
Ⅳ401


Ⅳ402

Ⅳ403

Ⅵ101

湯上谷古窯跡灰原出土押印


V 101

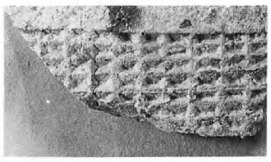
V 203

V 221

V 102

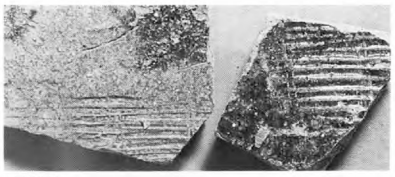
V 204

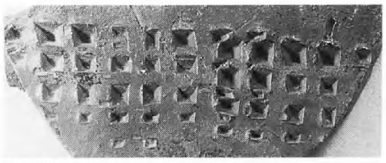
V 111


V 211

V 301

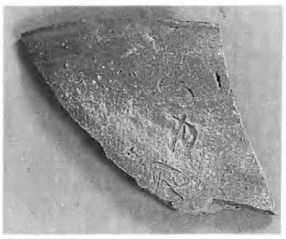
V 201


V 202


V 302

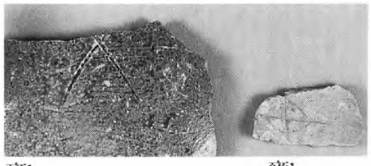
刻文

鉢a_1


鉢a_2

鉢b_1

甕a_2　甕a_{1-1}　甕a_{1-2}


甕b_1　甕b_2

湯上谷古窯跡灰原出土押印・刻文

湯上谷古窯跡
発掘調査報告書

平成2年3月20日 印刷
平成2年3月31日 発行

編集・発行　石川県小松市教育委員会
石川県小松市小馬出町91番地
〒923　電話0761（22）4111

印　　刷　マルト印刷工業株式会社